

平成28年度
事業報告書

社会福祉法人
名古屋市身体障害者福祉連合会

平成28年度事業報告

平成28年度、社会福祉法人名古屋市身体障害者福祉連合会（以下、名身連）では下記の重点計画事項に基づき、サービス提供やプロジェクトチーム（以下、PT活動）において取り組みました。

1. 事業活動（利用者サービスの向上）
2. 人材育成
3. 地域貢献活動
4. 収益性の向上
5. 啓発および広報活動
6. 法令遵守と透明性の確保
7. 中・長期計画

各項目についての具体的な取り組みに関しては、目標を定め実施しました。

（詳細は、別添資料参照）

平成28年度 事業計画取り組み表

重点計画事項		現状・課題	平成28年度目標			平成28年度取り組み結果																									
			担当部署	目 標	達成率																										
1 事業活動（利用者サービスの向上）	プロジェクト	利用者満足度の調査の実施	法人全体で統一して実施した利用者満足度調査を引き続き実施し、更なるサービス向上を目指します。特に自由記載について利用者とのコミュニケーションが不足している部門があります。	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・定点一斉アンケート、退所時アンケートを実施 ・より多くの意見を引き出しコミュニケーションを図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに事務局も来訪者を対象にアンケートを開始 ・聴言センターは対象をエンドユーザーに変更しサンプル数が見込まれる時期に実施 ・ヘルパーセンターは全利用者に対象を拡大 ・自由記述について 全てのご意見に対しての回答 100% 多くの方々からご意見をいただきやすい関係づくりを行った結果、昨年度より自由記述が倍増 自由記述 127件 (27年度 67件) アンケート回収率 (サンプル数/配布数) 事務局 81% (30/37) 熱田基幹 100% (5/5) 中村基幹 100% (10/10) 第一相談 100% (14/14) 第二相談 100% (10/10) 第一移行 100% (2/2) 第一B 88% (29/33) 第二B 89% (16/18) 第一有 85% (11/13) 第二有 94% (15/16) 第一無 85% (23/27) 第二無 89% (41/46) 聴言 55% (6/11) ヘルパーセンター 47% (115/246) (別紙資料①) 																									
		福祉サービス第三者評価の受審及び全部門への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・第一ワークス・デイサービス生活介護にて受審準備が整ったので受審します。 ・サービス提供の仕組みについて全部門で体系化が不十分です。 	第一ワークス・第一デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価の受審を行います。 ・全部門へ反映します。 	80%	調査機関：株式会社中部評価センター 日程：29年3月7日 結果：別紙資料②																								
		利用者ステップアップの向上	当法人は多機能施設である利点を有しており、ステップアップ会議を開催することで、情報共有等を図ることとその有効性が確認されたので、今後も継続して取り組みます。	就労移行・就労継続B型・生活介護	利用者の施設移行を活性化するためのケース検討会議を一か月に1回開催します。	70%	ケース対象者14名 内訳 無→有 2名 有→継続B 2名 継続B→移行 5名 移行→継続B 1名 取下げ4名 (平成27年度 対象者22名 無→有 8名 有→継続B 6名 継続B→移行 3名 継続B→有 1名 取下げ3名 新規1名)																								
		就職率、及び定着率の向上	就職者を輩出することで定員に空きが出やすいことが課題です。	第一就労移行支援	利用期間2年間で就職率100%のうち1年間で50%を目指します。6ヶ月以上の継続就労期間100%を目指します。	100%	就職した利用者 3名で、全員6ヶ月以上継続就労しています。 1. 業種：製造業 職種：作業 障害：精神 2. 業種：社会福祉 職種：事務 障害：肢体 3. 業種：医療 職種：軽作業 障害：肢体																								
		利用者工賃の向上	印刷、縫製など自主製品への取り組みが不十分です。その結果、利用者工賃が伸びていません。	第一、第二就労継続B型	<ul style="list-style-type: none"> ・自主製品の種類を増やすとともに販売を強化します。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自主製品の開発のため新キャラクターの募集をし「ふくにゃん」が登場 第一WD：ポーチの開発 第二WD：メモ帳とクリアファイルを作成し販売（クリアファイルの裏面には手話一覧、点字一覧表を掲載して、手話、点字の普及につなげ、福祉教育にも役立つような製品作りを行いました。） ・第二WDは点字用紙の廃材を利用しパッケージを製作、販売をはじめさらに新たな製品の開発を進めています。 ・販路を広げる取り組み（あつた朔日市・フェアトレードタウンの取り組みに参加 <p>工賃状況 (平均年間工賃額)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第一WD</th> <th>第二WD</th> <th>愛知県平均工賃額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>16,347円</td> <td>17,338円</td> <td>29年9月頃</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>16,246円</td> <td>15,564円</td> <td>15,041.2円</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>11,617円</td> <td>16,836円</td> <td>15,916.7円</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>7,627円</td> <td>15,519円</td> <td>15,318.0円</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>18,050円</td> <td>11,652円</td> <td>15,201.0円</td> </tr> </tbody> </table>		第一WD	第二WD	愛知県平均工賃額	28年度	16,347円	17,338円	29年9月頃	27年度	16,246円	15,564円	15,041.2円	26年度	11,617円	16,836円	15,916.7円	25年度	7,627円	15,519円	15,318.0円	24年度	18,050円	11,652円	15,201.0円
			第一WD	第二WD	愛知県平均工賃額																										
28年度	16,347円	17,338円	29年9月頃																												
27年度	16,246円	15,564円	15,041.2円																												
26年度	11,617円	16,836円	15,916.7円																												
25年度	7,627円	15,519円	15,318.0円																												
24年度	18,050円	11,652円	15,201.0円																												
リスクマネジメントの向上	アクシデント、ヒヤリハットの検証	法人本部	月1回事例検証の実施		報告・検討内容 転倒や外傷などのアクシデント：6件 施設の不備や感染症に関するものなどのヒヤリハット：5件 個人情報の取扱いなどその他に分類される事項：18件 危険予知に関して職員の気付きを高められるよう、次年度は外部講師に依頼しKYT(危険予知トレーニング)活動を取り入れる予定です。																										
24時間体制の整備	手話通訳者・要約筆記者の派遣において24時間体制が整備されていません。	聴言センター	平成28年度からの実施を目標に取り組みます。		手話通訳者派遣の24時間派遣「救急搬送時における手話通訳者の派遣」（実施主体：名古屋市）について名古屋市・聴覚障害当事者団体・名身連で体制を整備し28年6月より実施。実績2件。制度開始間もないこともあり、まだ件数は少ないが、聴覚障害当事者より「24時間派遣制度なので安心して暮らせる」との声が寄せられています。要約筆記者派遣の方は未整備ですので、29年度に取り組みます。																										
職員・ヘルパーの資質向上	他事業所と併用して活動するヘルパーも多く、新規ヘルパー登録の必要性は高く、ヘルパー職員の資質向上、重度の利用者に対応できるヘルパーへの指導も必要です。	ヘルパーセンター	ガイドヘルパー資質向上研修の実施(年2回・全員対象) 新規ヘルパーに対する実習・個別指導を実施します。	100% (いづれも実施できました)	28年度に初めて同行援護養成研修会を開催 定員30人のところ受講者21名 内現任ヘルパー12名/117人中 新規ヘルパー4人登録																										
特定相談支援事業と障害者基幹相談支援センター相談員の資質向上	平成25年度から、特定相談支援と基幹相談支援センターの職員は、機能別会議を通して、個人研究や専門研究に取り組んできました。その成果を活かし法人内部のチーム力を高めることと、福祉人材の育成を今年度の柱として事業を運営していきます。	相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員の資質向上 		資質向上のため各人が下記のテーマで取り組みを行い、29年度の職員研修で発表します。 「加齢により能力低下を起こしている障害者の就労について考える。」 「ICFの活用について」 「組織内の希薄化について」 「一人暮らしをしている障害者の、災害時の対応について～事例を通じて考察する～」 「地域で一人暮らしをするAさんの仮想社会関係図の作成」 「親亡き後の意識調査」																										

重点計画事項		現状・課題	平成28年度目標			平成28年度取組課題・取り組み内容
			担当部署	目 標	達成率	
2 人材育成	人材育成の基本方針の策定	人材育成は当法人の健全な運営及び良質なサービスを提供するための取組の一貫として位置づけられます。短期的な即戦力の要請としてだけでなく、中長期的な組織基盤構築の方策として捉えられるため、人材育成を組織運営の視点でどのように取り組むのか整理します。	法人本部	・法人全体として抱えている課題（中長期的な課題）組織的課題について検討し、人材育成を取り巻く課題について整理します。 ・人材育成の仕組みについて検討します。	100%	(1) 内部研修 ①管理職研修 5回 ②新人研修 20回 ③全体研修 3回 (2) 外部研修 (別紙資料③) (3) OJT キャリアパスの構築に今後取り組みます。
	資格取得の促進及び自己啓発	法人運営に必要とされる資格取得を促進すると共に、資格更新が必要なものに関して管理する事が求められています。	法人本部	・初任者研修1人以上/年受講 相談支援専門員の数を増加します。 ・精神保健福祉士・社会福祉士 ・介護福祉士等の有資格者を増やします。		・相談支援専門員初任者研修受講者 2名 ・相談支援専門員現任研修受講者 3名 ・社会福祉士資格 取得職員 1名 ・介護福祉士資格取得 4名 ・要約筆記取得 2名
	QC活動の強化	QC活動は定着し、QC第2、第3世代の取り組みに発展していますが、対策立案に弱点があります。	法人本部	QC発表会年1回開催	100%	3つ項目について取り組みました。 ①QC活動を行い、29年6月に発表会を開催します。 28年テーマ 事務局：「障がいがあることを理由にできないことを実現するツアーを企画する」 ヘルパーセンター：「請求事務をスムーズにするためには」 第一WD就労移行・B：「利用者支援の一環としてのレクリエーションのあり方」 第二WD就労B・生産あり：「ボランティアさんが気持ちよく活動するには」 第二WD生産なし：「内容のある支援にしよう」 聴言センター：「メールの漏れをゼロにする」 基幹支援センター：「個人研究」 第一・第二相談：「親亡き後の意識調査」 ②過去に各セクションで取り組んだテーマの定着状況について確認を行いました。平成25年～27年に取り組んだ各セクション28テーマのうち、ほぼ半数以上は定着できていることが分かりました。 ③QCサークル活動に関する理解を深める為のQC学習強化について、各セクションよりQC活動についての困りごとを募集し、カテゴリー分けを行いました。その困りごとで答える形式で、QC座談会の企画を行いました。座談会はマネージャーに司会をお願いし職員3名が登壇者としてQC活動成功の秘訣（解決へのイメージ作り）やQC手法を事例を交えながら参加者全体で理解を深めました。職員全員参加に至らなかったのが今後の課題です。
3 地域貢献 活動	地域福祉の増進	これまでも実施してきた公益事業をより強化し地域福祉の貢献と増進を行います。	事務局	当事者活動、新規会員の獲得等の課題があるため、引き続き継続します。		地域の障害者の現状を改善するため、会長・常務理事を中心に議論を進めると共に協会長・部会長会議においても取り組みました。さらに議論を進めていきます。
				これまで以上に参加者を増やします。		障害者の社会参加を目的に作品展を開催し年々応募者が増えています。（別紙資料④）今後は発展させていくために芸術活動の先進地域である滋賀県へ出向きました愛知県でも行われたアートブリュット展も参考に発展方策を検討しました。関係機関からご意見やアイデアを伺うことができたので、今後何をどのように進めていくか具体的な計画を進めていきます。
4 収益性の 向上	各事業の重点実施事業	社会福祉法人は、社会福祉事業という公益性の高い事業を安定的・継続的に経営していくことが求められています。平成22年度以降法人全体の当期活動収支差額は、順調に推移している一方で、それぞれの施設を見てみると、複数年に渡り赤字が継続している部門があります。平成21年度に生じた収益事業の赤字補填の為、収益事業（旅行事業・売店事業）においては、継続的に収益を出していく必要があります。また、第一ワークスと福祉センターの大規模修繕及び消費税増税に向け、更なる経営基盤の強化が必要となります。	利用者確保	利用者確保のため説明会の開催や関係機関への訪問等を行い関係づくりを築きます。		現況説明会開催 7月：病院 ケアマネージャー いきいき支援センター対象 熱田24名（内訳病院9名 ケアマネ14名 いきいき支援センター 2名） 中村32名（内訳病院9名 ケアマネ10名 いきいき支援センター 13名） 3月：特別支援学校 相談事業所 基幹相談支援センター 職安 病院 行政対象 27名（内訳 相談事業所7名 基幹支援センター4名 区役所2名 職安3名 病院7名 特別支援学校3名 事業所1名） 訪問：第一赤病院・大菅病院・城西病院・名鉄病院・坂種病院・共立病院の地域医療連携室 情報交換会：中川区居宅介護支援事業所 情報提供：鶴飼病院 電話による情報提供：中部労災病院・協立病院・セントラル病院・熱田リハビリテーション病院
			第一生活介護	1日あたり利用者数20名/定員20名を目指します。 (前年度平均20.7名)	100%	利用状況（別紙資料⑤）
			第二生活介護	1日あたり利用者数40名/定員38名を目指します。 (前年度平均34.7名)	86%	・有の生産活動の中で販売活動を、売店から外部の出張販売へ繋げるプログラムとして整備 ・無の利用者を対象に自立と社会参加を目指して、社会生活力プログラムを開始 希望者：8名 内5名がモジュール「外出」に取り組みました、全10回の学習やグループワークを行い外出を実施しました。 利用状況（別紙資料⑤）
			第一就労継続B型	1日あたり利用者数24名/定員24名を目指します。 (前年度平均21.8名)	100%	・就労意欲向上に向けたプログラムの実施 就労移行と合同で名身連から就職した先輩の職場訪問を実施。29年度には数名就労移行へサービスを変更する利用者が数名見込まれています。 利用状況（別紙資料⑤）
			第二就労継続B型	1日あたり利用者数20名/定員17名を目指します。 (前年度平均13.1名)	85%	利用状況（別紙資料⑤）
			第一就労移行支援	1日あたり利用者数6名/定員4名を目指します。 (前年度平均3.2名)	50%	利用状況（別紙資料⑤）
			聴言センター	2講座(70時間)開講します。		レベルに応じた独自の手話講習会の開講 ろう講師が指導する「ろうネイティブコース」、新たな試みとして短期間で体験できる「ろうネイティブお試しコース(3回)」を2講座開講。 参加状況（別紙資料⑥）
			ヘルパーセンター	新規利用者20名を目指します。		新規利用者獲得の状況 利用者・ヘルパー・派遣の状況（別紙資料⑦） 新規利用者：21名 契約解約者：25件
事務局	名身連独自のツアーを充実します。 5回/年	200%	独自企画のツアー内容と参加状況（別紙資料⑧）			

重点計画事項		現状・課題	平成28年度目標			平成28年度取組課題・取り組み内容
			担当部署	目 標	達成率	
5 啓発および広報活動	プロジェクト 広報・啓発活動の強化	外部にむけての啓発および広報活動を活発化し、障害者理解を進めるとともに、人材確保の一助とします。	ホームページ	4月リニューアル発信		新しいホームページ開設後、大変多くのニュース（新着186本）を発信することができました。 事務局：38本 旅行センター：19本 ヘルパーセンター：5本 第一WD：24本 第二WD：32本 聴言：39本 基幹：16本（熱田 9本 中村 7本） 全般：13本 名身連物語：8本 障害者理解動画：1本 広報紙の発行 事務局：名古屋身障 10回 第一WD・第二WD：名身連通信 4回 聴言：デイバイデイ 4回
			広報（事務局・第一・第二生活介護）	4月～検討 8月～実施		
	後援会の見直し		講師派遣等（全体）	4月から随時 2か月に1回実施	300%	講師派遣依頼研修（別紙資料⑨） 大学・学校：7件 行政・福祉：6件 企業：4件 派遣日数34日 雇用管理アドバイザー（別紙資料⑨） 企業：2件 派遣日数2日
			法人本部	後援会活動が十分でないため、外にむけての活動とともに進めます。	0%	会員の状況 28年度：15名 27年度：21名 26年度：9名 25年度：6名 24年度：14名 後援会のあり方について検討します。
6 法令遵守と透明性の確保	新会計基準	法令遵守を怠ることは、法人の信用を損ね、その事業を利用する方へも影響します。また、社会福祉法人は、公益性の高い法人であり、経営状態を公表し経営の透明性を確保していくことは重要な責務です。	法人本部	平成26年度より移行しています。無駄を無くし、スムーズな運用を目指します。		社会福祉法人の制度改革に伴いより良い法人運営を目指し以下のことを見直し ・本来必須ではない会計監査人を設置 ・評議員選任・解任委員会の設置 ・定款の変更 ・会長専決規程の変更 ・代決規程の変更 ・就業規則の変更 ・非常勤職員就業規程の変更 ・給与規程の変更 ・経理規程の変更 ・資金運用規程の制定 ・育児・介護休業等に関する規則 ・妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント及びセクシュアルハラスメントの防止に関する規程
	組織体制	社会福祉法人の情報は、福祉サービスの利用を希望する方にとって、サービスを選択する上で重要な判断材料となるため、経営等の透明性を確保することが重要となります。	法人本部	組織体制や会計など透明性をはかります。		
	個人情報保護	プライバシーポリシーや個人情報保護規程は策定済みですが、安全管理についてよりきめ細かな実施がてきよう努めます。	法人本部	安全管理の充実		
7 中・長期計画	建物修繕及び車両の買い替え計画	昭和59年に名身連第一ワークスを開所、平成4年に名身連福祉センターを開所し、どちらの施設も経年劣化が進んでいる状況です。修繕については、長期計画というものを作成しておらず、故障箇所をその都度修理しています。物品購入についても同様	法人全体	助成金・補助金で検討		車両：愛知県共同募金会（第二WDで車いす対応乗用車） Wi-Fi環境整備：あいちPSM協力会（福祉センター） 防犯設備の整備：名古屋市（第一WD（4台）と福祉センター（7台）に防犯カメラ及び防犯ベルを設置）
	生産設備の導入		第一就労継続B型 第二就労継続B型	印刷対応パソコンの入れ替え、印刷機や点字プリンタ、ミシンの購入等		第一就労継続B型：本縫いのミシン 1台 第二就労継続B型：卓上製本機（作業単価を上げる、利用者のモチベーションを高める） ：パソコン環境の構築（業務に支障がでないよう改善）
	短期事業計画の進捗管理	28年度の事業計画の進捗管理を行います。	法人本部	月1回主任以上の参加により開催		各部署の課題や問題点等について全体で共有し意見交換等を行いました。今後は課題や問題点等について改善・解決していく場となるよう進めていきます。
	中長期計画の策定	名身連の中期・長期計画がないため、今後の法人運営をふまえて作成する必要があります。	法人本部	中長期計画の基本計画を策定します。		事業理念に基づき、経営ビジョン、経営目標の設定及び環境分析を行い、経営戦略に基づいた財務管理・サービス管理・収益管理・組織管理・人事管理等の具体的な取り組みを検討しました。その内容を指標で表すとともに文章化していきます。
	法人本部会議	法人経営について検討します。	法人本部	法人経営について検討します。		法人全体の問題について議論を行いました。議論の結果、必要に応じて各会議（理事会・評議員会・管理者会議・職員会議等）へ繋げていきました。

平成28年度 事業計画取り組み表

重点計画事項		現状・課題	平成28年度目標			平成28年度取り組み結果と課題	
			担当部署	目 標	達成率		
1 事業活動（利用者サービスの向上）	プロジェクト	利用者満足度の調査の実施	法人全体で統一して実施した利用者満足度調査を引き続き実施し、更なるサービス向上を目指します。特に自由記載について利用者とのコミュニケーションが不足している部門があります。	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定点一斉アンケート、退所時アンケートを実施 ・ コミュニケーションの向上 	アンケート回収率 事務局 81% 熱田基幹 100% 中村基幹 100% 第一移行 第一B 88% 第一有 85% 第一なし 85% 第二B 89% 第二有 94% 第二無 89% 聴言 55% ヘルパーセンター 47%	利用者満足度PTは平成28年度を通じて6回のPT会議を開催しました。新たに事務局も来訪者を対象にアンケートを開始し、聴言センターは対象をエンドユーザーに変更しサンプル数が見込まれる時期に実施、ヘルパーセンターは全利用者に対象を拡大するなど、より中身の濃い満足度調査を目指し、定点アンケートを行いました。しかし、聴言センターにおいてはサンプル数は前年度4→6と大幅な増加はみられず、ヘルパーセンターでは、ガイドヘルパーとのコミュニケーション不足の問題が明らかになるといった反省点も残りました。退所時アンケートについては、退所の理由の多くが法人内でのステップアップであることから、忌憚のない意見をお聞きするという目的を達することができず、次年度への課題となりました。 定点アンケートも3回を終え、PTメンバーから、設問内容を見直して、利用者の真情に更に迫りたいという意見も出てきていることから、29年度には中身を再検討し、利用者満足に直結するようなアンケートをめざすことも課題です。さらに支援者が日常の利用者との関わりにおいて行ったサービス提供が利用者満足のアップにつながったと思われる事例をPT内で共有する取り組みも行いました。こうした取り組みを通じて、アンケートを実施するだけでなく、利用者満足度の向上に寄与できる人材を育成する場になることを目指していきます。
		福祉サービス第三者評価の受審及び全部門への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一ワークス・デイサービス生活介護にて受審準備が整ったので受審します。 ・ サービス提供の仕組みについて全部門で体系化が不十分です。 	第一ワークス・第一デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者評価の受審を行います。 ・ 全部門へ反映します。 	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/23 全体会 書類精査 (NO.1～NO.30) ・ 5/28 全体会 書類精査 (NO.31～NO.67) ・ 6/25 全体会 具体的な支援の実施についての勉強会 ◇第一生活介護にて実際の支援について新たな取り組みを実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援進捗状況表 ・ 作業振り返り表 ・ 利用者懇談会 等 ・ 12/26 中部評価センターと契約締結（評価機関の比較、選定はH27年に完了） ・ 1/11 受審にむけての事前研修受講 ・ 1/17 利用者、家族アンケート配布 個人情報閲覧者決定 同意書配布 ・ 2/20 自己評価実施、結果提出 ・ 3/7 訪問調査 4月以降 評価結果が出た後、評価結果の取りまとめ、意見があれば意見書の提出、評価結果の公表を実施する。 さらに受審結果をもとに ①良い点はさらに高める、指摘を受けた点は具体的な目標を掲げ改善し更なるサービス向上を目指す。 ②今回得た、サービス向上への具体的課題の共有、知識やサービスを実施するにあたっての考え方、職員の自覚や意欲改善など他セクションへ波及させる。
		利用者ステップアップの向上	当法人は多機能施設である利点を有しており、ステップアップ会議を開催することで、情報共有等を図ることとその有効性が確認されたので、今後も継続して取り組みます。	就労移行・就労継続B型・生活介護	利用者の施設移行を活性化するためのケース検討会議を一か月に1回開催します。	70%	4月 5月 6月 7月 8月 10月 12月 2月 3月 9回のケース会議を開催。 ケース対象者14名（内訳 完全移行 7名 部分移行 3名 移行せず 3名 退所 1名（平成27年度対象者22名であったため減っている。））今後は、利用者が最善なセクションにて支援を受けられるよう移行が滞る阻害要因の解析・改善に取り組む。PTにて取り組んだことを各セクションに周知し実践する。
		就職率、及び定着率の向上	就職者を輩出することで定員に空きが出やすいことが課題です。	第一就労移行支援	利用期間2年間で就職率100%のうち1年間で50%を目指します。6ヶ月以上の継続就労期間100%を目指します。	100%	平成28年度に就職した方は3名で、全員6ヶ月以上継続就労しています。定着率向上に向けてジョブコーチ支援の活用をしている方は2名です。1名はジョブコーチ支援が活用できない事業所（独立行政法人）でした。定着支援は施設職員がジョブコーチと連携しながら職場訪問や電話相談等を行いました。 課題として、利用者の中に食事や手洗いで一部介助の必要な方がいますが、在宅就労ではなく企業へ出勤し働くことを希望しています。現在一部介助を行っていただけた事業所の求人はほとんどなく、ハローワークや事業所見学时に一部介助をしてもらえるような事業所の開拓が必要かと思われます。
		利用者工賃の向上	印刷、縫製など自主製品への取り組みが不十分です。その結果、利用者工賃が伸びていません。	第一、第二就労継続B型	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主製品の種類を増やすとともに販売を強化します。 		自主製品の開発をする中で、従来の招き猫ではいろいろと制約があり開発がし難い状況でした。工賃アドバイザーの紹介でクラウドソーシングによる新キャラクターの募集を実施、新キャラクターの命名をホームページ等にて一般公募し、名身連の新キャラクター「ふくにゃん」が登場しました。 自主製品として第一ではポーチをデザイン会社のアドバイスを受け、ファスナー等部品の変更等をしていきます。また、第二ではメモ帳とクリアファイルを2種作成しました。クリアファイルの裏面には手話一覧、点字一覧表を掲載して、手話、点字の普及につなげ、福祉教育にも役立つような製品作りにも取り組みました。アイテム数がまだまだ少ないので、今後も新製品開発に力を入れていきます。また、点字用紙の廃材を利用しパッケージを製作、販売をはじめ、さらに新たな製品の開発を進めています。並行して販売機会を増やせるように販路の拡大も目指していきます。 販売先として、27年度から参加しているあつた朔日市での販売が定例化し、多くの方に見ていただける環境を作ることができました。また、市内でも活発化してきているフェアトレードでも新たな販路の一つとなるよう進めています。軽作業では、取引先の倒産や事業所移転に伴い、受注量が大幅に減少しました。印刷部門についての営業内容では、官公需の受注機会を増やすために、障害者就労施設等から優先的に物品等を調達するよう努めるという「障害者優先調達推進法」を活用して、週2回以上の営業活動を市役所、県庁などに対して行いました。官公庁のなかでも優先調達について積極的に活用している部署は少ないと感じていますが、制度が浸透していくなかで、案件を取りこぼさないように引き続き営業体制を強化していきます。市役所広報課など今まで声がかからなかった部署からの受注ができたという結果がある反面、以前取れていた案件が他社との価格競争で負けてしまうという案件もありました。競合同士での価格の下げ合いという課題もあり、今後は官公庁以外でも新たな市場をターゲットにして開拓していくという取り組みも必要になってきます。

	リスクマネジメントの向上	アクシデント、ヒヤリハットの検証	法人本部	月1回事例検証の実施		7月より毎月第二月曜日にリスクマネジメント委員会を開催しました。各部署から提出されたアクシデント、ヒヤリハット報告書に基づき、その対応や今後の再発防止に関する対策について検討しました。報告・検討の内訳は、転倒や外傷などのアクシデントが6件、施設の不備や感染症に関するものなどのヒヤリハットが5件、個人情報の取扱いなどその他に分類される事項が18件となっています。検討後の職員への周知やマニュアルの再整備が徹底されているとは言えず、再発防止への取組みとしては充分とはなっていません。また、危険予知に関して職員の気付きを高められるよう、次年度は外部講師に依頼しKYT(危険予知トレーニング)活動を取り入れる予定です。
	24時間体制の整備	手話通訳者・要約筆記者の派遣において24時間体制が整備されていません。	聴言センター	平成28年度からの実施を目標に取り組みます。		手話通訳者派遣の窓口時間外で最もニーズの高かった“救急”の24時間派遣で正式名称は「救急搬送時における手話通訳者の派遣」(実施主体：名古屋市)です。聴覚障害当事者団体のご意見を伺いながら、また手話通訳者の協力(登録)も得て28年6月より実施しました。実績としては2件で、いずれも昼間でした。制度開始間もないこともあり、まだ件数は少ないのですが、聴覚障害当事者より「24時間派遣制度なので安心して暮らせる」との声が寄せられています。要約筆記者派遣の方は未整備ですので、29年度に取り組みます。
	職員・ヘルパーの資質向上	他事業所と併用して活動するヘルパーも多く、新規ヘルパー登録の必要性は高く、ヘルパー職員の資質向上、重度の利用者に対応できるヘルパーへの指導も必要です。	ヘルパーセンター	ガイドヘルパー資質向上研修の実施(年2回・全員対象)新規ヘルパーに対する実習・個別指導を実施します。	100%(いずれも実施できました)	ヘルパーセンターでは、28年度初めて同行援護養成研修会を開催しました。現在登録しているヘルパーには旧資格の取得者もたくさんおり、全体的に制度になじみきれていない側面があります。そのため現任ヘルパーにも声をかけて研修会を開催したところ、12名の参加がありました。その流れを受けて、資質向上研修においても、同行援護のポイントを職員自身が講義するというスタイルをとり、「分かりやすかった」「充実していた」という感想があがりました。また、新規ヘルパーに対しては、ひとりでの振り返りもでき、実習のフィードバックもできるようなチェック表を新たに作成し、ヘルパーセンターが求めるヘルパー像を具体化しました。今後、ヘルパーの活動マニュアルを全面改訂し、より良いサービスが提供できる仕組みをつくっていきます。
	特定相談支援事業と障害者基幹相談支援センター相談員の資質向上	平成25年度から、特定相談支援と基幹相談支援センターの職員は、機能別会議を通して、個人研究や専門研究に取り組んできました。その成果を活かし法人内部のチーム力を高めることと、福祉人材の育成を今年度の柱として事業を運営していきます。	相談・支援	・相談員の資質向上 ・相談支援専門員がケースを抱え込まない仕組みの強化します。 →相談部門内で事例内容を共有します。		・職員の資質向上を目的に、岩間伸之先生を講師に招いて相談に向き合う時の「価値」「哲学」「姿勢」について学びを深めることが出来ました。 ・ケースを抱え込まない仕組みとして、外部講師を招き事例検討会を行い、事例検討会を行う意義について深く認識できましたが、定期開催には至っておらず、今後の課題と言えます。 ・個人研究や専門研究に取り組むことが出来た一年ですが、28年度内に完成に至ることが出来ませんでした。29年5月が、完成予定となっています。

重点計画事項		現状・課題	平成28年度目標			平成28年度取組課題・取り組み内容
			担当部署	目 標	達成率	
2 人材育成	人材育成の基本方針の策定	人材育成は当法人の健全な運営及び良質なサービスを提供するための取組の一貫として位置づけられます。短期的な即戦力の要請としてだけでなく、中長期的な組織基盤構築の方策として捉えられるため、人材育成を組織運営の視点でどのように取り組むのか整理します。	法人本部	<ul style="list-style-type: none"> 法人全体として抱えている課題（中長期的な課題）組織的課題について検討し、人材育成を取り巻く課題について整理します。 人材育成の仕組みについて検討します。 		<p>(1) 内部研修 28年度は、①管理職研修 ②新人研修 ③全体研修を法人内部の研修として行いました。この中で最も重点的に行った研修は②の新人研修で、入職5年以下の職員を対象に、概ね月に1回土曜日に研修を開催しました。障害の理解については、一つ一つの障害別に専門家の外部講師に来ていただき知識を深め、制度理解や、障害に関係している法制度の理解についても同様に丁寧に研修を重ねることで知識は深めることができました。新人研修の後半には、働く意義と目的に向き合える職員となるために、生活介護、就労継続Bの職員と合同研修を行い、現在行っている業務の意義と目的についての学びを深め、共に考える研修を実施しました。また、今年度は①管理職研修も集中して行うことが出来ました。管理職研修は、同じ理念と目標に向かって職員を引っ張る役割の職域の物同士がお互いのことを深く知ることで本当の意味での信頼や連携が生まれ相互の役割が明確化されていくこと、そして自分自身と向き合い己の長所、短所、傾向などが分かり、客観的に自分をみつめることが出来る力の重要性を知り、今後につながる研修をなりました。何より管理職の役割について、言葉で概念として学ぶのではなく「自ら気づく」研修が実施できました。③全体研修は、QC発表会を今年度も行うと共に昨今の福祉ニーズに対応できるための学びとして「若年性認知症」についての研修を実施しました。28年度の取り組みの中で特筆すべきこととして、他機関からの研修依頼を受け、職員に講師を担ってもらったことがあります。講師を行うことで、これまでの仕事への取り組みをまとめること、知識について整理すること、伝える力の向上にもつなげることが出来ました。学びを受け取るだけでなく発信していくことで、得る力は大きいといえます。今後もこのような取り組みを積極的に実施していきたいと考えます。</p> <p>(2) 外部研修 外部研修については、今年度は例年よりもアンテナを張り研修情報を収集していく事からはじめました。そして情報を各部署で周知し、研修に参加できる機会を多く持つことができた一年でした。</p> <p>(3) OJT OJTを行う上で指導体制が整っていることと、業務内容が整理されていることが必要といえます。現在業務内容については、各セクションでの標準的支援マニュアルが不完全であり、不十分な実施状況と言えます。28年度は、人材育成PTの中で職業能力基準表を作成し、そこから、支援ガイドラインを各セクションで作ることができました。ガイドラインの次はマニュアルを作成し、業務内容を分かりやすく整理し、職員が困らない状況を作り出すことが重要です。業務内容については、整理されつつある現状ですが、指導体制は未完全な状況です。指導体制を充実させていくためには、入職〇年目の達成必須目標を明示したキャリアパスの策定が必須課題となります。</p> <p>職業能力基準表の作成 ①各セクションで、必要としている能力についてあげる。②全てのセクションに必要な能力と、セクションとして必要な能力に分類 ③共通基準表の作成 ④個別基準表の作成 (1) 共通基準表の作成 (2) 個別基準表の作成</p>
	資格取得の促進及び自己啓発	法人運営に必要とされる資格取得を促進すると共に、資格更新が必要なものに関して管理する事が求められています。	法人本部	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修1人以上/年受講 相談支援専門員の数を増加します。 精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士等の有資格者を増やします。 		<ul style="list-style-type: none"> 相談支援専門員初任者研修受講者 2名 相談支援専門員現任研修受講者 3名 社会福祉士資格 取得職員 1名 介護福祉士資格取得 4名 要約筆記取得 就業年数、基礎資格を把握すると共に、資格取得に向けての啓発を行いました。
	QC活動の強化	QC活動は定着し、QC第2、第3世代の取り組みに発展していますが、対策立案に弱点があります。	法人本部	QC発表会年1回開催		<p>28年度の重点実施事項は、4つの目標に取り組みました。</p> <p>①QC発表会の開催と年2題以上を目指す取り組みについて、管理者をリーダー、PTメンバーを副リーダーとして活動を行いました。今年度の活動は第一世代から第三世代まで広がりがあり、進捗に差が生じおり発表会は29年6月に開催します。また、セクションによっては個人研究やグループ研究にシフトしており部署に合わせて改善活動の方法を変えて取り組みました。</p> <p>28年テーマ 事務局：「障がいがあることを理由にできないことを実現するツアーを企画する」 ヘルパーセンター：「請求事務をスムーズにするためには」 第一WD就労移行・B：「利用者支援の一環としてのレクリエーションのあり方」 第二WD就労B・生産あり：「ボランティアさんが気持ちよく活動するには」 第二WD生産なし：「内容のある支援にしよう」 聴言センター：「メールの漏れをゼロにする」 基幹支援センター：「個人研究」 「加齢により能力低下を起こしている障害者の就労について考える。」 「ICFの活用について」 「組織内の希薄化について」 「一人暮らしをしている障害者の、災害時の対応について～事例を通じて考察する～」 「地域で一人暮らしをするAさんの仮想社会関係図の作成」 第一・第二相談：「親亡き後の意識調査」</p> <p>②過去に各セクションで取り組んだテーマの定着状況について確認を行いました。平成25年～27年に取り組んだ各セクション28テーマのうち、ほぼ半数以上は定着できていることが分かりました。定着率を上げていくことが今後の課題です。</p> <p>③QCサークル活動に関する理解を深める為のQC学習強化について、各セクションよりQC活動についての困りごとを募集し、カテゴリー分けを行いました。その困りごとに答える形式で、QC座談会の企画を行いました。座談会はマネージャーに司会をお願いし職員3名が登壇者としてQC活動成功の秘訣（解決へのイメージ作り）やQC手法を事例を交えながら参加者全体で理解を深めました。職員全員参加に至らなかったのが今後の課題です。</p> <p>④QC活動会議を毎月開催することで、進捗状況をマネージャーやPTメンバーで共有し、PT内で各サークル活動への助</p>
3 地域		これまで実施してきた公益事業をより強		当事者活動、新規会員の獲得等の課題があるため、引き続き継続します。	地域の障害者の現状を改善するため、会長・常務理事を中心に議論を進めると共に協会長・部会長会議においても取り組みました。さらに議論を進めていきます。	

4 収益性の向上 各事業の重点実施事業	地域福祉の増進 社会福祉法人は、社会福祉事業という公益性の高い事業を安定的・継続的に経営していくことが求められています。平成22年度以降法人全体の当期活動収支差額は、順調に推移している一方で、それぞれの施設を見てみると、複数年に渡り赤字が継続している部門があります。平成21年度に生じた収益事業の赤字補填の為、収益事業（旅行事業・売店事業）においては、継続的に収益を出していく必要があります。また、第一ワークスと福祉センターの大規模修繕及び消費税増税に向け、更なる経営基盤の強化が必要となります。	事務局 これまで以上に参加者を増やします。	第一生活介護 1日あたり利用者数20名/定員20名を目指します。 (前年度平均22.4名)	100%	障害者の様々な社会参加の機会を作るため特に作品展については先進地域である滋賀県へ出向きました愛知県でも行われたアートブリュット展も参考に発展方を検討しました。関係機関からご意見やアイデアを伺うことができたので、今後何をどのように進めていくか具体的な計画を進めていきます。
	利用率	第二生活介護 1日あたり利用者数40名/定員38名を目指します。 (前年度平均35.9名)	1日あたり利用者数32.6名/定員40名 (有13.6名、無19.0名) 達成率86% 新規利用者3名	3月末現在の登録利用者数は32名で、平均利用人数は26.4名でした。課題として、一般就労可能と思われる利用者の方がいなくても、就職に対するイメージや発症前の働き方のイメージが強い人もいるため、現状でも一般就労ができるという動機付けができるようなプログラムが必要と思われる、就労移行と合同で名身連から就職した先輩の職場訪問を実施するなど、就労意欲向上を喚起する取組みを進めた結果、平成29年度には数名就労移行へサービスを変更する利用者が数名見込まれています。	
	講座開催数	第一就労継続B型 1日あたり利用者数24名/定員24名を目指します。 (前年度平均25.2名)	100%	平成27年5月からの定員増に伴い、新規利用者を確保するため、福祉的就労の場の提供だけでなく、就労移行支援施設へのステップアップを目指すことのできるシステムがあることを、現況説明会を開催して地域の関係機関にPRを行いました。内部においては生活介護有からのステップアップ2名、熱田の就労移行へのステップアップ2名と積極的に働きかけを行いました。しかしその一方で新規の利用者の確保に繋がっていません。今後は中村地域だけでなく通所可能な地域に範囲を広げ、利用者確保に努めていきます。	
	新規利用者、現利用者のサービス拡大	第二就労継続B型 1日あたり利用者数20名/定員17名を目指します。 (前年度平均10.2名)	1日あたり利用者数14.4名/定員20名 達成率85%	今年度は6名の方に支援を行い、3月末現在の登録利用者数は2名で、平均利用人数は1.8名でした。内3名の方が就職し現在も継続就労しています。就労移行は、就労継続B型や生活介護に比べて利用者の回転が速いことが特徴ですが、毎年の課題として利用者確保ができていません。精神障がいや発達障がいの方の就職希望者が年々増加していますが、今まで精神障がいや発達障がいの支援をする機会が少なく、受け入れることができていません。障害理解に関する研修の参加や基幹支援センター、特定相談と連携して特性の理解を深めて利用者の受け入れが出来るようにする必要があります。一方、継続B型利用者について、名身連から就職した先輩の職場訪問を実施するなど、就労意欲向上を喚起する取組みを進めた結果、平成29年度には利用者増が見込まれています。	
	旅行センターの運営	第一就労移行支援 1日あたり利用者数6名/定員4名を目指します。 (前年度平均2.6名)	50%	総合支援法による講習会（市委託事業）だけでなく、レベルに応じた独自の手話講習会も開講することで幅広い学習の場を提供しました。ろう講師が指導する「ろうネイティブコース」は2講座開講しました。また、毎年翌年度の「ろうネイティブコース」の受講を迷われる方が多いと聞きましたので、短時間で気軽に体験していただくための「ろうネイティブお試しコース（3回）」を2講座、初めて行いました。29年度も手話学習者のニーズを汲み取った学習の場を提供していきたいと思えます。	
	ヘルパーセンター	聴言センター 2講座(70時間)開講します。	年間21名で達成しましたが、解約がそれを上回る25件となり、結局マイナスでした。	新規利用者獲得についての取り組みは、他事業所や相談員からのアプローチを待つというスタイルでした。打診はたくさんありましたが、条件が合わないということでお断りしたケースもあり、実際に契約につながった件数は21件にとどまりました。確かに短時間の送迎や、単価の低い移動支援が増えており、引き受けても赤字になるような案件もありましたが、積極的な受け入れ態勢になりきれなかったことが大きな課題です。29年度は新しい案件を積極的に受けると同時に、利用者および他事業所等ともコミュニケーションをとって信頼関係を築きなおし、「依頼を受けてくれるヘルパーセンター」という評判をもらえるようにします。	
	事務局	ヘルパーセンター 新規利用者20名を目指します。	回数については200%達成（5回目目標のところ10回）。	旅行センターでは、障害があっても楽しめるツアーを定期的に企画、募集しました。4月鈴鹿、6月福井、7月静岡、8月京都、9月鶴飼、11月近江、12月福井、1月知多、2月渥美、3月鈴鹿で企画し、10月は人数不足で催行できませんでしたが、結果、年間10回の催行を達成しました。顧客の幅も広がり、他セクションとのつながりで紹介されたお客様もありました。またリピーターも多く、特にグルメツアーをうたうと多数の参加がありました。回数を多く開催したので、45万円ほどの利益が上がりました。今後は内容を掘り下げていくことが課題です。	

重点計画事項		現状・課題	平成28年度目標			平成28年度取組課題・取り組み内容
			担当部署	目 標	達成率	
5	啓発および広報活動	プロジェクト 広報・啓発活動の強化	外部にむけての啓発および広報活動を活発化し、障害者理解を進めるとともに、人材確保の一助とします。	ホームページ	4月リニューアル発信	新しいホームページ開設後の課題は、コンテンツの充実でした。ニュース性を重視し、各セクションでこまめな発信を積み重ねた結果、28年度は大変多くのニュース（新着186本）を発信することができました。職員の「伝える力」も当初より向上し、着眼点に優れた読みやすい記事が増えました。法人に携わる人を主人公にする「名身連物語」は内容、ボリュームともに充実したものに仕上がり、学生ボランティア他のイラストに彩られる楽しいページとなっています。また、オリジナル動画制作にも取り組みました。発信が順調にできるようになったので、今後は、本当に伝えたいことが伝えたい人に届くよう、発信の編集についても考えていきます。一方、広報紙については、施設がホームページで順調にニュース発信できるようになったこともあり、また、特に施設利用者や家族にも読んでもらいたいという気持ちのもと、統合させる方向で話を進めてきました。29年度中に実施できるよう取り組みます。
			広報（事務局・第一・第二生活介護）	4月～検討 8月～実施	手話講師派遣の打診2件→聴言へ、一宮社協点訳講座→事務局受注、点字シール会社→コンサルタント、請求発生なし、コングレ（市民会館）聴覚障害者向け研修の打診→聴言へ、コングレ（国際会議場）研修・中京大学講義・看護学校講義・愛知淑徳大学集中講座 大学等への例年の講師派遣に加え、ホームページをご覧になった一般企業からのお問合せもたくさんありました。実際の受注につながったものは一部でしたが、ニーズの高まりを感じる一年でした。また、淑徳大学の講座では職員が教壇に立つという経験をし、人材の裾野を広げる第一歩となりました。29年度も引き続き、ホームページ等での発信を続けながら、名身連ならではの講師派遣事業を展開します。	
			講師派遣等（全体）	4月から随時 2か月に1回実施		
	後援会の見直し	法人本部	後援会活動が十分でないため、外にむけての活動とともに進めます。	名身連が規程する後援会員は、機関紙購読をしてくださっている15名です。職員や、元役員、利用者様、そのご家族などで構成されますが、名聴言協が機関紙購読希望者を募っており、その方たちも後援会員として機関紙を購読しています。また、作品展に出品してくださった方にお声がけして会員になっていただきました。今のところ、当事者には一定の評価を受けている情報源なのでニーズがありますが、それ以外への広がりはありません。名身連の応援団を募るところまでは到達していないのが現状です。		
6	法令遵守と透明性の確保	新会計基準 組織体制 個人情報保護	法令遵守を怠ることは、法人の信用を損ね、その事業を利用する方へも影響します。また、社会福祉法人は、公益性の高い法人であり、経営状態を公表し経営の透明性を確保していくことは重要な責務です。社会福祉法人の情報は、福祉サービスの利用を希望する方にとって、サービスを選択する上で重要な判断材料となるため、経営等の透明性を確保することが重要となります。	法人本部	平成26年度より移行しています。無駄を無くし、スムーズな運用を目指します。	より早い会計報告を目指すために全ての施設で会計報告の足並みがそろうよう職員間で意識を統一させました。そうすることで経営会議や職員会議等でも収支状況を提供できるようになりました。29年度も引き続き会計報告が早くできるよう進めていきます。
			法人本部	組織体制や会計など透明性をはかります。	会計処理、現金の取り扱い、印の使用、起案書などの書類の取り扱い等を正確で効率的な処理が行えるようシステム作りを行いました。印の使用・起案書などの書類の取扱等については職員に浸透、標準化することまでできていなかったため、浸透、標準化が進むようマニュアルを完成させましたので職員周知を進めていきます。	
			法人本部	安全管理の充実	法人としての規程はありますが、現状に見合うよう内容を見直し、改正しました。また、規程だけでなく、実務レベルのものが整備されていなかったため、具体的な内容を盛り込んだ管理規程を新たに作成しました。さらに、各職員が現場で活かせるよう、よくある事例・留意が必要な事例等をまとめたマニュアルも作成しました。29年度はこれらを職員に周知していくことが課題です。	
7	中・長期計画	建物修繕及び車両の買い替え計画	昭和59年に名身連第一ワークスを開所、平成4年に名身連福祉センターを開所し、どちらの施設も経年劣化が進んでいる状況です。修繕については、長期計画というものを作成しておらず、故障箇所をその都度修理しています。物品購入についても同様です。	法人全体	助成金・補助金で検討	古くなった車両の買い替えのため助成金申請を3団体に行い、その内の愛知県共同募金会より助成金をいただけることになりました。第二WDで車いす対応乗用車の申請手続きを進めました。第一WDの車両について1台（主に納品運搬に使用）早急に買い替えが必要となったため、中古車の購入を行いました。また、福祉センターのWi-Fi環境整備のため、あいちPSM協力会より助成金をいただき整備を完了させました。名古屋市より防犯設備の整備のため補助金をいただき、第一WD（4台）と福祉センター（7台）に防犯カメラを設置し、防犯ベルについても整備しました。福祉センターのポイラーについては、業者選択について理事会の承認を得ることができましたので平成29年4月以降で改修工事を進めていきます。
		生産設備の導入		第一就労継続B型 第二就労継続B型	印刷対応パソコンの入れ替え、印刷機や点字プリンタ、ミシンの購入等	第一就労継続B型については経年によるミシンの劣化に伴い、本縫いのミシンを1台購入し、使用できなくなっていたミシンを廃棄しました。課題として、縫製で使用している機械の中には、開所当時から使用している機械もあり、故障しても部品の取り扱いがないものもあるため、使用頻度の高いものから購入できるように対策をとる必要があります。また現在使用しているミシンでは、生地の高いものは針が折れたり、うまく機械が動作しないことがあるため、新たなミシンの購入も検討する必要があります。第二就労継続B型については専門家のアドバイスを取り入れ、機材展に同行していただき、印刷業界での最新の設備を始め、数種類の機器をみて回る機会を設けました。丁合器、計数器、帯掛け器など、様々な設備について検討した結果、今年度は卓上製本機を導入することになりました。「製本もできる」という付加価値を付けた営業活動を展開するとともに、内作の仕事を増やし、作業単価を上げることを目指します。また、目の前で製品が完成する経験を通し、利用者のモチベーションを高めることができるような支援体制を構築していきます。高額な製品（オンデマンド印刷機）の導入については今年度、助成の申請を行い試みましたが受けることができませんでした。導入機会を増やせるように引き続き助成金の情報収集を行っていきます。また、作業活動を行う際に、修繕が必要な部分（パソコンネットワーク）については、業務に支障がでないように、新しいパソコン環境を構築するように改善しました。
		短期事業計画の進捗管理	28年度の事業計画の進捗管理を行います。	法人本部	月1回主任以上の参加により開催	毎月第4木曜日に全社経営会議を開催し、各部署の主任以上の責任者が必ず1人は参加して報告ができる状況で事業計画の進捗管理及び収支管理を行いました。また、各部署の課題や問題点等についても全体で共有し意見交換等を行いました。今後は課題や問題点等について改善・解決していく場となるよう進めていきます。
		中長期計画の策定	名身連の中期・長期計画がないため、今後の法人運営をふまえて作成する必要があります。	法人本部	中長期計画の基本計画を策定します。	事業理念に基づき、経営ビジョン、経営目標の設定及び環境分析を行い、経営戦略に基づいた財務管理・サービス管理・収益管理・組織管理・人事管理等の具体的な取り組みを検討しました。その内容を指標で表すとともに文章化していきます。
		法人本部会議	法人経営について検討します。	法人本部	法人経営について検討します。	毎月第4木曜日に法人本部会議にて団体活動及び事業活動についての検討事項・問題点等について議論を行いました。議論の結果、必要に応じて各会議（理事会・評議員会・管理者会議・職員会議等）へ繋げていきました。今後も法人経営について検討を進めていきます。

事業報告 ～利用者満足度調査について～（まとめ）

〈平成28年度の取り組み〉

名身連利用者満足度調査は平成26年度より開始して3回目を迎えました。質問内容は、最初に年齢、性別、利用期間、名身連を知ったきっかけ、選んだ理由をお聞きした上で「職員の対応について」では施設の電話対応、個人情報を守られているか、職員の身なり、安全配慮、希望を支援に反映させているか、希望を聞いているか、必要と感じる支援が行われているか、わかりやすく話しているか、「施設の使いやすさについて」では駐車スペースや階段、エレベーターやトイレ、ロビー、出入り口などについて、さらに各施設の支援内容についてお聞きする内容となっています。今回新たに事務局も来訪者を対象にアンケートを開始し、聴言センターは対象をエンドユーザーに変更しサンプル数が見込まれる時期に実施、ヘルパーセンターは全利用者に対象を拡大するなど、より中身の濃い満足度調査を目指して定点アンケートを行いました。以下特徴的なことについて記述します。

〈事務局〉

- ・事務局の事業である旅行センターについてお聞きし、満足度は100%でしたが、自由回答においては、駐車スペースや館内の案内表示についてのご要望やご意見が寄せられました。

〈障害者基幹相談支援センター〉

- ・熱田基幹の職員の対応に関しての満足度は100%、自由回答は0件でした。
- ・中村基幹は電話対応に対する満足度が38%と低く、平均満足度は86.9%、自由回答0件でした。

〈第一ワークス・第一デイサービス〉

- ・就労移行支援事業所の支援内容に関しての満足度は100%、自由回答は0件でした。
- ・就労継続支援B型事業所の支援内容に関する満足度は、工賃に関する満足度が78.3%で平均の満足度は85.5%、自由回答は4件で工賃改定表についてのご意見もありました。
- ・生活介護（生産活動有）事業所の支援内容に関する満足度は、工賃に関する満足度が88.9%で平均の満足度は96.3%、自由回答は1件でした。

- ・生活介護（生産活動無）事業所の支援内容に関する満足度は、創作活動に関する満足度が86.7%で平均の満足度は93.2%、自由回答の9件の中にはセキュリティに関するものもあり、法人としても対策として早急に各施設に防犯カメラを設置いたしました。
- ・相談事業所の職員の対応に関する満足度は100%、自由回答は0件でした。

〈第二ワークス・第二デイサービス〉

- ・就労継続支援B型事業所の支援内容に関する満足度は、工賃に関する満足度が42.9%、“作業にそった適切な支援を受けていると思いますか”に対する満足度は78.6%、平均の満足度は71.5%と相対的に低く、支援の課題が明らかになっています。自由回答は5件で、福祉センターのエレベーターの不具合に関するご不満の声が寄せられました。
- ・生活介護（生産活動有）事業所の支援内容に関する満足度は、工賃に関する満足度が71.4%で平均の満足度は79.3%、自由回答は0件でした。
- ・生活介護（生産活動無）事業所の支援内容に関する満足度は、送迎に関する満足度が85.2%で平均の満足度は89.0%、自由回答の5件の中にも送迎時のベルトの固定についてのご意見がありました。
- ・相談事業所の職員の対応に関する満足度は100%、自由回答は0件でした。

〈聴言センター〉

- ・職員の対応に関してはプライバシー保持の満足度が83.3%、平均満足度は91.7%、自由回答は4件ありましたが、全体のサンプル数が6件と少なく、時期を変更してアンケートを配布した効果は得られませんでした。

〈ヘルパーセンター〉

- ・派遣手配に関してはガイド決定までにかかる時間についての満足度が61.4%、内容変更の手続きについての満足度が73.1%で平均満足度は75.2%、自由回答は50件を越すお声をいただき、今後の施設運営に対する貴重なご意見となりました。

平成29年度以降も、引き続きアンケートを実施するだけでなく、利用者満足度の向上に寄与できる人材を育成する場になることを目指していきます。

愛知県福祉サービス第三評価事業 評価結果

総評

◇特に評価の高い点

◆職員の運営参画 法人内に組織された数多くのプロジェクトチームに職員個々が参画することで、ケース支援以外に運営に直接係わる機会を持っている。これにより事業の透明且つ民主的な運営推進が図られ、職員の意欲向上にもつながっている。利用者の支援にあたっている職員の生き生きした表情が印象的である。

◆利用者の主体性重視 毎月利用者懇談会を実施され、活動の内容等について意見を聴取することで、利用者が主体的に活動に参画することができている。懇談会で話し合われた食事に関する意見も直ちに委託会社に伝達され、利用者の意見を反映する形で改善された。利用者懇談会で互いに意見を出しあうことに慣れてきて、これまでよりも利用者自身が積極的に発言するようになった。利用者本人の表現力や意志力の向上に繋がる相乗効果が生まれている。

◆地域での存在価値 定期通信の発行、「あつた宮宿会」への参画、サロン等での地域交流、福祉避難所登録等、地域とのつながりを重視した数々の取組みを実施し、地域性のある事業所としてアピールしている。

◇改善を求められる点

◆明確な職務職階の制度構築 「育成する職員の期待像」が示され、人材育成の基本としている。一方で、人事考課制度は無く、業務評価や昇格基準等も曖昧である。また、職務職階は存在するが、内容が大まかで階級ごとのキャリアパスとは言い難い。設定される階級ごとのクリアすべき業務内容を明確に定められたい。キャリアパスによって職員が描く「自らの将来の姿」と、法人が描く「育成する職員の期待像」とが完全一致した時、目指す「理念」と「基本方針」が成就する。

◆研修成果の検証を 法人の研修方針、研修計画、職員個々の研修計画が策定され、職員は内外の研修に参加しており、研修機会は多い。研修後は復命書を提出し、職員会議での報告によって成果の共有が図られている。しかし、研修で得られた成果（知識や技術）が、実際の支援の現場で活かされたか否かを確認する仕組みがない。学んだことを確実に業務に反映させる手順と、それを検証する仕組みの構築を期待したい。

愛知県福祉サービス第三評価事業 評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 中部評価センター	訪問調査日：平成29年 3月 7日(火)
---------------	----------------------

②施設・事業所情報

名称:名身連第一ワークス・第一デイサービス	種別：生活介護	
代表者氏名： 富田 哲生	定員（利用人数）：20名	
所在地： 愛知県名古屋市熱田区横田二丁目4番22号		
TEL： 052-671-5225		
ホームページ：		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 平成23年 4月 1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人名古屋市身体障害者福祉連合会		
職員数	常勤職員：15名	
専門職員	(管理者) 1名	(サービス管理責任者)1名
	(生活支援員) 10名	(看護師) 3名
施設・設備の概要	(居室数) 0室	(設備等) 身障トイレ・和室
		エレベーター

③理念・基本方針

<p>★理念</p> <p>一人ひとりを大切に、誰もが地域で安心して暮らせる社会をめざす ～地域でつながり、ともに歩む名身連～</p> <p>★基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる社会福祉、地域福祉に貢献し取り組みます ・自己決定と選択を尊重するとともにニーズの把握に努め、より良い福祉サービスの提供に努めます ・高い専門性と豊かな人間性を兼ね備えた実践力のある人材となるよう主体性を高め、互いにサポートし合える環境づくりをめざします
--

④施設・事業所の特徴的な取組

利用者の主体性を大切にする

・生産なしの活動について毎日、施設側がプログラムを設定するのではなく利用者それぞれのニーズに合わせた活動ができるようにしている。また、全体での催し(陶芸教室やバスでのレクリエーションなど)についても参加・不参加を選択できることとしている。

・生産あり・生産なしについて作業をしたいけれど一日は身体的に難しい場合や作業も創作もどちらも行いたいなど利用者それぞれの状況に合わせ活動ができるようにしている

・利用者懇談会や利用者満足度調査を行うことで利用者やご家族からの意見を聞く機会を設けその都度、改善に向けて対応している。

・今年度より下記のことを新たに取り組み始めました。

①社会生活カプログラムを取り入れグループで学び経験することで自分で考え、自分で決定し充実した楽しい生活が出来るようにする力を身につけることを目標に活動を開始した。

②個別支援計画書を日頃から意識した支援が正規職員だけでなく、嘱託職員・パート職員もできるような個別支援進捗状況票を取り入れた。また、生産ありで作業に携わる利用者については振り返り表を作成し、毎月、職員とともに振り返りをするとし次月に向けての目標や注意することなどを明確にしていくことで各自の力を伸ばす支援を目指している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成28年12月26日(契約日) ~ 平成 年 月 日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	0 回 (平成 年度)

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆職員の運営参画

法人内に組織された数多くのプロジェクトチームに職員個々が参画することで、ケース支援以外に運営に直接係わる機会を持っている。これにより事業の透明且つ民主的な運営推進が図られ、職員の意欲向上にもつながっている。利用者の支援にあたっている職員の生き活きた表情が印象的である。

◆利用者の主体性重視

毎月利用者懇談会を実施され、活動の内容等について意見を聴取することで、利用者が主体的に活動に参画することができている。懇談会で話し合われた食事に関する意見も直ちに委託会社に伝達され、利用者の意見を反映する形で改善された。利用者懇談会で互いに意見を出しあうことに慣れてきて、これまでよりも利用者自身が積極的に発言するようになった。利用者本人の表現力や意志力の向上に繋がる相乗効果が生まれている。

◆地域での存在価値

定期通信の発行、「あつた宮宿会」への参画、サロン等での地域交流、福祉避難所登録等、地域とのつながりを重視した数々の取組みを実施し、地域性のある事業所としてアピールしている。

◇改善を求められる点

◆明確な職務職階の制度構築

「育成する職員の期待像」が示され、人材育成の基本としている。一方で、人事考課制度は無く、業務評価や昇格基準等も曖昧である。また、職務職階は存在するが、内容が大まかで階級ごとのキャリアパスとは言い難い。設定される階級ごとのクリアすべき業務内容を明確に定められたい。キャリアパスによって職員が描く「自らの将来の姿」と、法人が描く「育成する職員の期待像」とが完全一致した時、目指す「理念」と「基本方針」が成就する。

◆研修成果の検証を

法人の研修方針、研修計画、職員個々の研修計画が策定され、職員は内外の研修に参加しており、研修機会は多い。研修後は復命書を提出し、職員会議での報告によって成果の共有が図られている。しかし、研修で得られた成果(知識や技術)が、実際の支援の現場で活かされたか否かを確認する仕組みがない。学んだことを確実に業務に反映させる手順と、それを検証する仕組みの構築を期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

(別添)

評価項目(細目)の評価結果(障害福祉施設)

※すべての評価細目(72項目)について、判断基準(の3段階)に基づいた評価結果を表示する。

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		自己評価	第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。			
I-1-(1)-①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	障 1	a ② b c
評価機関のコメント			
理念は、機関紙、ホームページ、事業所内に掲示され、周知されている。利用者へは、分かりやすくイラスト等を用いて伝えられている。基本方針は、理念実現のための事業内容を表わしたもので、整合性が保たれている。			

I-2 経営状況の把握

		自己評価	第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
I-2-(1)-①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	障 2	b a ② c
評価機関のコメント			
経営状況を分析し、戦略を立て、計画策定が行われるシステム構築が進行中である。毎月の経営会議により、各管理者が経営状況を共有しているが、トータルな外部分析の点で課題を残す。			
I-2-(1)-②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	障 3	b a ② c
評価機関のコメント			
中期計画策定に向け、経営・人事・マーケティング等、各プロジェクトが課題を出し合い、集約作業が行われている。職員へは自らの係る部門以外の情報も周知され、経営課題は共有されている。方向性や改善への手立て等も、具体的方法を検討中である。			

I-3 事業計画の策定

		自己評価	第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
I-3-(1)-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	障 4	b a ② c
評価機関のコメント			
事業、コスト、組織等の具体的内容を示す中・長期計画を策定中である。現在、様々な角度から検討が重ねられている。			

I-3-(1)-②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	障 5	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント				
中・長期計画が策定中のため、事業計画は重点事項を掲げて、事業ごとの目標、課題、取組内容を示す機能的なものとしている。中・長期計画の策定後は、連動する計画を目指すものとなる。				
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。				
I-3-(2)-①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	障 6	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント				
各職員が属す部門から挙がってくる意見を踏まえ、管理者会議から職員会議、経営会議を経て事業計画の作成に至る。計画は年度通しのものとなっており、評価、見直しに関しての時期や手順が定められていない。				
I-3-(2)-②	事業計画は、利用者や家族等に周知され、理解を促している。	障 7	a	㉠ ・ b ・ c
評価機関のコメント				
事業計画を分かりやすく説明した広報誌を全利用者に配布している。また、家族懇談会では事業の状況を保護者に説明し、十分な理解を得ている。広報誌では、事業計画の他にスケジュール等も詳しく説明されている。				

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		自己評価	第三者評価結果	
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。				
I-4-(1)-①	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	障 8	a	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント				
利用者懇談会や利用者満足度調査にてニーズの吸い上げを行うとともに、課内会議を経て職員会議にて月ごとの評価を実践に活かす仕組みとなっている。大きな支援目標では、毎月の経営会議でも月次評価が行われ、項目によって支援内容に反映されている。また、QC活動で得られた成果は、ダイレクトに支援に活かされる。一方で、個々の職員から挙がってくるサービス向上へのシステムが無く、サービス自己評価の実施が望まれる。				
I-4-(1)-②	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	障 9	a	㉠ ・ b ・ c
評価機関のコメント				
月次目標、評価、課題、全体での共有、実践、という手順で課題解決への手順が組まれている。職員は所属プロジェクトでの問題はもとより、全ての課題について共有し、総力で改善に向けて取り組んでいる。				

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		自己評価	第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。			
Ⅱ-1-(1)-①	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	障 10	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
施設長は職務分掌を明示するとともに、年度初めには管理者の役割と方針を通知し、責任も明確に示している。不在時の職務権限については、2名の副施設長がそれぞれ部署ごとに管理責任を持つこととなっている。			
Ⅱ-1-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	障 11	a a ・ ② ・ c
評価機関のコメント			
コンプライアンスについては、経営管理講座等の外部研修に積極的に参加し、成果を運営管理に活かしている。苦情解決、セクハラ、個人情報等の規程が整備されているが、大元となるコンプライアンス遵守に関する規程が無いため、早急な整備が望まれる。不正取引(適正な利害関係)防止に関する取り決めも併せて検討されたい。			
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
Ⅱ-1-(2)-①	福祉サービスの質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	障 12	a ③ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
法人内にプロジェクトを組織し、多角的にサービスを検討し、改善に取り組んでいる。施設長は職員面談による意見聴取と直接指導を行い、支援に活かすとともに、職員の各種研修参加により質の底上げを図っている。			
Ⅱ-1-(2)-②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	障 13	a ④ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
人事、財務に関しては事務局一括管理となるが、労務管理に関しては、働きやすい職場を目指した様々な取り組みを行っている。毎年行う職員意識調査やQC活動により業務改善へのヒントを得ながら、直接職員指導に当たる等、管理者としての指導力を発揮している。			

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		自己評価	第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			
Ⅱ-2-(1)-①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	障 14	b a ・ ⑤ ・ c
評価機関のコメント			
人材確保に向け、様々な求人活動を実施するが、人材プランがないまま有資格、無資格を選別する等、一貫性に欠ける面も見られる。現在策定中の中・長期計画には、人材に関する具体的な計画が盛り込まれる予定である。			
Ⅱ-2-(1)-②	総合的な人事管理が行われている。	障 15	c a ・ ⑥ ・ c
評価機関のコメント			
「育成する職員の期待像」が示され、人材育成の基本としている。一方で、人事考課制度は無く、業務評価や昇格基準等も曖昧であるため、改善に向けた検討を期待したい。また、職務職階は存在するが、内容が大まかで階級ごとのキャリアパスとは言い難い。設定される階級ごとのクリアすべき業務内容を明確に定められたい。			

II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	障 16	a	㉓ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
有給休暇や時間外勤務等の就業状況はデータ化され、状況把握されている。産休・育休の取得、福利厚生、産業医によるメンタル支援等、働きやすい職場を目指した様々な取り組みが行われており、職員の制度利用もある。			
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	障 17	b	㉓ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
「職務状況報告書」を基に目標管理が実施され、設定時・中間・期末と3度の評価面談により達成度を確認し、次につなげていく仕組みができています。			
II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	障 18	b	a ・ ㉓ ・ c
評価機関のコメント			
法人の研修方針、研修計画、職員個々の研修計画が策定され、職員は内外の研修に参加している。研修後は復命書を提出し、職員会議での報告により、成果の共有が図られている。研修で得られた知識や技術を、実際の業務に確実に活かす手順を定められることが望ましい。			
II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	障 19	b	a ・ ㉓ ・ c
評価機関のコメント			
法人による新任研修は手厚く実施され、テーマ別研修等は外部を有効に活用して実施している。職員個々が必ず研修機会を持つような配慮もある。人材育成の重要なツールである現場支援のOJTに関して、手順を定めて組織的に実施することが望まれる。			
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			
II-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	障 20	b	a ・ ㉓ ・ c
評価機関のコメント			
「実習マニュアル」に基づいて実習生の受け入れが実施されている。今後は、介護福祉士、社会福祉士実習生の受け入れについて、指導者養成を含めて積極的に実施することで、次世代育成に加え、地域資源としての事業所の専門性提供の役割を果たされたい。			

II-3 運営の透明性の確保

	自己評価	第三者評価結果	
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			
II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	障 21	a	㉓ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
ホームページや広報誌を通し、一般社会に向けて事業計画や財務諸表を公開して透明性を確保している。満足度調査の結果も、ホームページで公表している。苦情解決については、システムは整備されているものの、実際の受け付けはない。日常的に細かく丁寧な意見聴取がなされている結果と思われる。			

II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	障 22	a	㉑ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
事務、会計等は経理規程に基づき処理され、事業所内の職務分掌も明確にされている。また、公認会計士による内部監査の実施があるが、来年度からは監査法人と契約し、更なる財務の適正化を図る予定である。			

II-4 地域との交流、地域貢献

	自己評価	第三者評価結果	
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
II-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	障 23	a	㉑ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
毎月のサロンや「宮宿会」でのバザー、セルフを通じての各種販売活動等の取組みにより、利用者と地域との接点を多く持っている。			
II-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	障 24	a	㉑ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
ボランティアの受け入れマニュアルに沿った受け入れを行っている。学生ボラ、日中活動ボラ、作業ボラ等の様々なボランティアを受け入れている。受け入れに際しては、事前オリエンテーションを実施し、利用者の理解と手続き、内容等を伝え、活動を有効なものとしている。社協にも登録し、各種ボランティアの更なる受け入れを目指している。			
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。			
II-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	障 25	a	㉑ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
社会資源リストを整備し、利用者への便宜を図っている。また、自立支援協議会、卒後対策連絡協議会、デイサービス連絡会等に参加し、横の連携を図るとともに、「宮宿会」の一員として活動する等、地域活性化にも貢献している。			
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。			
II-4-(3)-① 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	障 26	b	a ・ ㉒ ・ c
評価機関のコメント			
バザーや販売による地域との交流機会を持ち、福祉避難所として災害時の支援も計画に入っている。一方で、スペースの開放や地域向けの講演会・研修会等は実施されていない。地域資源としての更なる機能還元を検討されたい。			
II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	障 27	a	㉑ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
法人の基幹相談相談センターを通じ、地域の福祉ニーズを把握している。サロン、福祉バス、旅行企画、作品展実施等々、様々な事業・活動をもって地域福祉の一翼を担っている。			

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		自己評価	第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
Ⅲ-1-(1)-①	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	障 28	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
利用者を尊重する精神は、理念や基本方針に謳われており、初任者研修をはじめ、各種の研修で共通理解されている。外部研修の内容は、朝礼や夕礼、職員会議等で伝達している。			
Ⅲ-1-(1)-②	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	障 29	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
利用者の個人情報の保護やプライバシーの確保を含む権利擁護に関しては、標準化された権利擁護のマニュアルがある。利用者個々に配慮すべき事項は、個別支援計画書やケース記録へ記載し、場合によってはケース会議の場で検討し、朝礼・夕礼で確認している。			
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。			
Ⅲ-1-(2)-①	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	障 30	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
ホームページに最新の事業所情報を掲載し、「名身連第一ワークス・第一デイサービス通信」は、発行されるごとにホームページ上にも掲載されている。最新のパンフレットを区役所に置き、年4回発行する「名身連第一ワークス・第一デイサービス通信」を関係機関に送っている。			
Ⅲ-1-(2)-②	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	障 31	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
視覚障害に応じて点字版を作成したり、聴覚障害に応じて手話師に説明を通訳させたりして、確実な伝達を心がけている。さらに意志疎通の確実を期すために、今後通知書を作成して取り組む予定もある。			
Ⅲ-1-(2)-③	福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	障 32	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
施設等の変更の際しての情報提供の手順は決まっており、外部機関との直接的対応は同一法人内の基幹相談支援事業所を通して行っている。			
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。			
Ⅲ-1-(3)-①	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	障 33	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
年1回の利用者満足度アンケートを集計分析し検討の上、結果回答をホームページに掲載している。単に結果を分析・公表するに留まらず、法人内の委員会において改善策を検討して具体的な改善につなげている。			

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	障 34	a	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
苦情解決の仕組みと手順は確立されている。掲示もできているが、苦情はまだ上がっていない。苦情申し立てをしやすい細かなシステムの点検を検討されたい。			
Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	障 35	a	㉠ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
月に1回もしくは2回、利用者懇談会を行い、利用者から意見を出してもらっている。利用者懇談会で互いに意見を出しあうことに慣れてきて、これまでよりも利用者自身が積極的に発言するようになった。相乗効果も生まれている。他に聞かれたくない相談等の場合のために、相談室が用意されている。			
Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	障 36	b	㉠ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
現在、中・長期的な事業改善・改革中であり、その中で各種委員会を設けており、利用者の希望や思っていることを如何に導きだしていくかも、新たな手法で検討中である。苦情等に対応する第三者委員に関しても、市・社会福祉協議会苦情相談センターに変更する等、より相談を受けやすい体制へと改善を図っている。			
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。			
Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	障 37	a	㉠ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
ヒヤリハット委員会を設置し、事故や災害等の様々なリスクに対応するマニュアル、事例集を整備している。ヒヤリハットは朝礼・夕礼で、正規職員だけでなくパートタイマー職員にも周知徹底し、事故の未然防止に努めている。			
Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	障 38	a	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
感染症に関する予防と対応のマニュアルは整備されているが、中・長期計画の整備途上ということもあり、職員間での認識の差が推測される。吐瀉物の処理等、対応のマニュアルの中の可能なものについては、実地での模擬訓練を実施することが望まれる。			
Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	障 39	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
災害時の行動基準はあるが、利用者・職員の安否確認の方法が確立、周知されていない。大規模災害時に地域復興の鍵となる、BCP(事業継続計画)の作成も考慮されたい。			

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		自己評価	第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			
Ⅲ-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	障 40	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
「支援ガイドライン」、「日常業務マニュアル」が整備されているが、より先進的な自立支援型のサービス提供に徹するため、必要な手順・マニュアルを年度内に作りあげる予定である。そのための各種委員会を設置し、活動中である。			

Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	障 41	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
標準的な実施方法の見直しが進行中であり、ICF統合モデル(国際生活機能分類)を取り入れて作りこむ予定である。完成すれば、事業所(職場)へ来所して終わりではなく、利用者自身の自立へ向けた活動を支援する仕組みの根幹となる。それに係わる職員として、医療職・作業療法士を募集中である。			
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。			
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	障 42	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
作成手順が明文化されていないものの、アセスメントシートを基に適切な個別支援計画が立てられている。個別支援計画は、利用者、家族のニーズが反映されたものとなっている。アセスメントから個別支援計画の作成に至るまで、さらにその過程での関係者や関係機関との関わり等、一連の手順の明文化が求められる。			
Ⅲ-2-(2)-② 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	障 43	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
モニタリングは毎月実施されており、必要に応じて見直し・変更が行われる。見直しの結果、計画に変更が生じた場合の職員周知の手順が確立していない。個別支援計画の見直しのルール(実施者、頻度、見直し方法、周知方法等)を確立し、文書化を図りたい。			
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。			
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	障 44	a	㉠ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
実施間もないが、パートタイマー職員も記入できる「サービス計画実施状況進捗表」の様式を作成し、運用中である。実施状況の共有化は概ね良好である。			
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	障 45	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
「個人情報保護規程」に基づいた記録管理を行っているが、職員への周知(意識の醸成)に改善の余地がある。パソコンにはセキュリティをかけているが、パートタイマー職員をも含めた周知が必要である。			
Ⅲ-2-(4) 利用者の地域生活への移行支援を行っている。			
Ⅲ-2-(4)-① 利用者の地域生活への移行支援を積極的に行っている。	障 46		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			

Ⅲ-3 障害福祉施設の固有サービス

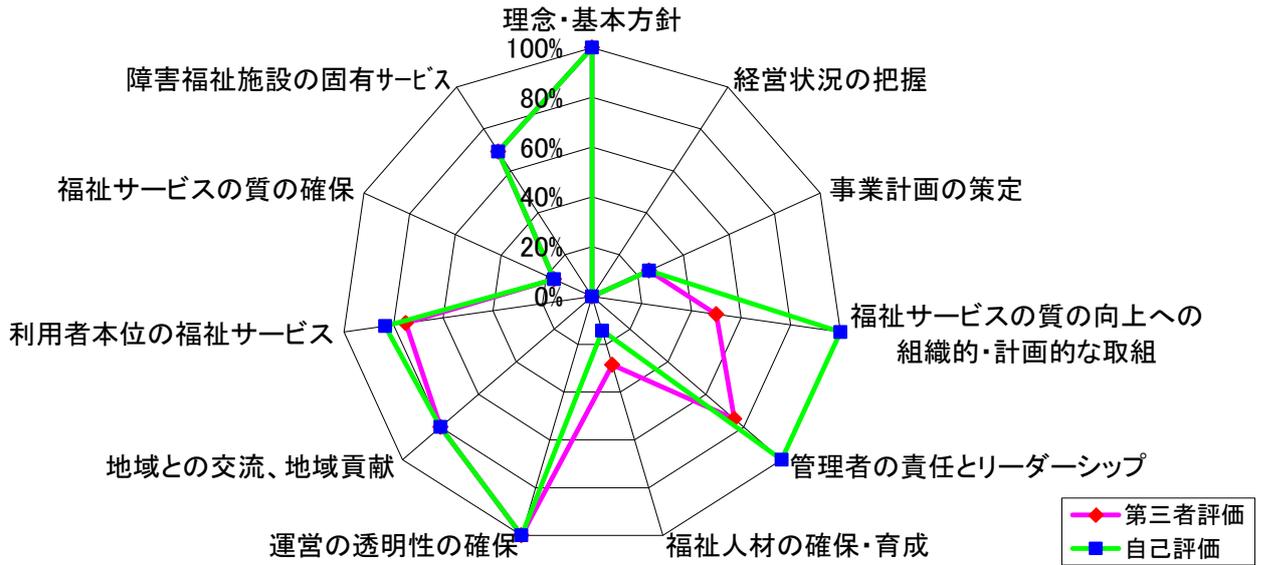
		自己評価	第三者評価結果
Ⅲ-3-(1) 利用者を尊重している。			
Ⅲ-3-(1)-①	コミュニケーション手段を確保するための支援や工夫がなされている。	障 47	b (a) ・ b ・ c
評価機関のコメント			
利用者との特記すべきコミュニケーションについては、個別支援計画書にコミュニケーション手段を記載している。手話通訳ができる職員は1名であるが、他の職員も簡単な手話をマスターしており、生活支援上での大きな問題とはなっていない。聴覚障害者の筆談や「あいうえお表」、言語障害者の「トーキングエイド」等、障害の特性によって様々な手段が講じられている。			
Ⅲ-3-(1)-②	利用者の主体的な活動を尊重している。	障 48	a (a) ・ b ・ c
評価機関のコメント			
基本的に利用者の希望を尊重する支援が行われているが、選択が必要な場合でも、3つは選択肢を用意し、選んでもらえるようにしている。利用者懇談会の実施により、利用者の積極的な発言機会が増えており、精神的な自立に向けての大きな進歩となった。			
Ⅲ-3-(1)-③	利用者の自力で行う日常生活上の行為に対する見守りと支援の体制が、整備されている。	障 49	a (a) ・ b ・ c
評価機関のコメント			
事業所の所在圏域の事情もあり、利用者の利用形態は曜日時間等が様々であるが、月ごとの利用者の利用形態を1枚のシートにまとめ、誰でもわかるように工夫を凝らし、全ての利用者をもれなく支援できるようにしている。歩行、移乗、食事、排泄等の支援にあたっては過介助にならないよう、常に配慮している。			
Ⅲ-3-(1)-④	利用者のエンパワメントの理念に基づくプログラムがある。	障 50	b a ・ (b) ・ c
評価機関のコメント			
社会生活プログラムとしての買い物プログラムについて、買いたい物を決めるのに利用者が意見を述べあう機会をもうけ、最終決定に結び付けている。お互いの意見を聞きながら自らも意見を述べる機会としたことで、利用者本人の意思表示力や意志力の向上に繋がる相乗効果が起きている。今後、プログラムをさらに充実させることを期待したい。			
Ⅲ-3-(2) 食事の支援が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(2)-①	個別支援計画に基づいた食事サービスが用意されている。	障 51	a (a) ・ b ・ c
評価機関のコメント			
利用者ごとに食事形態や水分補給等、必要項目を個別支援計画に盛り込んで適切に支援している。アレルギーや栄養量、肥満等の課題は、委託の管理栄養士にも相談している。			
Ⅲ-3-(2)-②	食事は利用者の嗜好を考慮した献立を基本として美味しく、楽しく食べられるように工夫されている。	障 52	a (a) ・ b ・ c
評価機関のコメント			
利用者懇談会での食事提供について出された意見を委託調理会社に伝達し、献立に反映させている。メニュー表では「魚」と表記されている場合は、当日の朝、魚の種類を聞いて、魚の名前を利用者に伝えている。			
Ⅲ-3-(2)-③	喫食環境(食事時間を含む)に配慮している。	障 53	a (a) ・ b ・ c
評価機関のコメント			
職員と厨房(委託会社)とが連携しており、行事や作業の関係で食事の開始時間が遅れる場合には、事前に厨房に連絡して開始時間に合わせて出食してもらっている。温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で提供しようとの配慮がある。照明はLEDライトで、食堂全体に適切な明るさがある。			

Ⅲ-3-(3) 入浴の支援が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(3)-① 入浴は、利用者の障害程度や介助方法など個人的事情に配慮している。	障 54		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(3)-② 入浴は、利用者の希望に沿って行われている。	障 55		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(3)-③ 浴室・脱衣場等の環境は適切である。	障 56		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(4) 排泄の支援が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(4)-① 排泄介助は快適に行われている。	障 57	b	a ・ ㉞ ・ c
評価機関のコメント			
排泄介助で特別な支援を必要とする利用者には、それぞれに介助の方法を記載したマニュアルを作成しており、個別支援計画にも謳ってある。排泄介助の特殊なケース(排泄用具の使用法、衛生や防臭等)について、一部マニュアルがないものがあり、整備を進めている。			
Ⅲ-3-(4)-② トイレは清潔で快適である。	障 58	a	㉞ ・ b ・ c
評価機関のコメント			
トイレは冷暖房が完備され、全てが温水式便座である。水と洗剤を使った掃除は週1回であるが、汚れた時には即座に掃除しており、常に清潔が保たれている。換気が行き届き、臭気も気にならない。			
Ⅲ-3-(5) 衣服についての支援が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(5)-① 利用者の個性や好みを尊重し、衣服の選択について支援している。	障 59		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(5)-② 衣服の着替え時の支援や汚れに気づいた時等の対応は適切である。	障 60		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			

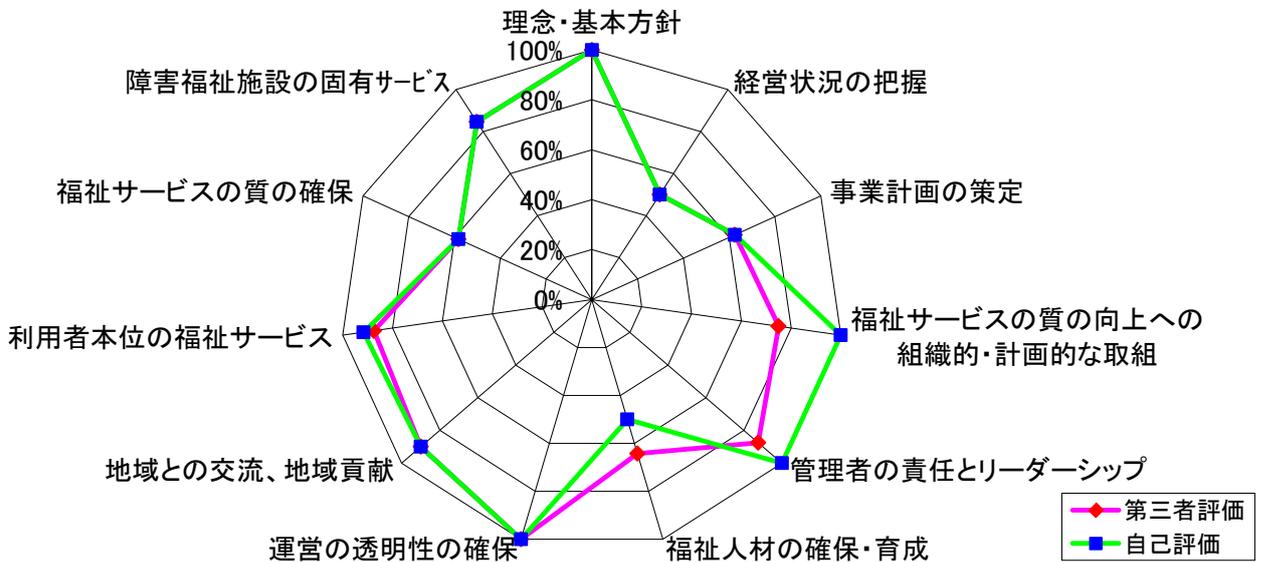
Ⅲ-3-(6) 理容・美容についての支援が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(6)-①	利用者の個性や好みを尊重し、選択について支援している。	障 61	a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(6)-② 理髪店や美容院の利用について配慮している。			
Ⅲ-3-(6)-②	理髪店や美容院の利用について配慮している。	障 62	a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(7) 睡眠についての支援が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(7)-①	安眠できるように配慮している。	障 63	a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(8) 健康管理が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(8)-①	日常の健康管理は適切である。	障 64	a a ・ ① ・ c
評価機関のコメント			
健康管理に関する各種のマニュアルが整備され、看護師による健康管理が行われている。歯科医師や歯科衛生士等による口腔ケアの取り組みはないが、家族からの依頼がある利用者に限って、職員が歯ブラシや歯間ブラシ等で対応している。本人が自身で健康管理する中、自主的に休憩をとること場合もある。歯のトラブルから体調を崩す例も多く、専門職(歯科衛生士等)による口腔ケアの検討を望みたい。			
Ⅲ-3-(8)-②	必要な時、迅速かつ適切な医療が受けられる。	障 65	b a ・ ① ・ c
評価機関のコメント			
指定協力医(総合病院)までの所要時間が車で25分程度かかり、緊急時の対応が危惧される。様々な障害特性を持った利用者があり、受診を必要とするケースも様々なので、緊急時にも適切な医療が受けられるよう、利用者それぞれの担当病院(かかりつけ医)の把握に努めている。			
Ⅲ-3-(8)-③	内服薬・外用薬等の扱いは確実にされている。	障 66	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
服薬の必要がある利用者については、医療機関からの処方箋をコピーして管理している。朝、通所時に薬を受け取り、投薬時には2名以上の職員が名前の確認をしてから実施している。このダブルチェックを欠かさず、これまでに問題はない。			
Ⅲ-3-(9) 余暇・レクリエーションが適切に行われている。			
Ⅲ-3-(9)-①	余暇・レクリエーションは、利用者の希望に沿って行われている。	障 67	a ① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
基本的な考え方として、余暇やレクリエーションに関しては、利用者アンケートを基に内容を決めることとしている。旅行の場合は、複数の候補地の中から、アンケート調査によって利用者が行先を決定している。法人内には旅行事業もあり、障害に応じた施設外での外出プログラムが組めるのが強みとなっている。			

Ⅲ-3-(10) 外出、外泊が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(10)-① 外出は利用者の希望に応じて行われている。	障 68		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(10)-② 外泊は利用者の希望に応じるよう配慮されている。	障 69		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(11) 所持金・預かり金の管理等が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(11)-① 預かり金について、適切な管理体制が作られている。	障 70		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(11)-② 新聞・雑誌の購読やテレビ等は利用者の意志や希望に沿って利用できる。	障 71		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			
Ⅲ-3-(11)-③ 嗜好品(酒、たばこ等)については、健康上の影響等に留意した上で、利用者の意志や希望が尊重されている。	障 72		a ・ b ・ c
評価機関のコメント			
非該当			

評価項目数に対してa(出来ている)項目数の割合



評価項目数に対してb(ある程度出来ている)項目数の割合



評価項目	第三者評価								自己評価							
	結果数 a	結果数 b	結果数 c	a%	b%	c%	a+0.5b/項目数	結果数 a	結果数 b	結果数 c	a%	b%	c%	a+0.5b/項目数		
理念・基本方針	1	0	0	100%	0%	0%	100%	1	0	0	100%	0%	0%	100%		
経営状況の把握	2	0	2	0%	100%	0%	50%	0	2	0	0%	100%	0%	50%		
事業計画の策定	4	1	3	25%	75%	0%	63%	1	3	0	25%	75%	0%	63%		
福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	2	1	1	50%	50%	0%	75%	2	0	0	100%	0%	0%	100%		
管理者の責任とリーダーシップ	4	3	1	75%	25%	0%	88%	4	0	0	100%	0%	0%	100%		
福祉人材の確保・育成	7	2	5	29%	71%	0%	64%	1	5	1	14%	71%	14%	50%		
運営の透明性の確保	2	2	0	100%	0%	0%	100%	2	0	0	100%	0%	0%	100%		
地域との交流、地域貢献	5	4	1	80%	20%	0%	90%	4	1	0	80%	20%	0%	90%		
利用者本位の福祉サービス	12	9	3	75%	25%	0%	88%	10	2	0	83%	17%	0%	92%		
福祉サービスの質の確保	6	1	5	17%	83%	0%	58%	1	5	0	17%	83%	0%	58%		
障害福祉施設の固有サービス	13	9	4	69%	31%	0%	85%	9	4	0	69%	31%	0%	85%		
合計	58	33	25	57%	43%	0%	78%	35	22	1	60%	38%	2%	79%		

28年度受講研修			
	日時 場所	主催者	タイトル・テーマ・講師
1	5月10日	県社協	経営者委員会(総会)並びに社会福祉法人経営者セミナー 福祉人材の定着・育成支援のヒント
2	5月18日	日本福祉車両 協会	送迎(福祉)車両安全運転講習会 ・事故発生メカニズム 大型車の側面を擦らない運転方法
3	5月24日	名古屋市	平成28年度障害者虐待相談職員研修会(基礎編) ・虐待防止法について 対応のポイント 事務手順について 対象 区役所 保健所 基幹
4	6月3日	日本福祉大学	実習指導者事前研修
5	6月7日	市社協	新任職員基礎研修 ・仕事に人権感覚をいかす チームケアの一員として求められる役割
6	6月 9・10日	市社協	大都市社会福祉施設協議会(名古屋市大会)
7	6月20日	市社協	障害者福祉制度研修 ・差別解消法の理解
8	6月21日	りんくす	就労支援事業所職員勉強会 発達障害のある人への支援 3回連続コースではない。 ・事例検討を中心とした勉強会
9	6月27日	愛知県	現任研修 相談支援2年以上経験者
10	6月30日	愛知県	現任研修 相談支援2年以上経験者
11	7月1日	愛知県	現任研修 相談支援2年以上経験者
12	7月7・8日	セルプ	総合支援法改正のその先を見据えたセルプのあるべき姿とは
13	7月14日	名古屋市	精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携(基幹職員対象) 愛知淑徳大学 瀧 誠
14	7月15日	県社協	社会福祉法人会計基礎研修 A会計実務担当職員 B経営に関わる方向け
15	7月19日	名北労働基準 協会	労務管理研修 ・良好な職場環境整備のための労務管理
16	7月21日	愛知県	現任研修 相談支援2年以上経験者
17	7月22日	愛知県	現任研修 相談支援2年以上経験者
18	7月22日	ヤマト福祉財 団	重い障害のある人の働く場づくり ・武蔵野千川福祉会「知的障害者の働く場作り」 ・社会福祉法人はる「精神障害者の仕事と暮らし」 ・よさのうみ福祉会「選べる仕事場 京都府与謝野町での取り組み」
19	7月28日	名古屋市	精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携(基幹職員対象) 愛知淑徳大学 瀧 誠
20	8月10日	市社協	指導的職員研修 ・人材育成の為にコーチング技術 株式会社 WOOMAX 松本理恵
21	8月16日	愛知県	初任者研修課程 資格要件必要
22	8月29日	愛知県	初任者研修課程 資格要件必要
23	8月 18・19日	県社協	管理者研修課程 ・福祉専門職としての基本的な姿勢や知識を習得します。また、地震の可能性を開発することの大切さを理解し、キャリアデザインと自己管理のあり方を考えます。
24	8月 22・23日	全社協	経営塾(前期) ・～社会福祉法人経営の更なる向上をめざして～

25	8月26日	ソウエル	メンタルヘルス講習会 管理者向け メンタルヘルスライン ・アイスブレイク ・エコグラム診断体操 ・ストレスに関する基礎知識 ・ストレス診断体操 ・リラクゼーション法 ・自分自身にあったストレス解消法 ・職場のメンタルヘルス不全について ・職場におけるメンタルヘルス対策 ・事例
26	9月6日	市社協	個別支援計画作成基礎研修 ・利用者の望む生活を支援するための個別支援計画 リハセン 鈴木智敦 ねーぶる 江尻 森孝 上高さん こすもす畑 高橋さん パスプランナー 横山さん
27	9月16日	市社協	救急救命研修 ・応急手当の基礎知識実技演習 名古屋市救急救命研修所 指導員
28	9月26日	愛知県	初任者研修課程 資格要件必要
29	9月28日	市社協	救急救命研修 ・応急手当の基礎知識実技演習 名古屋市救急救命研修所 指導員
30	10月20日	愛知県	初任者研修課程 資格要件必要
31	10月21日	愛知県	初任者研修課程 資格要件必要
32	10月24日	市社協	障害分野別研修 知的 ・知的障害者の意思決定 長野県北信圏域障害者生活支援センター所長 日本相談支援専門員協会 顧問 相談支援専門員 福岡 寿氏
33	10月26日	名古屋市	相談支援従事者 中堅者研修 研修と現場OJTを組み合わせた取り組み概要
34	10月 27・28日	ソウエル	広報講習会 ・現代社会における広報の役割について 広報誌とは 広報誌の作り方 企画の立て方 原稿作成までの具体的な進め方 原稿の書き方
35	10月31日	市社協	救急救命研(上級) ・応急手当の基礎知識実技演習 ・緊急時対処方法 名古屋市救急救命研修所 応急手当研修センター 指導員
36	11月8日	市社協	中堅職員研修 ・ファシリテーターの役割 みんなが力を発揮できる会議の進め方 株式会社ひとまち 奥西 春美氏
37	11月11日	市社協	介護技術研修 ・体位変換と移乗介助の基本 日本福祉大学中央福祉専門学校 介護福祉士科専任教員 板部 美紀子氏 介護福祉士科学科長 高木 直美氏
38	11月 17・18日	全社協	経営塾(後期) ・～社会福祉法人経営の更なる向上をめざして～
39	11月18日	名古屋市	精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携(基幹職員対象) 愛知淑徳大学 瀧 誠
40	11月30日	市社協	社会貢献研修 ・社会福祉施設の社会貢献とは ・社会福祉充実計画の作成 日本福祉大学福祉経営学部 招聘教授 田島 誠一氏
41	12月1日	名古屋市	相談支援従事者 全体研修 名古屋市子ども応援委員会との連携
42	12月16日	市社協	相談援助技術研修 ・精神障害がある方への相談支援 日本社会事業大学 専門職大学院 教授 古屋 龍太氏

43	12月20日	名古屋市	相談支援従事者 中堅者研修 事例を基にした振り返り参加型のグループワーク
44	12月20日	市社協	新任職員ステップアップ研修 ・業務の振り返る チーム力アップの為のコミュニケーションスキル 株式会社Woomax 松本 理恵 氏
45	1月20日	市社協	「人材育成研修」 ・「チームリーダーを育てるキャリアデザインについて考える」 Cプロジェクト(中小企業診断士事務所) 代表 元岡 征志 氏 日本福祉大学 福祉経営学部(通信教育) 教員(中小企業診断士/社会福祉士)
46	1月 27日・28 日	名古屋市リハ ビリテーション 事業団	高次脳機能障害地域生活援助者養成研究事業 全国研修
47	1月27日	市社協	救急救命研修(上級) ・「救急法について学ぶ～“いざ”というときのための応急手当(上級救命講習)～」 名古屋市救急救命研修所 応急手当研修センター 指導員
48	1月31日	市社協	「権利擁護支援者研修」 ・「高齢者、障がい者のための権利擁護支援 ～住み慣れた地域で安心して生活を送る ために」 名古屋市社会福祉協議会 権利擁護推進部 次長 高橋健輔 氏 名古屋市障害者差別相談センター センター長 神村昌克 氏 名古屋市市民後見人
49	2月3日	市社協	「就労支援研修」 ・「就労支援従事者のためのSST研修」 同朋大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 吉田 みゆき 氏
50	2月20日	市社協	「障がい分野別研修(精神)」 ・「精神障がいの特性と支援を考える～当事者・家族の思いから～」 名古屋市精神障害者家族会連合会 当事者・家族の皆様 地域活動支援センター「ピアセンターなないろ」の皆様
51	2月21日	市社協	救急救命研修(上級) ・「救急法について学ぶ～“いざ”というときのための応急手当(上級救命講習)～」 名古屋市救急救命研修所 応急手当研修センター 指導員
52	3月10日	名古屋市	精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携(基幹職員対象) 愛知淑徳大学 瀧 誠
53	2月23日	名古屋市	精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携(基幹職員対象) 愛知淑徳大学 瀧 誠

作品展障害別出品者数

28年度

	肢体	視覚	聴覚	内部	知的	精神	重複	その他・不	計
書道	40	1	5	2	8	1	13	4	74
絵画	36	23	7	0	34	14	0	1	115
写真	15	2	4	1	2	2	1	0	27
手芸	22	7	8	1	3	1	4	1	47
工芸	24	11	7	0	1	1	6	1	51
計	137	44	31	4	48	19	24	7	314

27年度

	肢体	視覚	聴覚	内部	知的	精神	重複	その他・不	計
書道	39	2	13	1	7	1	2	1	66
絵画	43	5	16	0	34	8	10	0	116
写真	21	2	2	1	6	1	1	0	34
手芸	21	5	9	1	6	2	2	0	46
工芸	15	15	7	0	2	1	0	1	41
計	139	29	47	3	55	13	15	2	303

26年度

	肢体	視覚	聴覚	内部	知的	精神	重複	その他・不明	計
書道	23	3	6	3	5	2	0	18	60
絵画	30	7	7	0	20	4	0	11	79
写真	29	4	6	0	1	1	0	0	41
手芸	15	5	8	0	10	3	1	6	48
工芸	22	12	17	0	3	2	0	0	56
計	119	31	44	3	39	12	1	35	284

25年度

	肢体	視覚	聴覚	内部	知的	精神	重複	その他・不明	計
書道	24	2	3	4	2	3	1	19	58
絵画	26	10	28	0	19	5	0	9	97
写真	25	2	1	0	11	2	0	2	43
手芸	28	5	12	0	8	0	0	8	61
工芸	17	10	15	2	2	1	0	2	49
計	120	29	59	6	42	11	1	40	308

24年度

	肢体	視覚	聴覚	内部	知的	精神	重複	その他・不明	計
書道	22	1	3	1	3	3	1	1	35
絵画	19	4	26	2	0	1	0	21	73
写真	16	3	3	0	5	2	0	0	29
手芸	20	3	15	2	2	0	0	8	50
工芸	22	14	27	0	0	4	0	4	71
計	99	25	74	5	10	10	1	34	258

利用者の状況

第一移行

定員6名

	稼働日	登録人数(3月末)	新規利用者数	退所者数	年間延べ人数	年間平均利用者数	年間出席率(%)
28年度	242	2	7	7	432	1.79	29.75%
27年度	242	2	7	13	794	3.28	54.68%
26年度	244	6	15	12	756	3.10	51.64%
25年度	244	3	6	9	945	3.87	64.55%
24年度	244	6	7	6	940	3.85	64.21%

第一B

定員24名

	稼働日	登録人数(3月末)	新規利用者数	退所者数	年間延べ人数	年間平均利用者数	年間出席率(%)
28年度	242	32	4	3	6,384	26.38	109.92%
27年度	242	29	7	5	5,278	21.81	90.87%
26年度	244	29	9	9	6,099	25.00	104.15%
25年度	244	27	5	2	5,649	23.15	96.47%
24年度	244	25	6	8	5,678	23.27	96.96%

第一生活介護

定員20名

	稼働日	登録人数(3月末)	新規利用者数	退所者数	年間延べ人数	年間平均利用者数	年間出席率(%)
28年度	242	39	4	7	4,902	20.26	101.28%
27年度	242	41	6	5	5,028	20.78	103.88%
26年度	244	41	7	7	5,432	22.26	111.31%
25年度	244	40	2	4	5,520	22.62	113.11%
24年度	243	42	9	2	4,976	20.48	102.39%

第二B

定員20名

	稼働日	登録人数(3月末)	新規利用者数	退所者数	年間延べ人数	年間平均利用者数	年間出席率(%)
28年度	242	18	2	2	3,476	14.36	71.82%
27年度	241	18	7	3	3,162	13.12	65.60%
26年度	244	14	3	3	2,531	10.37	51.86%
25年度	244	13	2	1	2,507	10.27	51.37%
24年度	244	11	1	1	2,376	9.74	48.69%

第二生活介護

定員40名

	稼働日	登録人数(3月末)	新規利用者数	退所者数	年間延べ人数	年間平均利用者数	年間出席率(%)
28年度	242	69	7	13	7,888	32.60	81.49%
27年度	241	79	12	11	8,382	34.78	86.95%
26年度	244	78	7	7	8,601	35.25	88.13%
25年度	244	78	7	6	8,613	35.30	88.25%
24年度	244	77	10	5	7,855	32.19	80.48%

◆ろうネイティブコース

24年度	クラス		受講者数	修了者数
	金曜日	昼の部		
	合計		17	13

25年度	クラス		受講者数	修了者数
	月曜日	昼の部		
	合計		25	13

26年度	クラス		受講者数	修了者数
	月曜日	昼の部		
	木曜日	昼の部	21	21
	金曜日	夜の部	17	14
	合計		64	59

27年度	クラス		受講者数	修了者数
	月曜日	昼の部		
	金曜日	夜の部	13	7
	合計		32	25

28年度	クラス		受講者数	修了者数
	月曜日	昼の部		
	木曜日	夜の部	20	15
	合計		44	36

※申込多数で7名が抽選から漏れたため申込者数は51名

◆ろうネイティブお試しコース

28年度	クラス		受講者数
	月曜日	昼の部	
	木曜日	昼の部	27
	木曜日	夜の部	19
	合計		53

※受講者53名のうち29年度ろうネイティブに申し込んだのは30名(約57%)

※29年度ろうネイティブの受講者数は50名(申込多数で5名が抽選から漏れたため申込者数は55名)

ヘルパーセンターの状況

利用者数

	26年度	27年度	28年度
同行援護	142	136	134
重度訪問介護	15	16	17
居宅介護	3	5	4
移動支援	12	13	11
計	172	170	166

ヘルパー数

	26年度	27年度	28年度
登録数	129	110	115

派遣件数

	26年度	27年度	28年度
同行援護	11,523	11,371	11,221
重度訪問介護	1,042	1,087	1,141
居宅介護	119	167	176
移動支援	921	932	1,010
計	13,605	13,557	13,548

総請求額

	26年度	27年度	28年度
同行援護	104,410,282	104,358,262	101,505,940
同行 他市	368,337	752,135	1,165,005
重度訪問介護	7,329,209	6,607,849	6,728,554
居宅介護	423,828	381,083	427,770
移動支援	4,081,540	4,287,000	3,734,600
計	116,613,196	116,386,329	113,561,869

名身連旅行センター 企画ツアー 事業報告

1 期間	自 平成28年4月 1日 至 平成29年3月31日
2 参加人数	延べ 201名
3 企画回数	11回
4 実施回数	10回

ツアー実施内容

実施日	ツアー名	方面	行き先	参加者数
4/23(土)	春らんまん♪三重でアナゴづくし ランチと椿大神社	三重県	椿大神社(自由散策)～魚長(昼食) ～ アクアイグニス(自由散策)	19名(障害者11名 健常者8名)
6/24(土)	料理旅館で食す 旨さ豪快! 越前 7大グルメコース	福井県	旅館宿かり(昼食 福井県越前市)～ 道の駅越前(買い物)～越前そばの 里(試食&買い物)	30名(障害者24名 健常者6名)
7/18(月)	浜松名物うなぎ& ホテルスイーツバイキング	静岡県	さかな家物産店(昼食) ～浜松ガーデンパーク(自由散策) ～道の駅潮見坂(買い物) ～ロワジュールホテル豊橋(スイーツバ イキング)	20名(障害者13名 健常者7名)
8/28(日)	夏の終わりの京都はいかが 嵐山散策(90分)&鱧づくし膳	京都府	レストラン嵐山(昼食)～嵐山(自 由散策)～京つけもの もり(買い物)	22名(障害者13名 健常者9名)
9/13(火)	ぎふ長良川 鶺鴒	岐阜県	長良川鶺鴒会場～岐阜都ホテル ～JR岐阜駅	18名(障害者10名 健常者8名)
10/8(土)	南信州おいしさ満喫 +体験の旅(おやき作り)	長野県	おぎのやドライブイン諏訪インター 店(自由昼食)～みはらしファーム (おやき作り体験&ぶどう狩り)	催行中止
11/23(水)	紅葉と食欲の秋です できたてスイーツと 近江牛を楽しむ旅	滋賀県	岡喜本店(近江牛昼食)～ラコリーナ近 江八幡(お菓子の買い物)～彦根城・玄 宮園(自由散策)～胡麻の郷(買い物) ※胡麻の郷は行程の都合上、立寄り出 来ませんでした。	26名(障害者19名 健常者7名)
12/10(土)	年末恒例! お買い物ツアー～福井～	福井県	越前そばの里(買い物)～瀧雅(昼食) ～日本海さかな街(買い物)～敦賀昆 布館(買い物)	16名(障害者8名 健常者8名)
1/14(土)	新春企画! 南知多いちご狩りと 野間大坊	愛知県	野間大坊(自由参拝)～まるは食堂豊 浜本店(昼食)～えびせんべいの里(買 い物)～いちご狩り会場	13名(障害者7名 健常者6名)
2/18(土)	渥美半島菜の花まつりツアー	愛知県	伊良湖シーパーク&スパ(昼食)～菜 の花まつり会場(自由散策)～道の駅 田原めっくんはうす(買い物)	21名(障害者11名 健常者10名)
3/20(月)	しだれ梅祭り開催中 鈴鹿の森庭園& 癒しと食の総合リゾート アクアイグニス	三重県	名阪関ドライブイン(昼食)～鈴鹿の 森庭園(散策)～アクアイグニス(買 い物)	16名(障害者10名 健常者6名)

平成28年度 研修・講習会依頼および講師派遣一覧表

	講座名・内容	期日・時間	場所	受講対象者	派遣講師	備考
中京大学 現代社会学部	ソーシャルワーク演習 全4コマ 90分/1コマ	平成28年5月19日 (木)、6月2日(木)、6 月9日(木) 11時10分～12時40分	中京大学 豊田キャンパス	現代社会学部学生	谷川局長	
社会福祉法人 一宮市社会福祉協議会	一宮市点訳ボランティア講習会	平成28年6月14日(火)より、毎週火曜日(8月16 日は除く)全10回 13時30分～15時30分	一宮市社会福祉協議会大 和事務所	一宮市内在住・在勤の方 募集定員10名	近藤	
介護労働安定センター	28年度介護労働講習	平成28年6月24日(金)、 27日(金)、7月20日 (水)、28日(木)	栄・第一ビル		富田参与、久野所長、 高山主任、小藪看護師	
名古屋市知的障害者施設 連絡協議会	ケアマネジメント研修	平成28年7月5日(火)、8 月22日(月)、9月16日 (金)10月18日(火)11月 17日(木)、12月13日(火)	ビーグル名古屋		久野所長	
県立南陽高校	手話についての講義および実習	平成28年7月7日(木)	県立南陽高校	2年生 福祉科目選択者	笹川所長、光部	
日本福祉大学 健康福祉学部	国試対策講座 就労支援サービ ス論 全1コマ 90分/1コマ	平成28年7月7日(木) 9時30分～11時00分	日本福祉大学 半田キャンパス		谷川局長	
日本福祉大学 健康福祉学部	就労支援サービス論 全8コマ 90分/1コマ	平成28年9月9日(金)、10 日(土) 9時30分～16時45分	日本福祉大学 半田キャンパス	健康福祉学部学生	谷川局長	
市健康福祉局総務課	各区役所福祉コンシェルジュ 聴覚障害者への対応	平成28年10月14日(金) 13:30～14:30	市役所	各区役所福祉コンシェルジュ	笹川所長	
		平成28年10月28日(金) 13:30～14:30	市役所	各区役所福祉コンシェルジュ	笹川所長	
名古屋家庭裁判所	聴覚障害者への配慮のあり方、 及び対応方法の実習等	平成28年11月11日(金) 13:10～16:10	名古屋家庭裁判所	裁判所職員	谷川局長、笹川所長	通訳:浜島
介護労働安定センター	28年度同行援護従事者養成研 修一般過程	平成28年11月15日(火)	住友生命名古屋ビル		細江副所長	
株式会社コングレ	マイノリティ研修 施設に来館された障害者 (聴覚・肢体)の方への対応法	平成28年11月28日(月) 1回目10:00～12:00 2回目13:30～15:30	日本特殊陶業市民会館	日本特殊陶業市民会館職員	笹川所長(聴覚) 山尾主管(車椅子)	
名聴会	手話通訳問題研修会 救急搬送時の手話通訳派遣	平成28年12月10日(土) 13:00～14:00	あいち聴言センター	名聴会会員、愛通研会員	笹川所長	障害企画課原係長
県立南陽高校	手話についての講義および実習	平成28年12月12日(月) 11:55～12:45	県立南陽高校	2年生 福祉科目選択者	笹川所長、浜島	
株式会社コングレ	マイノリティ研修 施設に来館された障害者 (聴覚・視覚)の方への対応法	平成28年12月26日(月) 14:00～15:00(聴覚) 15:10～16:10(視覚)	名古屋国際会議場	名古屋国際会議場職員	笹川所長(聴覚) 細江副所長(視覚)	通訳:加藤
ブラザーリビングサービス	ブラザー-障害者職業生活相談員 向け勉強会	平成29年3月21日(火) 15:10～16:40	ブラザー-研修所ビースクエア	ブラザー-障害者職業生活相談 員	谷川局長、笹川所長	通訳:光部
全重協 中部ブロック	障害者が安心して暮らせる社会 を実現するために ～知的障害者の加齢について考 える～	平成29年2月17日(金)	ウインク愛知	全重協 中部ブロック	久野所長	
愛知淑徳大学	障害者に対する支援と障害者自 立支援制度Ⅱ	平成29年2月20日(月)、 21日(火)、22日(水)	愛知淑徳大学 長久手キャンパス	福祉貢献学部1年生	谷川局長、久野所長、 その他管理者、利用者	
株式会社コングレ	マイノリティ研修 障害者差別解消法の基礎知識と 公共施設に勤務する職員の 基本的な心構えなど	平成29年3月6日(月) 10:30～12:00	名古屋国際会議場	名古屋国際会議場職員	久野所長、近藤	差別解消センター長 神村昌克氏
愛知県立看護専門学校	看護師国家資格試験に向けて、 社会福祉の学習強化を図る。 全2コマ 90分/1コマ	平成29年1月25日(水) 9:00～12:15	県立愛知看護専門学校	看護学生	谷川局長	

平成28年度 雇用管理アドバイザー派遣一覧表

	講座名・内容	期日・時間	場所	受講対象者	派遣講師	備考
フタバ産業 田原工場	聴覚障害者への対応	平成29年3月9日(木) 15:00～16:00	フタバ産業田原工場	所属上司・人事担当等 聴覚障害の社員		谷川局長、笹川所長
フタバ産業 幸田工場	聴覚障害者への対応	平成29年3月16日(木) 13:00～14:00	フタバ産業幸田工場	所属上司・人事担当等 聴覚障害の社員		谷川局長、笹川所長

本部

理事会及び評議員会

事項	期間	場所	摘要
第100回 評議員会	平成28年 5月24日	名身連 福祉センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成27年度事業報告（案） 2. 平成27年度全会計資金収支計算書（案） 3. 平成27年度全会計事業活動収支計算書（案） 4. 平成27年度全会計貸借対照表（案） 5. 平成27年度財産目録（案） 6. 名身連福祉センター屋上給湯設備の更新工事について（案） 7. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①熊本震災義援金について ②ホームページリニューアルについて
第120回 理事会	平成28年 5月24日	名身連 福祉センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成27年度事業報告（案） 2. 平成27年度全会計資金収支計算書（案） 3. 平成27年度全会計事業活動収支計算書（案） 4. 平成27年度全会計貸借対照表（案） 5. 平成27年度財産目録（案） 6. 名身連福祉センター屋上給湯設備の更新工事について（案） 7. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①熊本震災義援金について ②ホームページリニューアルについて
第101回 評議員会	平成28年 10月27日	名身連 福祉センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉法人改革に基づく変更等について <ol style="list-style-type: none"> ①社会福祉法人改革について ②新体制関係図（案） ③名身連組織図（案） ④定款変更（案） ⑤評議員選任・解任委員会運営細則の制定（案） ⑥評議員選任・解任委員（案） 2. 諸規程の変更 <ol style="list-style-type: none"> ①就業規則改正の概要 ②就業規則（案） ③嘱託職員就業規則改正の概要 ④嘱託職員就業規則（案） ⑤福祉・介護職員処遇改善加算概要 ⑥処遇改善特別手当支給要綱 ⑦名身連ヘルパーセンター・介護及び名身連ヘルパーセンター移動従事者報酬等支給要綱 ⑧職員給与規程新旧対照表 ⑨職員給与規程（案） ⑩職員の降格申出に関する要綱（案） 3. 平成28年度 名身連全会計補正予算書（案） 4. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・名身連の新キャラクター名の公募について

<p>第121回 理事会</p>	<p>平成28年 10月27日</p>	<p>名身連 福祉センター</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉法人改革に基づく変更等について <ol style="list-style-type: none"> ①社会福祉法人改革について ②新体制関係図 ③名身連組織図（案） ④定款変更（案） ⑤評議員選任・解任委員会運営細則の制定（案） ⑥評議員選任・解任委員（案） 2. 諸規程の変更 <ol style="list-style-type: none"> ①就業規則改正の概要 ②就業規則（案） ③嘱託職員就業規則改正の概要 ④嘱託職員就業規則（案） ⑤福祉・介護職員処遇改善加算概要 ⑥処遇改善特別手当支給要綱 ⑦名身連ヘルパーセンター・介護及び名身連ヘルパーセンター移動従事者報酬等支給要綱 ⑧職員給与規程新旧対照表 ⑨職員給与規程（案） ⑩職員の降格申出に関する要綱（案） 3. 平成28年度 名身連全会計補正予算書（案） 4. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・名身連の新キャラクター名の公募について
<p>第122回 理事会</p>	<p>平成29年 1月11日</p>	<p>名身連 福祉センター</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉法人改革について <ol style="list-style-type: none"> ①評議員の推薦について ②会計監査人の公募について 2. 諸規程の変更 <ol style="list-style-type: none"> ①就業規則（案） ②嘱託職員就業規則（案） ③給与規程（案） ④育児・介護休業等に関する規則（案） ⑤妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント及びセクシュアルハラスメントの防止に関する規程（案） 3. 名古屋市社会福祉協議会の福祉サービス苦情相談センターとの契約について（案） 4. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①職員について ②定款変更について ③名身連キャラクターについて

<p>第123回 理事会</p>	<p>平成29年 3月28日</p>	<p>名 身 連 福祉センター</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度 名身連全会計資金収支補正予算書（案） 2. 平成29年度 事業計画（案） 3. 平成29年度 名身連全会計資金収支予算書（案） 4. 諸規程の変更（案） <ol style="list-style-type: none"> ①定款施行細則 ②会長専決規程 ③代決規程 ④資金運用規程 ⑤個人情報保護規程 ⑥個人情報管理規程 ⑦経理規程 5. さんさん号新規リース契約について 6. 名身連福祉センター 屋上給湯設備の更新工事について 7. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①定款変更について ②新評議員について ③会計監査人選定に係る公募結果について
<p>第102回 評議員会</p>	<p>平成29年 3月28日</p>	<p>名 身 連 福祉センター</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度 名身連全会計資金収支補正予算書（案） 2. 平成29年度 事業計画（案） 3. 平成29年度 名身連全会計資金収支予算書（案） 4. 諸規程の変更（案） <ol style="list-style-type: none"> ①定款施行細則 ②会長専決規程 ③代決規程 ④資金運用規程 ⑤個人情報保護規程 ⑥個人情報管理規程 ⑦経理規程 5. さんさん号新規リース契約について 6. 名身連福祉センター 屋上給湯設備の更新工事について 7. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①定款変更について ②新評議員について ③会計監査人選定に係る公募結果について

平成28年度 会 務 報 告

期 日	事 項	場 所
H28. 5. 8	第13回名古屋市障害者スポーツ大会 陸上競技・フライングディスク競技の部	瑞穂陸上競技場
H28. 5. 11～12	第61回日本身体障害者福祉大会きょうと大会	京都市
H28. 5. 24	理事・評議員会	名身連福祉センター
H28. 6. 5	第13回名古屋市障害者スポーツ大会 アーチリーの部	猪高緑地公園アーチェリー場
H28. 6. 14	協会長・部会長会議	名身連福祉センター
H28. 7. 3	第52回名肢体「登山大会」	上高地（長野県）
H28. 8. 21	第13回名古屋市障害者スポーツ大会 水泳の部	障害者スポーツセンター
H28. 8. 26	第61回名古屋市身体障害者福祉大会代表者会議 協会長・部会長会議	名身連福祉センター
H28. 9. 3	第57回政令指定都市身体障害者福祉団体連絡協議会	神戸市
H28. 9. 20	第43回日身連中部ブロック身体障害者代表者会議	岐阜市
H28. 10. 2	障害者と市民のつどい・シティハンディマラソン	栄・久屋大通公園
H28. 10. 9	第42回名視協文化祭	名身連福祉センター
H28. 10. 11～12	第20回日身連中部ブロック身体障害者相談員研修会	愛知県豊橋市
H28. 10. 22～24	第16回全国障害者スポーツ大会	岩手県
H28. 10. 27	理事・評議員会	名身連福祉センター
H28. 11. 6	第61回名古屋市身体障害者福祉大会	名古屋市中区役所ホール
H28. 11. 20	第13回名古屋市障害者スポーツ大会 卓球の部	障害者スポーツセンター
H28. 11. 27	名聴言協第13回なごや手話フェスティバル	北文化小劇場
H28. 12. 4	障害者週間記念のつどい	名古屋市中区役所ホール
H29. 1. 11	理事会	名身連福祉センター
H29. 2. 7～12 H29. 2. 12	第51回名古屋市障害者作品展示会 第51回名古屋市障害者作品展示会授賞式	名古屋市博物館
H29. 2. 21～3. 16	第36回「福祉の店」	ナゴヤドーム前イオン他 全5会場
H29. 2. 24	政令指定都市団体長会議	仙台市
H29. 3. 28	理事・評議員会	名身連福祉センター

第61回名古屋市身体障害者福祉大会

身体障害者福祉の諸問題について協議を行い、今後の運動方針を確立するとともに、身体障害者の自立と社会参加を促進し、福祉の増進を図る大会を下記のとおり開催しました。

第61回の大会では市長賞および名身連会長賞を17名の方が受賞されました。また、ボランティア3団体と法人に貢献くださった企業2社に対して名身連会長より感謝状が授与されました。

大会宣言および大会決議は、8月の代表者会議で協議した名古屋市に対する要望事項に沿い、また、同年に発生して社会問題にもなった駅ホーム転落事故にも触れたものとなりました。

第二部のアトラクションでは小池可奈氏の講演と落語会を開催し、好評を博しました。

日時 平成28年11月6日（日）

場所 名古屋市中区役所ホール

第一部 式典

- ・名古屋市長表彰（自立の模範となる者）3名
- ・名古屋市長表彰（援護功労者）2名
- ・名古屋市身体障害者福祉連合会会長表彰（自立更生者）8名
- ・名古屋市身体障害者福祉連合会会長表彰（援護功労者）2名
- ・名古屋市身体障害者福祉連合会会長感謝状（内助功労者）2名
- ・名古屋市身体障害者福祉連合会会長感謝状（ボランティア）3件
- ・名古屋市身体障害者福祉連合会会長感謝状（企業）2件
- ・大会宣言及び大会決議の朗読

参加 272名

- ・各区協会・部会 143名
- ・議員・行政関係者・職員 78名
- ・一般・ボランティア 51名

第二部 アトラクション

小池 可奈 氏 講演会、落語会



福祉大会会場 舞台上の様子



アトラクションの様子

第51回名古屋市障害者作品展示会

障害者が制作した作品を一堂に展示し、障害者自身の能力開発、創作意欲の高揚、技術の練磨を促進し、広く一般社会に認識と啓蒙を図ることを目的として開催しました。第51回を迎えた今回も出品者数、来場者数とも多く、作品展が障害者の社会参加や芸術活動の機会として広く浸透していると感じさせました。また、52回以降に新しい取り組みを行うための準備も開始しました。

名古屋市長賞は、絵画の部で坂井明人さんが受賞しました。

1. 展示期間 平成29年2月7日（火）～2月12日（日）（6日間）
 2. 会場 名古屋市博物館 3Fギャラリー 第1・2・3・8室
 住所 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

3. 各部出品数	第1部 書道	74点
	第2部 絵画	121点
	第3部 写真	27点
	第4部 手芸	54点
	第5部 工芸	54点
	合計	330点

4. 最高年齢出品者 85歳（肢体）

5. 最小年齢出品者 4歳（聴覚）

6. 障害別出品者数 単位：人

	肢体	視覚	聴覚	内部	知的	精神	重複	その他・不明	計
書道	40	1	5	2	8	1	13	4	74
絵画	36	23	7	0	34	14	0	1	115
写真	15	2	4	1	2	2	1	0	27
手芸	22	7	8	1	3	1	4	1	47
工芸	24	11	7	0	1	1	6	1	51
計	137	44	31	4	48	19	24	7	314

7. 期間中の入場者数	2月 7日（火）	127人
	2月 8日（水）	95人
	2月 9日（木）	108人
	2月10日（金）	153人
	2月11日（土・祝）	136人
	2月12日（日）	251人
	合計	870人



博物館外看板



審査会の様子



市長賞受賞作品

平成28年度 オストメイト社会適応訓練事業

愛知県委託事業 年5回開催 合計 100名参加				
5	22	体験交流会・相談会 相談員 前川厚子先生(医療顧問) 佐藤 紫帆 皮膚排泄ケア認定看護師(WOCN) 名古屋市立西部医療センター 長崎優子 WOCN 社会福祉法人聖霊会 聖霊病院	ヤガミホームヘルスセンター	16名
9	3	医療特別講演会 「H28年 熊本地震の経験に学ぶ」 山形朝子 WOCN 済生会熊本病院 相談員 前川厚子先生(医療顧問) 川添美由紀 WOCN 一宮市民病院 中本加純 WOCN 稲沢厚生病院 太田佳奈子 WOCN 名古屋大学付属病院 岡庭恵子 WOCN 名古屋大学付属病院	ヤガミホームヘルスセンター	27名
12	3	体験交流会・相談会 相談員 伊藤桂子 WOCN 公立陶生病院 中本加純 WOCN 稲沢厚生病院	ヤガミホームヘルスセンター	32名
1	21	ストーマケア研修会 前川厚子先生(医療顧問) 清政一二三 WOCN 碧南市民病院 河合俊乃 WOCN 小林記念病院 岡庭恵子 WOCN 名古屋大学付属病院	名古屋大学 付属病院	13名
1	22	医療講演会「正しい薬の服用について」 佐竹 正人 薬剤師 相談員 前川厚子先生(医療顧問) 今枝裕子 WOCN 名古屋市立東部医療センター 佐藤紫帆 WOCN 名古屋市立西部医療センター	ヤガミホームヘルスセンター	12名
日本オストミー協会団体事業				
6	11, 12	H28年度全国大会 青森大会	青森市文化会館	3名
10	29	東海ブロック会議 (本部役員と東海4県の代表者による連絡会議)	ヤガミホームヘルスセンター	5名

盲青年等社会生活教室事業

- 1 期 間 自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日
- 2 人 数 延べ 880名
- 3 課 目 3課目 (12講座) 66回
- 4 時 限 78時限 (66日)
- 5 会 場 名身連福祉センター、名古屋盲学校、名古屋市障害者スポーツセンター
名古屋盲人情報文化センター他
- 6 主 管 名古屋市視覚障害者協会
- 7 代 表 者 田中 伸明
- 8 講 師 12名
※ 補助講師 7名 ボランティア 延べ40名

盲青年等社会生活教室 実施プログラム

実施日	課 目	会 場	受講者数	
一 般 教 養				
5/29(日)	ボランティア交流会	名身連福祉センター	23名	
社 会 教 養				
4/29(金)	白寿会「瀬古マザー園見学ツアー」	瀬古マザー園(守山区)	29名	
6/19(日)	バリアフリー映画鑑賞会	名古屋ピカデリー スクリーン2	117名	
7/31(日)	音声触図システム学習会	名身連福祉センター	7名	
8/28(日)	第18回視覚障害者の生活を考える会		63名	
9/3(土)	第62回全国盲青年研修大会	ホテルポートプラザちば		
9/4(日)				
10/9(日)	第42回名視協文化祭	名身連福祉センター	71名	
1/22(日)	白寿会「初詣ツアー」	知多半島方面	32名	
2/11(土)	第19回視覚障害者の生活を考える会	名身連福祉センター	31名	
一 般 教 養				
10/30(日)	アイフォン講習会	名身連福祉センター	23名	
11/3(木)			第2回	11名
11/13(日)			第3回	11名
11/20(日)			第4回	10名
12/4(日)			第5回	10名
12/11(日)			第6回	10名
12/18(日)			第7回	10名
12/23(金)			第8回	10名
1/21(土)			第1回	10名
1/28(土)			第2回	9名
2/4(土)			第3回	9名
2/18(土)			第4回	9名
2/25(土)			第5回	9名
2/25(土)			第6回	9名
3/4(土)			第7回	9名
3/11(土)			第8回	9名

体 育 講 座				
4/10(日)	フロアバレーボール教室	第1回	名古屋盲学校	13名
4/24(日)		第2回		12名
5/8(日)		第3回		13名
5/22(日)		第4回		14名
6/12(日)		第5回		12名
6/25(土)		第6回	神奈川県	16名
6/26(日)		第7回		
7/10(日)		第8回	名古屋盲学校	13名
7/24(日)		第9回		13名
8/7(日)		第10回		14名
8/21(日)		第11回		14名
9/11(日)		第12回		13名
9/25(日)		第13回		12名
10/9(日)		第14回	13名	
10/16(日)		第15回	京都市	8名
10/23(日)		第16回	名古屋盲人情報文化センター	12名
11/13(金)		第17回	長野県	13名
12/4(日)		第18回	静岡県総合社会福祉会館(シズウェル)	
4/11(月)	盲人将棋大会	第1回	名古屋盲人情報文化センター	13名
4/24(日)		第2回		11名
5/22(日)		第3回	名身連福祉センター	17名
6/26(日)		第4回		17名
7/24(日)		第5回	名古屋盲人情報文化センター	
8/28(日)		第6回		
9/25(日)		第7回	名身連福祉センター	
10/23(日)		第8回		
11/19(土)		第9回		
11/20(日)		第10回	東京メヂカルフレンドビル	2名
11/27(日)		第11回	名古屋盲人情報文化センター	
12/25(日)		第12回		
1/22(日)		第13回	名身連福祉センター	19名
2/26(日)		第14回		
平成28年 4月～ 29年3月	サウンドテーブルテニス	毎月 1回	名古屋市障害者スポーツセンター	

盲女性家庭生活訓練講座事業

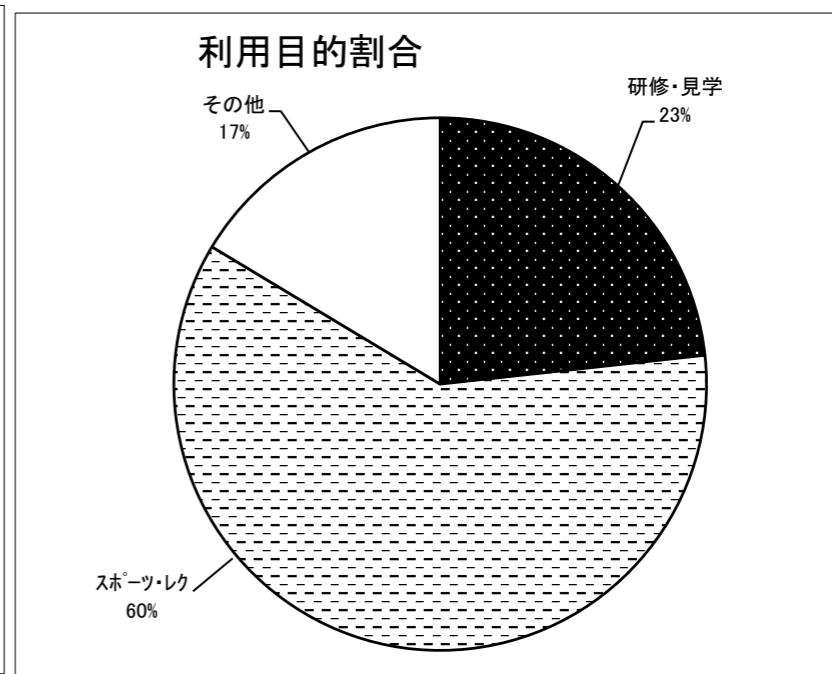
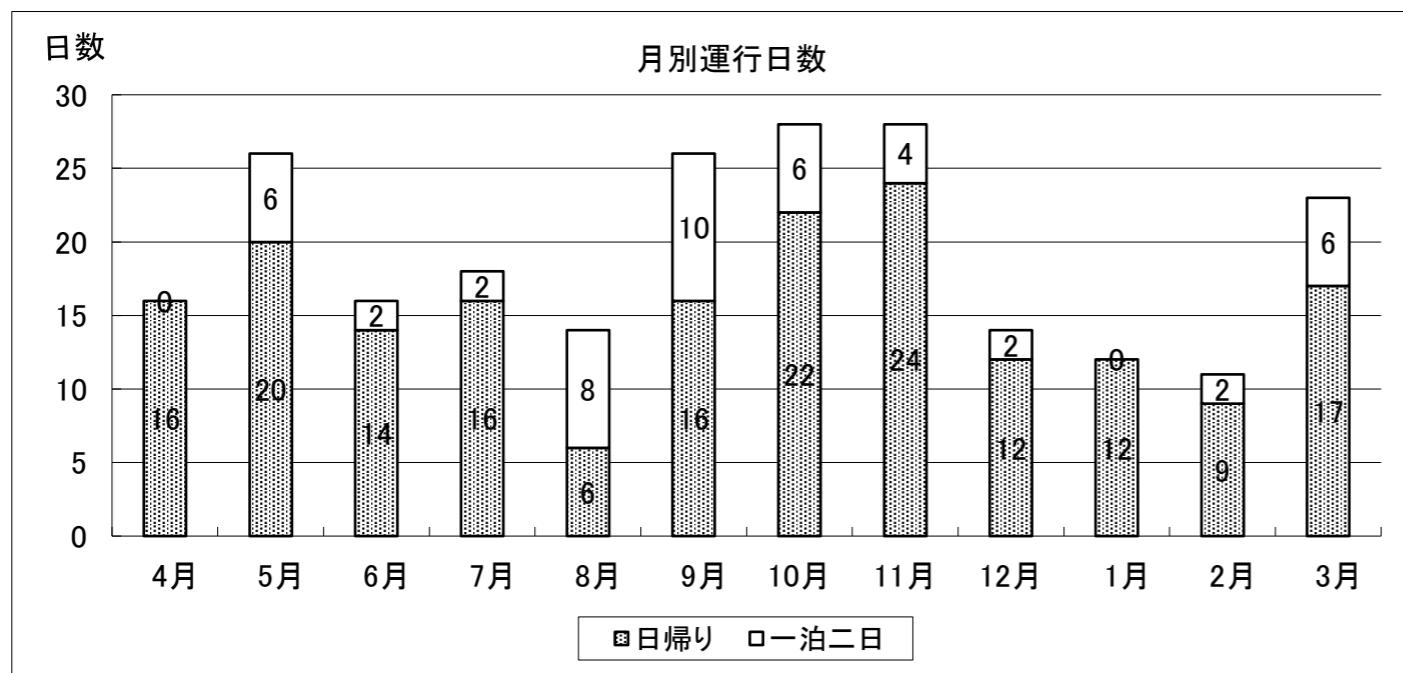
- 1 期 間 自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日
- 2 人 数 延べ 174名
- 3 課 目 3課目 (8講座 10回)
- 4 会 場 名古屋市障害者スポーツセンター、名身連福祉センター 他
- 5 主 管 名古屋市視覚障害者協会
- 6 代 表 者 田中 伸明
- 7 講 師 6名
南澤、香月、大澤、網川、山田
※ ボランティア 25名

盲女性家庭生活訓練講座 実施プログラム

実 施 日	講 座 名	内 容	講 師	会 場	受講者数
一 般 生 活					
5/15(日)	開講式、寄植	観葉植物の寄植	南澤	名身連福祉センター	11名
6/9(木)	社会研修	竹輪作り体験	安田	安田蒲鉾	16名
7/17(日)	健康体操	健康体操	西田	障害者スポーツセンター	7名
9/18(日)	スマホとガラケー	便利な使い方	大澤	名身連福祉センター	18名
10/9(日)	文化祭	三線鑑賞	玉城	名身連福祉センター	72名
1/8(日)	携帯電話	今更聞けないガラケー	大澤	名身連福祉センター	9名
2/19(日)	携帯電話	今更聞けないガラケー	大澤	名身連福祉センター	9名
残 存 機 能 回 復 訓 練					
12/25 (日)	フラワーアレンジ	午前 正月花	山田	名身連福祉センター	9名
12/25 (日)	フラワーアレンジ	午後 正月花	山田	名身連福祉センター	11名
一 般 教 養					
10/9(日)	文化祭	三線鑑賞	玉城	名身連福祉センター	72名

平成28年度 福祉バス乗車実績報告

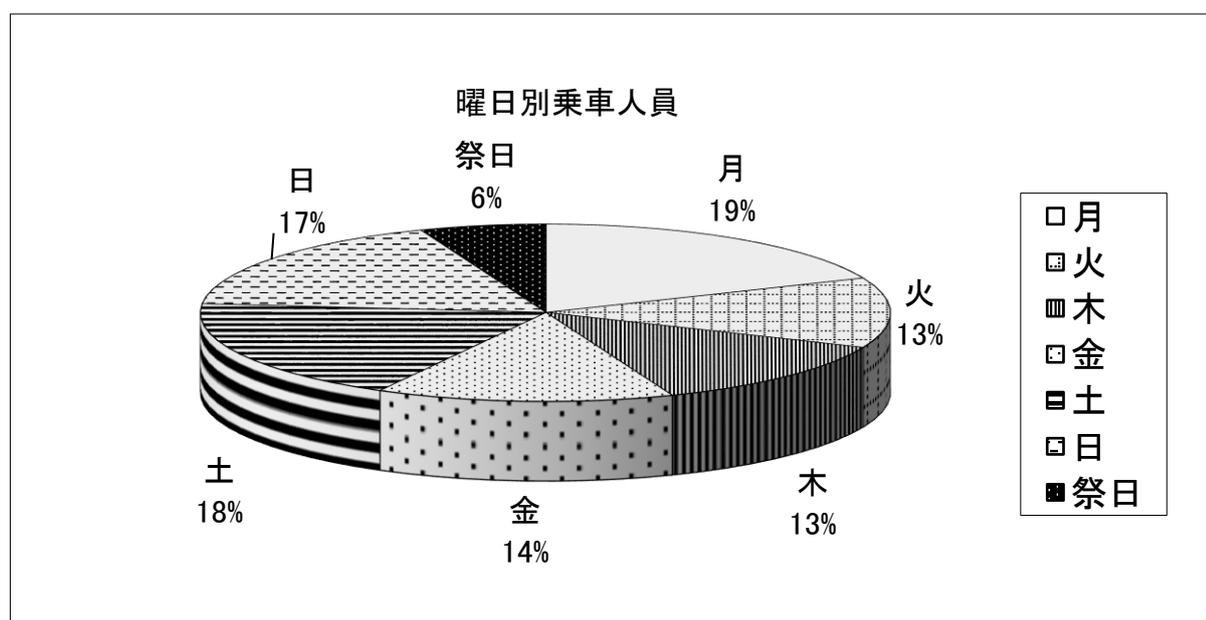
月	団 体 種 別				運行日数	利用団体数	日帰り	一泊二日	利 用 人 員				利 用 目 的		
	身体	知的	精神	その他					障害者	(車いす)	介助者	合計	研修・見学	スポーツ・レク	その他
4月	10	3	3	0	16	16	16	0	239	32	161	400	5	8	3
5月	17	4	3	2	26	23	20	6	455	88	262	717	3	17	6
6月	9	4	2	1	16	15	14	2	287	27	141	428	6	10	0
7月	9	4	4	1	18	17	16	2	331	31	188	519	4	12	2
8月	5	9	0	0	14	10	6	8	232	0	159	391	1	9	4
9月	19	5	2	0	26	21	16	10	410	87	260	670	8	16	2
10月	17	6	5	0	28	25	22	6	419	65	284	703	4	16	8
11月	18	2	5	3	28	26	24	4	439	77	317	756	7	18	3
12月	8	2	2	2	14	13	12	2	247	14	91	338	4	9	1
1月	6	1	2	3	12	12	12	0	189	19	115	304	3	6	3
2月	9	1	0	1	13	10	9	2	159	11	108	267	3	8	0
3月	12	2	7	2	23	20	17	6	362	12	197	559	6	11	6
合計	139	43	35	15	234	208	184	48	3,769	463	2,283	6,052	54	140	38



平成28年度 サンサン号乗車実績報告

月	乗車人数	運行日数	1日平均
4	906	26	35
5	749	22	34
6	999	25	40
7	1,063	25	43
8	1,110	25	44
9	644	23	28
10	176	9	20
11	713	23	31
12	764	23	33
1	6	1	6
2	94	2	47
3	2	1	2
合計	7,226	205	35

平成28年度	7,226	205	35
--------	-------	-----	----



曜日別乗車人員

平成28年度

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
月	193	152	204	160	212	105	40	151	130	0	0	0	1347
火	131	86	114	95	178	86	0	125	97	6	4	2	924
木	109	83	184	188	130	50	0	52	117	0	0	0	913
金	144	96	151	195	143	111	22	65	77	0	0	0	1004
土	183	143	188	189	197	123	46	128	149	0	0	0	1346
日	111	98	158	192	189	108	35	126	158	0	90	0	1265
祭日	35	91	0	44	61	61	33	66	36	0	0	0	427
計	906	749	999	1063	1110	644	176	713	764	6	94	2	7226

名身連ジョブコーチ事業支援実績報告

平成28年4月1日～平成29年3月31日

【ジョブコーチ活動回数】 ・ジョブコーチ2名体制

活動月		活動日数
平成28年	4月	1日
	5月	1日
	6月	1日
	7月	3日
	8月	4日
	9月	2日
	10月	2日
	11月	3日
	12月	1日
平成29年	1月	1日
	2月	日
	3月	日
計		19日

【ジョブコーチ支援対象者】

	身体	知的	精神	計
男性	3	1	1	5
女性		1		1
計	3	2	1	6

名身連ヘルパーセンター

平成28年度名身連ヘルパーセンター事業報告

<利用者について>

平成28年度の利用者の新規契約は21名でした。内訳は同行援護12名、重度訪問介護2名、居宅介護2名、移動支援5名でした。一方で、身体の状態の変化や介護保険への移行等の理由で25名が解約しました。結果として現在、前年度から4名減の245名の利用者が登録しています。

28年度の取り組みとして、利用者のニーズを再確認するため、職員が受給者証更新時に利用者宅を訪問し、サービスの向上に努めました。ケース担当者会議にも積極的に参加し、関係者との連携を強化しました。

<ガイドヘルパーについて>

平成28年度の新規登録ヘルパーは15名でした。一方、80歳になって引退したヘルパーや活動実績の無いヘルパー等、合わせて10名の解約をしました。結果として、現在の登録ヘルパーは115名です。ホームページ経由での問い合わせも増えてきました。

また28年度は、初めて同行援護従業者養成研修（一般課程）を開催しました。広報にも力を入れた結果、申込総数は21名、内訳は、現役ヘルパー12名、新規申込者9名となりました。新規の内4名が修了後登録し、当事業所のヘルパーとして活躍しています。現役の全ヘルパーに対しても研修会を2回開催しました。同行援護についての講義を行い、現場のヘルパーの知識と技術の向上に努めました。

<派遣について>

28年度は、原則お断りしない派遣を目指しました。ここ数年の傾向として、送迎や短時間の活動の割合が高く、28年度も90分以下の活動が全体の40%近くを占めました。反面、そうした活動内容に対応できるヘルパーが不足しがちな状況でした。対策として、ヘルパーに送迎や短時間の活動についてのアンケートを実施し、それにもとづいて効率よいコーディネートができるようになりました。より確実に、内容にも優れたサービスの提供を目指して、早い時期に派遣を決めるシステム作りに着手しました。

平成28年度利用者登録数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
計	249	244	243	245	246	244	243	243	245	246	245	245	244.8

平成28年度新規利用契約件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
同行援護	0	2	1	2	1	1	1	1	1	1	0	1	12
重度訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
居宅介護	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
移動支援	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	5
介護計	0	2	2	2	2	1	1	3	4	2	1	1	21

平成28年度利用解約件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
同行援護	0	7	3	0	1	3	2	1	2	1	1	1	22
重度訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居宅介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移動支援	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3
介護計	0	7	3	0	1	3	2	3	2	1	2	1	25

解約理由

	他施設	死亡	介護保険	その他	計
計	9	7	2	7	25

28年度総利用件数と内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
同行援護	956	956	931	961	932	930	995	995	974	815	852	924	11221
同行+家事	5	6	4	9	10	6	6	7	6	5	4	9	77
重度訪問介護	91	101	91	79	84	89	80	82	96	99	115	134	1141
家事援助のみ	8	8	9	7	10	7	8	8	8	6	8	8	95
居宅介護のみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4
移動・脳	75	66	70	71	71	85	80	80	74	106	104	128	1010
合計	1135	1137	1105	1127	1107	1117	1169	1172	1158	1031	1085	1205	13548

平成28年度月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
同行援護	132	132	128	130	131	131	129	130	131	131	130	130	130.4
他市同行援護	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.9
重度訪問介護	15	15	15	15	15	15	15	16	16	16	0	0	12.8
居宅介護	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3.2
介護計	153	154	150	152	153	153	151	153	154	154	138	138	150.3
移動支援	9	9	9	9	9	9	9	8	9	10	11	11	9.3
合計	162	163	159	161	162	162	160	161	163	164	149	149	159.6

平成28年度ガイドヘルパー登録数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
計	110	110	112	113	114	115	116	119	119	118	116	115	114.8

平成28年度ガイドヘルパー新規登録件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計	3	0	2	1	1	1	1	3	2	0	0	1	15

平成28年度ガイドヘルパー解約件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	6	10

平成28年度ガイドヘルパー資格状況

	盲人GH	視覚障害者 移動支援	(同行援護 一般課程)	(同行援護 応用課程)	脳性GH	全身性障害者 移動支援	重度脳性まひ者 移動介護	ヘルパー2級 初任者研修	ヘルパー1級 実務者研修	介護福祉士
男	12	9	11	4	11	9	1	12	5	1
女	76	43	23	4	35	17	2	60	3	20
計	88	52	34	8	46	26	3	72	8	21

平成28年度ガイドヘルパー年齢別資格状況(29.3.31)

	在籍者数	盲人GH	視覚障害者 移動支援	同行援護 (一般課程)	同行援護 (応用課程)	脳性GH	全身性障害者 移動支援	重度脳性まひ者 移動介護	ヘルパー2級 初任者研修	ヘルパー1級 実務者研修	介護福祉士
～39	3	1	1	2	1	1	2	0	3	1	0
40～44	3	1	2	3	1	1	2	0	1	1	0
45～49	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1
50～54	7	5	6	1	0	2	4	0	7	0	3
55～59	10	7	7	4	0	3	2	1	7	0	1
60～64	24	22	9	7	0	12	6	1	12	1	3
65～69	39	31	13	12	5	17	9	0	26	4	8
70～74	20	18	7	5	1	7	0	0	11	1	4
75～	7	2	5	0	0	3	1	1	5	0	1
計	115	88	52	34	8	46	26	3	72	8	21

名身連第一ワークス・第一デイサービス

平成28年度名身連第一ワークス・第一デイサービス事業報告

(就労移行支援事業所)

今年度は6名の方に対し企業紹介32件を行い、3名の方が一般企業に就職し現在も定着しています。職種としては、1名は社内産業廃棄物の回収と運搬、1名は軽作業、1名は事務補助です。

うち2名は法人内のジョブコーチ制度も利用し支援を継続しています。就職がゴールではなく、安定して働き続けることができるように定着支援にも重点をおいています。一方、27年度に就職した1名の方が今年、作業内容の変更を理由として契約更新しないと事業所より連絡がありました。その後本人からは、退職後は自身で求職活動を行いたいと施設利用の希望がなかったため、居住区の基幹相談支援センターと連携して再支援した結果、A型事業所の利用をすることになりました。

就労移行事業における課題としては、就職に伴う定員割れです。

昨年度に引き続き、法人内でプロジェクトチームを作り、第一ワークス・第一デイサービス、第二ワークス・第二デイサービス合同で支援できる体制を作り、第二ワークス・第二デイサービスの生活介護から継続B型へ移行するためのアセスメント評価を2名について実施し就職希望があった2名については、就労移行と第二ワークス・第二デイサービスの就労継続B型を併用利用することになり、1名の方が就職しました。

また就労移行の就職率100%を目指すとともに、新たな利用者確保のため少人数制で手厚い支援を行っているという特長や就職実績について、回復期病院や特別支援学校に今後も引き続き周知していく必要があります。

他機関との連携では、職業安定所はもちろんのこと、愛知障害者職業センター、特定相談支援事業所、基幹相談支援センター等と連携し、求職活動や生活支援に至るまでの支援を連携して行うことができました。これまでと同様、引き続き連携を強くしていきます。

就労移行支援事業 定員6名 (名身連第一ワークス・第一デイサービス)

1. 居住区の状況(H29. 3. 31現在)

(単位:人)

居住地名										
千種	0	中村	1	熱田	0	守山	0			
東	0	中	0	中川	0	緑	0			
北	0	昭和	0	港	0	名東	0			
西	0	瑞穂	0	南	0	天白	1			
計							市内	2	市外	0

2. 月別登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計	2	3	3	4	3	3	3	2	1	2	2	3

3. 月別新規登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4
女	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
計	0	1	0	2	0	1	1	0	0	1	0	1	7

4. 月別登録辞退者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	4
女	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
計	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	7

5. 辞退理由

(単位:人)

3	他施設	死亡	その他	計
男	1	0	3	4
女	2	0	1	3
計	3	0	4	7

6. 年齢・等級別状況

(単位:人)

等級	1		2		3		4		5		6		その他		計		合計
	年齢	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20歳未満															0	0	0
20～24歳	1														1	0	1
25～29歳							1								1	0	1
30～34歳															0	0	0
35～39歳															0	0	0
40～44歳															0	0	0
45～49歳															0	0	0
50～54歳															0	0	0
55歳以上															0	0	0
計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2

※その他については精神手帳、愛護手帳

平均年齢

男性	25 歳
女性	歳
男女平均	25.0 歳

障害程度区分 (単位:人)

区分	人数
6	
5	1
4	
3	
2	1
1	
未認定	
計	2

7. 障害原因別区分

(単位:人)

	区 分						計
	脳性まひ	脳血管障害	頭部外傷後遺症	疾病	聴覚障害	その他	
男	0	0	1	1	0	0	2
女	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	1	1	0	0	2

8. 手帳所持状況

(単位:人)

身障 \ 愛護	1度	2度	3度	4度	なし	精神	計
1級					1		1
2級							0
3級							0
4・5・6級						1	1
なし							0
計	0	0	0	0	1	1	2

9. 学歴状況

(単位:人)

学歴	小・中 卒	高卒	養護・聾 卒	短・専門 大卒	不明	計
計		1	1			2

10. 登録前歴状況

(単位:人)

前歴	在 宅	学 生	他施設	就労者	計
計			2		2

11. 年金受給状況

(単位:人)

種類 \ 性別	国民年金 障害基礎年金	厚生年金 障害年金	なし	計
男	2			2
女				0
計	2	0	0	2

12. 配偶者の有無

(単位:人)

状況 \ 性別	有	無	計
男		2	2
女			0
計	0	2	2

13. 補装具使用状況

(単位:人)

種類 性別	車いす	車いす + 装具	杖	杖 + 装具	装具	なし
計	1	0	0	0	0	1

14. 通所方法

(単位:人)

等級 交通機関	1	2	3	4	5	6	なし	計
地下鉄	1			1				2
市バス								0
地下鉄と市バス								0
地下鉄と その他交通機関								0
名鉄								0
JR								0
2つ以上 の交通機関								0
家族及びヘルパーに よる送迎								0
リフトタクシー								0
タクシー								0
車いす自走								0
徒歩								0
自転車・徒歩								0
自家用車								0
計	1	0	0	1	0	0	0	2

15. 通所時間 (単位:人)

所要時間	計
30分未満	0
30分～39分	0
40分～49分	1
50分～59分	0
1時間～1時間09分	1
1時間10分～1時間19分	0
1時間20分以上	0
計	2

16. 登録期間の状況 (単位:人)

性別 \ 期間	6ヶ月未満	6ヶ月～1年	1年～2年	計
計	2			2

17. 年度別退所者数 (単位:人)

年度	24	25	26	27	28	計
計	6	9	12	13	6	46

18. 現在までの退所理由(過去5年間) (単位:人)

性別 \ 理由	就職	他施設	その他	計
男	18	13	1	32
女	4	9	2	15
計	22	22	3	47

22. 工賃支払状況

(単位:円)

	4月	5月	6月	期末手当	7月	8月	夏期手当	9月
人数(人)	2	3	7		3	3		2
支払人数(人)	2	3	7		3	2	2	2
当月支払額	5,140	10,120	20,720		6,720	18,340	14,348	8,450
一人当平均支払額	2,570	3,373	2,960		2,240	9,140	7,174	4,225
最高支払額	2,600	5,100	3,960		3,940	16,340	7,603	6,150
最低支払額	2,540	1,120	740		60	2,000	6,745	2,300
出席率(%)	100.0	98.1	67.5		85.0	65.9		67.5
稼働日数(日)	13	26	22		20	22		20

	10月	11月	12月	冬期手当	1月	2月	3月	計
人数(人)	3	2	1		2	2	2	32
支払人数(人)	3	2	1		2	2	2	33
当月支払額	10,650	14,140	5,150		8,690	9,170	9,910	141,548
一人当平均支払額	3,550	7,070	5,150		4,345	4,585	4,955	61,287
最高支払額	7,050	7,090	5,150		8,050	7,010	7,370	87,413
最低支払額	500	7,050	-		640	2,160	2,540	28,395
出席率(%)	95.0	97.5	90.9		53.8	55.0	59.1	78.0
稼働日数(日)	20	20	11		26	20	22	242

※人数→月末に在籍在籍していた人数を記載しています。

※出席率が低い月は、トライアル雇用中に在籍しており通所していないため。

※最低支払額は通所日数が少なく、時間が短いため。

平成28年度名身連第一ワークス・第一デイサービス事業報告

(就労継続支援B型事業)

<生産活動について>

・現状

就労継続支援B型では、毎月の売り上げ目標を設定し、縫製、裁断、軽作業、販売の各部門で見直しを行い、できることから一つ一つ改善を図ることで売上げにつなげていきました。

以下に、各作業の詳細を報告します。

1. 縫製・軽作業について

縫製作業では、専門学校から毎年受注のあるエプロンや、市内保育園に納品している通園バッグは例年とほぼ同じ受注量でした。今後も現在の受託先を大切にしながら、新たな販売先として、イベントの記念品などを受注できるようにしていきたいと思います。

取引先の企業が、縫製作業をしている施設を探している企業を名身連に紹介して下さり、新規で取引を開始することができたほか、以前取引のあった企業からも再び受注がありました。

設備面での問題点として、延反機、裁断機が老朽化し、設備投資するには高額になるため、更新について検討する必要があります。

一方、縫製を行う利用者の増えたためにミシンの台数が不足し、利用者が帰宅後に職員が作業を行う現状があったため、工業用ミシンを1台購入しました。

軽作業では、営業活動を行い1件取引先を開拓しました。他にも数件営業を行いました。作業工賃や納期の都合で取引には至りませんでした。また、現行の取引業者と調整をおこない、利益率の高い作業を新規開拓するなど、従来取引業者への営業を強化したことで、昨年より売上を伸ばすことができました。

(平成27年度9,691,000円→平成28年度9,930,000円)

販売では、第二・第四火曜日に施設前で親愛の里と共同で行う火曜日、基幹相談支援センター主催のイオンでの販売会や、熱田区役所主催の販売会にも参加しました。また、あつた宮宿会に参加し、毎月1日の熱田神宮での販売会にも積極的に参加しました。一方、名古屋市内の施設に委託販売を依頼し、金山総合駅での福祉の店や互助会等のバザーにも商品を出品することができました。今後も更なる販売収入を得るため、販路の拡大をしていきます。

2. 自主製品の開発、販売について

「招き猫シリーズ」は、取引業者から名古屋城やセントレア等に卸をしている企業を紹介していただき、調整を行ってきましたが、手数料の関係で販売を見送りました。

一方、全社的プロジェクトの取り組みとして、名身連の新しいキャラクターを公募し、「ふくにゃん」に決定しました。ふくにゃんをモチーフにした新規商品の開発を取引先のデザイン会社に依頼し、現在新商品の開発を進めています。

・福祉用具製作・販売

今年度も国際福祉機器展に車いす用レインウェア、食事用エプロンを出展し、販売しました。



＜利用者状況及び支援活動について＞

4月当初就労継続支援B型の利用登録者は31名、平成29年3月末時点では32名の登録となっています。就労移行やA型事業所の移行で3名の退所者がありましたが、他機関との連携を強化することで、新たに4名の新規利用者を迎えることができました。

1. 一人一人のニーズに沿った支援を行う

一人一人の障害状況や年齢、ニーズに合わせた支援が行えるように努めました。そうした取組みの中で、失語症の利用者から、声を出す場所が欲しいと相談があり、朝礼時に司会の進行をしていただくことになりました。また、自分の考えた言葉で自分の「想い」を人に伝えたいと希望していた利用者には、施設に見学に見えた方に就労継続B型の作業内容について説明をしていただくようにしたことで、利用者の方の「役割感」の醸成にもつながりました。

利用者の中には、一般企業への就職が可能と思われても、発症前の働き方のイメージにとらわれて新たな仕事に踏み出せない人や、働いた経験がなく就職に関するイメージがもてない利用者の方もいるため、就労移行の利用者と合同で、名身連から就職した先輩の事業所へ見学に行く取組みを行いました。

またご家族から、学校とは違い参観日がないため、施設の様子を本人に聞いても上手く説明することが出来ず、理解することが難しいと相談があったため、今年度新たな取組みとして利用者の家族を対象に家族懇談会を開催し、利用者の施設での様子や取組みをご家族に見学していただきました。懇談会后、ご家族からは実際の施設での利用者の様子を見られて良かった等の意見をうかがうことができ、ご家族と職員の顔の見える関係性を強めることができ、更なる支援につなげることができました。

2. 作業活動への支援

各自の障害状況や体調に合わせ、作業の提供を行いました。縫製の技術向上や軽作業のできることの幅を広げるよう作業面での支援を行いました。その他、実際に事業所や学校等を訪問し、見学や話をさせていただいたことで、作業に対する意欲の向上につながりました。また、毎月第2、第4火曜日のバザーで、利用者自身が販売員として直接お客様とやり取りをすることで、自身の仕事に対する意識を深めることができ、意欲向上につながりました。

3. 地域の支援機関や特別支援学校との連携、交流

新規利用者の受け入れに向け、施設のPRや連携を積極的に行いました。また、積極的に見学や実習を受け入れて、施設と学校が互いに理解を深めることができました。毎年秋に開催される「あったかあつた福祉フェスタ」や名古屋学院大学が中心となって開催している「わくわく親子フェスタ」へも参加し、地域の方々、関係団体、特別支援学校など

との交流も深めました。

4. レクリエーション活動

今年度も利用者アンケートを行って、新年会をメルパーク名古屋で開催しました。アトラクションでは、クラウン（ピエロ）に来ていただき舞台上での華やかなアトラクションを見たり、実際に舞台に上がりクラウンと一緒にアトラクションに参加するなど、楽しく過ごせました。フィナーレでは、企画委員（利用者）の提案により恒例だった曲目を変更したことで、前日まで新しい曲に合わせた手話を繰り返し練習し、その結果、当日には参加者全員で来賓の方や皆さんに披露することができました。

また、作業で取引のあるトヨタコミュニケーションシステム様からのご支援により蒲郡の海岸清掃ボランティアに参加しました。普段支援していただくことの多い中、ボランティアとして社会貢献に参加できたことはとても良い経験となりました。



就労継続支援B型事業 定員24名（名身連第一ワークス・第一デイサービス）

1. 居住区の状況（H29. 3. 31現在）

（単位：人）

居住地名									
千種		中村		熱田	1	守山		知多市	1
東		中		中川	1	緑	2		
北	3	昭和	2	港	2	名東	3		
西	2	瑞穂	4	南	7	天白	4		
計						市内	31	市外	1

2. 月別登録者数

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計	31	31	31	31	31	31	32	32	32	33	33	32

3. 月別新規登録者数

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
女	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	4

4. 月別登録辞退者数

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3

5. 辞退理由

（単位：人）

	他施設	死亡	その他	計
男	2	0	1	3
女	0	0	0	0
計	2	0	1	3

6. 年齢・等級別状況

(単位:人)

等級	1		2		3		4		5		なし		計		合計
	年齢	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20歳未満			1								1		2	0	2
20～24歳			1	1									1	1	2
25～29歳	1				1	1							2	1	3
30～34歳	1										1		2	0	2
35～39歳				1									0	1	1
40～44歳				1	1	1			1				2	2	4
45～49歳	1		1	1					1		1		4	1	5
50～54歳	1		2			1	1				1		5	1	6
55～59歳			1				3					1	4	1	5
60歳以上							1		1				2	0	2
計	4	0	6	4	2	3	5	0	3	0	4	1	24	8	32

平均年齢

男性	44.3 歳
女性	41.1 歳
男女平均	43.5 歳

障害程度区分

(単位:人)

区分	人数
6	0
5	1
4	5
3	7
2	2
1	0
未認定	17
計	32

7. 障害原因別区分

(単位:人)

	区 分						計
	脳性まひ	脳血管障害	頭部外傷後遺症	疾病	聴覚障害	その他	
男	3	11	4	0	2	4	24
女	3	1	2	0	1	1	8
計	6	12	6	0	3	5	32

8. 手帳所持状況

(単位:人)

愛護 身障	1度	2度	3度	4度	なし	計
1級	0	0	1	0	3	4
2級	0	0	4	0	6	10
3級	0	0	0	1	4	5
4・5・6級	0	0	0	1	7	8
なし	0	0	0	1	4	5
計	0	0	5	3	24	32

9. 学歴状況

(単位:人)

学歴	小・中 卒	高卒	養護・聾 卒	短・専門 大 卒	不明	計
計	2	13	9	8		32

10. 登録前歴状況

(単位:人)

前歴	在 宅	学生	他施設	就労者	計
計	4	7	21	0	32

11. 年金受給状況

(単位:人)

種類 性別	国民年金 障害基礎年金	厚生年金 障害年金	なし	計
男	7	2	15	24
女	5	0	3	8
計	12	2	18	32

12. 配偶者の有無

(単位:人)

状況 性別	有	無	計
男	6	18	24
女	0	8	8
計	6	26	32

13. 補装具使用状況

(単位:人)

種類 性別	車いす	車いす + 装具	杖	杖 + 装具	装具	なし
計	4	0	0	4	3	21

14. 通所方法

(単位:人)

等級 交通機関	1	2	3	4	5	なし	計
地下鉄	1	3	1	3	1	1	10
市バス	1	4	3		2	1	11
地下鉄と市バス	1		1			0	2
地下鉄と その他交通機関						0	0
名鉄		1				0	1
JR		1		1		0	2
2つ以上 の交通機関						0	0
家族及びヘルパーに よる送迎	1	1				0	2
リフトタクシー						0	0
タクシー						0	0
車いす自走						0	0
徒歩				1		0	1
自転車・徒歩						3	3
自家用車						0	0
計	4	10	5	5	3	5	32

15. 通所時間 (単位:人)

所要時間	計
30分未満	7
30分～39分	12
40分～49分	5
50分～59分	2
1時間～1時間09分	5
1時間10分～1時間19分	0
1時間20分以上	1
計	32

16. 登録期間の状況 (単位:人)

性別 \ 期間	6ヶ月未満	6ヶ月～1年	1年～3年	3年～5年	5年～7年	7年～9年	10年以上	計
計	3	4	6	4	4	3	8	32

17. 年度別退所者数 (単位:人)

年度	24	25	26	27	28	計
計	8	2	9	5	3	27

18. 現在までの退所理由(過去5年間) (単位:人)

性別 \ 理由	他施設	死亡	その他	計
男	15	0	5	20
女	5	0	2	7
計	20	0	7	27

20. 1か月分工賃状況 (単位:人)

平均工賃	人数
0～ 2,000円	0
2,000～ 4,000円	2
4,000～ 6,000円	2
6,000～ 8,000円	3
8,000～10,000円	3
10,000～15,000円	7
15,000～20,000円	5
20,000～30,000円	7
30,000円以上	5
計	34

21. 賞与支払状況

区 分	支払月	支払額	1人当平均	最高額	最低額	支払人数
27年度期末	7月	2,383,761	88,287	214,291	6,922	27
夏 期	7月	600,000	19,355	80,472	1,075	31
冬 期	12月	1,000,000	31,250	140,262	6,140	32
計	年3回	3,983,761	138,892			

22. 工賃支払状況

(単位:円)

	4月	5月	6月	期末手当	7月	8月	夏期手当	9月
人数(人)	31	31	31	31	31	31	31	31
支払人数(人)	30	30	31	27	31	31	31	31
当月支払額	171,875	351,915	286,550	2,383,761	262,095	303,169	600,000	255,797
一人当平均支払額	5,729	11,731	9,244	88,287	8,455	9,780	19,355	8,252
最高支払額	21,690	43,570	29,700	214,291	27,000	32,790	80,472	26,280
最低支払額	1,400	3,950	2,990	6,922	2,100	2,800	1,075	2,660
出席率(%)	68.5	70.0	73.3	---	72.9	70.1	---	71.3
稼働日数(日)	13	26	22	---	20	22	---	20

	10月	11月	12月	冬期手当	1月	2月	3月	計
人数(人)	32	32	32	32	33	33	32	474
支払人数(人)	32	32	32	32	33	32	32	467
当月支払額	301,414	305,122	155,251	1,000,000	363,452	279,591	614,074	7,634,066
一人当平均支払額	9,419	9,535	4,852	31,250	11,014	8,737	19,190	254,830
最高支払額	37,000	36,660	20,350	140,262	46,740	37,000	54,247	848,052
最低支払額	2,100	2,450	700	6,140	1,050	1,140	5,712	43,189
出席率(%)	71.6	72.5	69.0	---	63.1	67.7	69.2	70.0
稼働日数(日)	20	20	11	---	26	20	22	242

23. 業者別収入

(単位:円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
A社	84,865	86,388	86,092	76,338	67,704	62,094	110,024	117,342	117,622	116,101	132,983	78,911	1,136,464
B社		652,932	8,288	1,955		3,300	74,479					149,907	890,861
C社	11,270	80,950	22,554	60,415	55,226	110,100	4,755	34,300	121,735		102,907	38,750	642,962
D社	34,975	26,625	43,530	28,265	12,540	68,240	75,966	65,546	57,935	56,353	65,950	84,060	619,985
E社	57,666	104,782	128,946	132,510	108,864								532,768
F社	21,995	28,593	46,423	36,857	50,010	29,284	36,968	52,783	42,444	46,654	34,672	58,540	485,223
G社							61,648	128,460	58,380	22,700	167,910	44,150	483,248
H社	118,800	59,281	7,020	82,706	29,322	7,560	59,400	8,597	29,700	29,700		49,140	481,226
I社	25,920	22,075	8,640	28,080	25,920	12,960	15,595	17,280	21,600	27,000	3,240	39,960	248,270
J社	25,148	36,288	15,565	13,935	9,369	32,011	10,340	4,222	13,479	18,396	38,840	18,535	236,128
K社		10,500		2,500	39,680	2,330			41,600	122,100	1,740	7,200	227,650
L社	11,850	6,300	7,250	59,890	17,830	10,620	23,600	13,740	16,400	8,610	10,650	17,100	203,840
店頭販売	35,200	19,300	18,600	32,700	33,610	27,920	22,330	49,060	14,900	20,650	21,250	36,850	332,370
その他	327,439	93,139	278,881	439,130	178,526	184,376	231,422	282,804	141,837	253,708	65,228	732,725	3,209,215
計	755,128	1,227,153	671,789	995,281	628,601	550,795	726,527	774,134	677,632	721,972	645,370	1,355,828	9,730,210

平成28年度名身連第一ワークス・第一デイサービス事業報告 (生活介護事業)

<利用者状況について>

生活介護の利用状況は、平成28年度末で生産活動ありグループ17名、生産活動なしグループ22名の合わせて39名が在籍しています。平成28年度中に7名が退所され、新たに4名が利用を開始されました。年間平均利用者数は20.2名でした。

退所者内訳は、転居や家族状況の変化などやむを得ない事情が5名、介護保険への完全移行の方が1名、その他都合の方が1名となりました。

新規利用者内訳は、長期入院のため退所しその後、利用再開された方が1名、中途障害の新規利用者が2名、平成29年3月より聾学校高等部を卒業後に利用開始された方が1名となりました。

今年度も多種多様な障害の方が利用をされており、ニーズも様々なものとなっています。職員は利用者一人ひとりに寄り添った支援を目標に日々活動に取り組んでいます。

<サービス内容について>

1. 生産活動

平成28年度中に3名の新規利用があり、さらに生産活動なしグループと生産活動ありグループの併用利用を開始された方が3名の合わせて6名が加わりました。週に5日間毎日作業に取り組む方もみえれば体調を加味し利用日の午前は生産ありグループにて作業、午後は生産なしグループで創作活動やレクレーションに参加される方など一人ひとりのニーズに沿った利用をしていただいています。作業内容としましては、主力作業である自動車部品のエンジンプラグ加工の下請け作業、新規作業として受注を始めたポスティングチラシ折り作業を中心として行いました。また、毎年恒例となったりんご・なしなどの果物販売も引き続き行いご好評いただきました。新たにビーズを使ったアクセサリを製作・販売をしました。ビーズの色の組み合わせなど利用者各自のセンスで行い、新たな才能を発見したり物を作る楽しさに触れるなど新たな取り組みとなりました。

また、月に一度、生産ありグループでの「利用者懇談会」を開催し、職員側から作業の見込みや売り上げ報告をし、利用者からは意見や質問を受けるなど利用者主体で活動に取り組めるようにしました。

2. 日常生活訓練

◇散歩・買い物

毎月2回施設前で行われる「火曜市」や熱田神宮にて開催される「あつた朔日市」などの催しはみなさん積極的に参加されています。また、熱田図書館へ本を借りに行く、スーパーへ買い物に行く、お花見に散歩に出掛けるなどお一人お一人の希望に合わせた活動ができるよう支援をしています。

◇社会生活力プログラム

希望者を募りグループでの活動をしています。28年度は「買い物」「情報」のテーマに取り組みました。自分で考え、計画を立てそれを実践するなどの活動を通じ、人前で発表することに慣れたり、知らなかったことを学んだり各々が持っている力を伸ばすことを目標に取り組みました。

◇お茶会・お菓子作り

利用者同士の親睦を深める目的でお茶会を定期的に行っています。また、お菓子作りの取組みも行っており、グループで一つのものを作る、役割を担うなどを目的に実施しました。28年度より、利用者からの施設や活動についての意見を聞く場としてお茶会の際に「利用者懇談会」も開催しています。

3・社会適応訓練

春は5月10日・5月30日に「常滑イオン」に出掛けました。大きな招き猫の置物にびっくりしたり、数あるレストランやメニューから食べたいものを選び、おいしい昼食を取ったり広々とした店内でそれぞれ有意義な時間を過ごしました。

秋は10月13日「川島インター アクアト岐阜」に出掛けました。かわいらしい魚から迫力ある魚まで館内をワクワクしながら探索し、アシカのショーに歓声を上げ楽しい一日を過ごしました。10月28日は、雨天だったため行き先を「名古屋港水族館」へ変更しました。世界の海の生き物を見て回り大水槽の幻想的な魚たちに見とれ、あっという間の一日を過ごしました。

1月24日は毎年恒例となる新春パーティーが千種区のメルパルク NAGOYA にて開催されました。今回はクラウン（ピエロ）のパフォーマンスをハラハラドキドキしながら応援したり、利用者も一緒に皿回しに参加したり、楽しいひとときをおいしい食事とともに楽しみました。また、今回はフィナーレの合唱曲を「365日の紙飛行機」に変更しましたが、当日は事前の練習の成果を発揮し大成功に終わりました。



常滑イオン



新春パーティー フィナーレ

4・創作活動

毎年恒例となっている名古屋市障害者作品展にたくさんの方が出品しました。そのうち写真の部と工芸の部で合せて2名の方が受賞されました。

活動にて創作した作品を施設1階ロビーにてたくさんの方に見ていただく機会を作ろうと、「ミニ個展」と題し希望者の方の作品を展示方法なども利用者と相談し展示しました。ホームページへも掲載し広く周知をしました。

陶芸教室や書道教室など講師の先生をお招きして行う教室は人気の高いプログラムです。陶芸教室では、趣のある作品が毎回出来上がりみなさん焼き上がりを大変楽しみにされています。また、書道教室では、各自好きな言葉を書き上げそれぞれのセンス・個性を感じる作品が出来上がりました。



ミニ個展



陶芸教室の様子



書道作品

生活介護事業 定員20名 (名身連第一ワークス・第一デイサービス)

1. 居住区の状況 (H29. 3. 31現在)

(単位:人)

居住地名									
千種	1	中村	2	熱田	11	守山	0	刈谷	1
東	0	中	1	中川	3	緑	3	清須	1
北	0	昭和	1	港	3	名東	1		
西	3	瑞穂	3	南	5	天白	0		
計						市内	37	市外	2

2. 月別登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計	39	40	41	41	41	42	41	41	40	40	40	39

3. 月別新規登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4

4. 月別登録辞退者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
女	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	4
計	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	7

5. 辞退理由

(単位:人)

	他施設	死亡	その他	計
男	2	0	1	3
女	3	0	1	4
計	5	0	2	7

6. 年齢・等級別状況

(単位：人)

等級 年齢 \ 性別	1		2		3		4		5		なし		計		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
20歳未満	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
20～24歳	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	2	7	
25～29歳	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	
30～34歳	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	
35～39歳	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	
40～44歳	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	
45～49歳	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4	3	7	
50～54歳	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	2	5	
55～59歳	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
60歳以上	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	
計	10	7	6	4	4	3	2	1	0	0	2	0	0	24	15	39	

平均年齢

男性	39.1 歳
女性	42.5 歳
男女平均	40.4 歳

障害支援区分

(単位：人)

区分	人数
6	14
5	8
4	7
3	9
2	1
1	0
計	39

7. 障害原因別区分

(単位：人)

	区 分							計
	脳性まひ	脳血管障害	頭部外傷後遺症	疾病	視覚障害	聴覚障害	知的障害	
男	5	4	2	9	2	1	1	24
女	8	1	0	6	0	0	0	15
計	13	5	2	15	2	1	1	39

8. 手帳所持状況

(単位：人)

愛護 身障	1度	2度	3度	4度	なし	計
1級	2	4	1	1	9	17
2級	1	4	2	0	3	10
3級	1	2	2	0	2	7
4・5・6級	0	0	1	0	2	3
なし	1	0	1	0	0	2
計	5	10	7	1	16	39

9. 学歴状況

(単位：人)

学歴	小・中 卒	高卒	養護・聾 卒	短・専門 大 卒	未就学	計
計	2	5	29	3	0	39

10. 登録前歴状況

(単位：人)

前歴	在 宅	学生	他施設	就労者	計
計	9	17	8	5	39

11. 年金受給状況

(単位：人)

種類	国民年金 障害基礎年金	厚生年金 障害年金	なし	計
男	15	4	5	24
女	13	0	2	15
計	28	4	7	39

12. 配偶者の有無

(単位：人)

状況 性別	有	無	計
男	3	21	24
女	1	14	15
計	4	35	39

13. 補装具使用状況

(単位：人)

種類	車いす	車いす + 装具	杖	杖 + 装具	装具	なし
計	13	7	1	1	1	16

14. 通所方法

(単位：人)

等級 交通機関	1	2	3	4	5	6	なし	計
地下鉄	0	2	1	0	0	0	1	4
市バス	1	1	1	0	0	0	0	3
名鉄	0	0	0	0	0	0	0	0
JR	0	1	1	0	0	0	0	2
家族及びヘルパー による送迎	14	3	2	2	0	0	1	22
リフトタクシー	1	1	0	0	0	0	0	2
介護タクシー	3	1	0	0	0	0	0	4
リフトバス(送 迎)	4	3	3	1	0	0	0	11
徒歩	1	0	0	1	0	0	0	2
計	24	12	8	4	0	0	2	50

重複あり

15. 通所時間 (単位：人)

所要時間	計
30分未満	21
30分～39分	9
40分～49分	4
50分～59分	2
1時間～1時間09分	3
1時間10分～1時間19分	0
1時間20分以上	0
計	39

16. 登録期間の状況 (単位：人)

期間	6ヶ月未満	6ヶ月～1年	1年～3年	3年～5年	5年～7年	7年～9年	10年以上	計
計	1	3	10	6	6	3	10	39

17. 年度別退所者数 (単位：人)

年度	24	25	26	27	28	計
計	2	4	5	6	7	24

18. 現在までの退所理由 (過去5年間) (単位：人)

理由 性別	理由			計
	他施設	死亡	その他	
男	5	2	7	14
女	5	1	4	10
計	10	3	11	24

19. 介護状況 (単位：人)

	介護状況				
	起居	移動	食事	更衣	排泄
自立	18	14	25	16	15
部分介助	6	14	5	10	9
全介助	15	11	9	13	15
計	39	39	39	39	39

20. 1か月分工賃状況

(単位：人)

平均工賃	人数
0～ 500円	5
501～ 1,000円	5
1,001～ 1,500円	1
1,501～ 2,000円	3
2,001～ 2,500円	3
2,501～ 3,000円	0
3,001円以上	0
計	17

21. 賞与支払状況

区 分	支払月	支払額	1人当平均	最高額	最低額	支払人数
27年度期末	7月	321,513	22,965	46,898	1,530	14
夏 期	7月	100,000	7,142	17,198	246	14
冬 期	12月	100,000	6,250	13,583	88	16
計	年3回	521,513	36,357			

2 2. 工賃支払状況

(単位：円)

	4月	5月	6月	期末手当	7月	8月	夏期手当	9月
人数(人)	14	14	14	14	14	14	14	14
支払人数(人)	13	13	14	14	13	14	14	14
当月支払額	9,532	18,918	17,638	321,513	16,116	18,966	100,000	17,530
一人当平均支払額	681	1,351	1,260	22,965	1,151	1,355	7,142	1,252
最高支払額	1,488	3,458	2,996	46,898	2,520	2,660	17,198	2,548
最低支払額	0	0	100	0	0	130	0	160
出席率(%)	53.8%	53.1%	58.6%		62.5%	61.8%		60.0%
稼働日数(日)	13	26	22		20	22		20

	10月	11月	12月	冬期手当	1月	2月	3月	計
人数(人)	16	16	16	16	17	17	19	229
支払人数(人)	16	16	15	16	16	16	18	222
当月支払額	18,584	21,074	11,284	100,000	24,664	21,118	23,356	740,293
一人当平均支払額	1,162	1,317	705	6,250	1,451	1,242	1,229	49,284
最高支払額	2,660	2,800	1,560	13,583	3,430	2,786	3,052	-
最低支払額	10	50	0	88	0	0	0	-
出席率(%)	63.0%	71.0%	69.1%		62.3%	68.0%	72.7%	0.7
稼働日数(日)	20	20	11		26	20	22	242

23. 平成28年度内行事

NO	実施日	事 項	主 催	場 所	摘 要
1	4月12日	陶芸教室	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
2	4月 8日 4月18日	お茶会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
3	4月28日	健康診断	名身連第一ワークス・第一デイサービス	相談室	継続B型、就労 移行利用者
4	5月 3日	白鳥マルシェ	白鳥庭園	白鳥庭園	自由参加
5	5月10日 5月30日	春季レクリエーション	名身連第一ワークス・第一デイサービス	イオンモール常滑	(生活介護) 自由参加
6	5月17日 5月30日	お茶会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
7	5月21日	名古屋グランパスエイト観戦	名古屋グランパスエイト後援会	豊田スタジアム	希望者
8	6月10日	区役所販売	熱田区障害者自立支援協議会	熱田区役所	継続B 就労移行
9	6月16日	陶芸教室	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
10	6月 9日 6月17日	お茶会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
11	6月24日 ~7月 6日	七夕飾り	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
12	7月21日	大相撲名古屋場所	リゾートトラスト 女子プロゴルファー森口祐子	愛知県体育館	希望者
13	7月19日 7月25日	お菓子作り・お茶会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
14	8月 1日	あつたつたち市	名身連第一ワークス・第一デイサービス	熱田神宮	(全員) 自由参加
15	8月12日	区役所販売	熱田区障害者自立支援協議会	熱田区役所	継続B 就労移行
16	8月19日	陶芸教室	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
17	8月18日 8月26日	お茶会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
18	8月23日	あつた〇	熱田区自立障害者支援協議会	イオンモール熱田	自由参加
19	9月 1日	あつたつたち市	名身連第一ワークス・第一デイサービス	熱田神宮	(全員) 自由参加
20	9月 7日	家族懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	全員家族
21	9月13日	防災訓練	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	全員
22	9月12日 9月20日	お菓子作り・お茶会・懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
23	9月15日	生産活動あり懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	生活介護 生産活動あり
24	10月 7日	眼鏡のメンテナンス	メガネの和光	第一ワークス・ 第一デイサービス	自由参加
25	10月 9日	熱田区区民まつり	熱田区区民まつり実行委員会	白鳥公園	自由参加
26	10月13日 10月28日	秋季レクリエーション	名身連第一ワークス・第一デイサービス	アクアトト岐阜 名古屋港水族館	(生活介護) 自由参加
27	10月17日	生産活動あり懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	生活介護 生産活動あり
28	10月23日	あつたかあつた福祉フェスタ	熱田区社会福祉協議会	熱田区役所	自由参加
29	10月 7日 10月20日	お茶会・懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
30	10月28日	区役所販売	熱田区障害者自立支援協議会	熱田区役所	継続B 就労移行
31	10月31日	陶芸教室	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
32	11月 1日	あつたつたち市	名身連第一ワークス・第一デイサービス	熱田神宮	(全員) 自由参加

NO	実施日	事 項	主 催	場 所	摘 要
33	11月 6日	第62回 名古屋市身体障害者福祉大会	名古屋市・他	中区役所ホール	自由参加
34	11月 12日	海岸清掃	(株)トヨタコミュニケーションシステム	蒲郡市	自由参加
35	11月 14日 11月 25日	お菓子作り・お茶会・懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
36	11月 15日	生産活動あり懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	生活介護 生産活動あり
37	11月 20日	宮の浜市	熱田宮宿会	七里の渡し	自由参加
38	11月 24日 11月 28日	紅葉ドライブ	名身連第一ワークス・第一デイサービス	熱田区内	(生活介護) 自由参加
39	12月 1日	あつたつたち市	名身連第一ワークス・第一デイサービス	熱田神宮	(全員) 自由参加
40	12月 6日	くらし展	名古屋市身体障害者更生相談所	愛知県立名古屋特別支 援学校体育館	生活介護、B型 利用者
41	12月 13日	書道教室	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
42	12月 14日	シルクドルソレイユ・トーテム	ダイハツ	名古屋ビッグトップ	希望者
43	12月 15日	生産活動あり懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	生活介護 生産活動あり
44	12月 20日	陶芸教室	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
45	12月 21日	イオン千年 寄贈式	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	全員
46	12月 16日 12月 19日	クリスマスお茶会・懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
47	1月 11日	成人のお祝い	名身連第一ワークス・第一デイサービス	食堂・居室	全員
48	1月 16日	生産活動あり懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	生活介護 生産活動あり
49	1月 19日	健康相談	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	継続B 就労移行
50	1月 20日	野立小学校 車イス講習会	熱田区障害者自立支援協議会	野立小学校	生活介護 利用者
51	1月 24日	新春パーティー	名身連第一ワークス・第一デイサービス	メルパルクNAGOYA	自由参加
52	1月 26日	ホテルでフランス料理を楽しむ 社会福祉食事会	一般社団法人日本エスコフィエ協会	名古屋観光ホテル 「若官の杜迎賓館」	12名参加
53	1月 12日 1月 20日	お茶会・懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
54	1月 30日	あったか防災体験	熱田区自立支援協議会	熱田区役所	(生活介護) 自由参加
55	2月 1日	あつたつたち市	名身連第一ワークス・第一デイサービス	熱田神宮	(全員) 自由参加
56	2月 7日 9日	第53回名古屋市 障害者作品展覧会見学	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市博物館	(生活介護) 自由参加
57	2月 10日	区役所販売	熱田区障害者自立支援協議会	熱田区役所	継続B 就労移行
58	2月 15日	生産活動あり懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・ 第一デイサービス	生活介護 生産活動あり
59	2月 16日	陶芸教室	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
60	2月 25日	エンジョイフェア	熱田区障害者自立支援協議会	熱田区役所	自由参加
61	2月 13日 17日	お菓子作り・お茶会・懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加
62	3月 8日	職場見学会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	名古屋市社会福祉協議会	継続B 就労移行
63	3月 14日 16日	お菓子作り・お茶会・懇談会	名身連第一ワークス・第一デイサービス	生活介護居室	(生活介護) 自由参加

NO	実施日	事 項	主 催	場 所	摘 要
64	3月22日	防災訓練	名身連第一ワークス・第一デイサービス	第一ワークス・第一デイサービス	全員
65	3月28日 3月30日	お花見ドライブ	名身連第一ワークス・第一デイサービス	瑞穂通他	(生活介護) 自由参加

※毎月第二、第四火曜日に火よう市をハートランド森と共同で開催

名身連第二ワークス・第二デイサービス

平成28年度名身連第二ワークス・第二デイサービス事業報告

(就労継続支援B型事業)

<生産活動について>

現状

印刷作業、発送作業などにおいては以前から関わりがある企業等からの受注を継続することができました。優先調達推進法により、官公庁からの問い合わせや見積り依頼は毎年増加の傾向にあります。今年度においては、名古屋市の新たな部署からの受注もできました。また、印刷作業の依頼をいただいた企業に対しては施設活動をPRすることで新規作業の開拓にも繋げています。その一方で、パソコン編集で技術の高い利用者が就労移行にステップアップしたことにより、編集力の高い利用者が減り、編集における作業の低下がみられるといった内部体制の課題もあります。

軽作業については定期的に受注していた業者の倒産や、会社移転をされた業者があったことに伴い、生産活動が縮小したという結果になりました。また、新規開拓としては、名身連イメージキャラクターについて一般公募をして「ふくにゃん」が誕生しました。「ふくにゃん」製品をはじめ、新規自主製品の開発をすすめました。今後も新たな展開をしていきます。

このような現状の中、今年度は以下のことに取り組みました。

1. 従来からの作業継続について

印刷作業では、オンデマンド複写機の活用により、印刷作業にかかる時間短縮を図り、名刺や年賀状印刷など短期間で納品できるようになっています。また、外注の印刷業務では、業者と単に仕事のやり取りをするだけでなく、コスト削減の考え方や営業に関する助言をいただきながら受注案件に対応してきました。今後も、納期の短縮化や個別ニーズに応えつつ、外部の専門家の意見を参考にして、より多くの仕事をこなせるように努力していきたいと思えます。

軽作業では、倒産や、会社移転をされた業者があったことを要因として売上の減少がありました。売上減少を補填できるように新たな取引業者について模索していました。また、販売活動では、地域との関係を深めることを目的として、地元企業と連携したせんべいなどの商品販売の継続のほか、フェアトレード関連商品の拡充、販路拡大に努めました。

2. 生産設備の強化

専門家に同行していただき、機材展に参加する機会を得ました。印刷業界における最新の機械をはじめ、帳合い機、計数器、帯び掛け機などの印刷周辺機材の説明を受けました。検討した結果、内部での作業活動ができて作業単価を高く見込める卓上型の製本機を導入しました。今後は「製本もできる」という付加価値をつけた営業活動を展開しながら、製本機を活用した新規の生産体制をつくっていきます。

3. 販売商品の強化

以前から継続しているせんべいなど地元企業と連携した商品のほかにもフェアトレード商品の充実化を図りました。また、販売機会を増やすため、バザー等への出店を積極的に行いました。新規自主製品については、新たに作成したオリジナルキャラクター「ふくにゃん」を使った製品開発に取り組みました。

4. 関係団体や法人内他部署との連携

区役所や自立支援連絡協議会など関わりが多いセクションからの紹介により受注に繋がったケースもありました。関係団体からの印刷業務の受注もあり、今後も法人内での連携を密にし、相互協力しながら営業活動を行い新たな受注につなげていきます。

<利用者状況及び支援活動について>

第二ワークス・第二デイサービス就労継続支援B型事業の利用者状況は、3月末現在で利用者登録数は20名定員のところ18名です。就労移行にステップアップしたことにより、登録者数が減っている月もありましたが、新規利用者の加入もあり、年度末では昨年度と同じ18名となりました。一日の平均利用者数は14.4名でした。

1. 作業への支援

一人一人の障害状況や体調に合わせた支援をしました。パソコン編集作業のスキルを伸ばしたいと考えている利用者には、技術力の高い職員がマンツーマンで指導することにより、複雑なイラスト作成などの編集技術もできるようになりました。軽作業で活躍している利用者には全体の進捗状況を把握して、適宜必要な割り振りをするといったリーダーとしての役割を意識した作業活動ができるような支援をしました。作業活動を通して必要となる職業準備性を身に付けることができるよう支援に努めました。

2. 地域の支援機関や特別支援学校との連携、交流、ボランティア活動

新規利用者の受け入れに向け、施設のPRや連携を積極的に行いました。また、地域の方に対してボランティア募集を行い、特性を活かした新鮮なプログラムを利用者に提供する機会を得ることができました。地域の催しでは毎年開催されます「中村区民まつり」に参加し交流を深めています。

3. ステップアップへの支援

今後も利用者の意向を確認しながら、必要に応じて当法人の就労移行事業所や他の就労支援機関との連携をとっていきます。今年度は第二→就労移行→一般就労へステップアップされた方が2名ありました。

4. 福祉的就労への支援

生産活動や就労に必要な知識や能力を高め、一般就労への移行を目標としながらも、本人の障害状況や体調に合わせ、自分のペースで働きながら今後のことを考えることができるような環境づくりに努めました。また、昨年度に引き続き、職業準備や他者とのコミュニケーションが課題となる利用者に対しても個別支援を行いました。

5. レクリエーション活動

今年度も利用者アンケートにより、新年会を開催しました。利用者が企画段階から関わりをもってもらうことで主体的に取り組んでもらうことができました。アトラクションでは愉快的なマジックショーを目の前でみることができ会場全体が一体となり楽しむことができました。



ふくにゃん
メモ帳・伝言メモ帳



ふくにゃん クリアファイル



フェアトレード商品 (チョコレート)

就労継続支援B型事業 定員20名（名身連第二ワークス・第二デイサービス）

1. 居住区の状況(H29. 3. 31現在)

(単位:人)

居住地名									
千種	1	中村	5	熱田	1	守山	0	あま市	1
東	0	中	0	中川	2	緑	0	弥富市	1
北	2	昭和	0	港	1	名東	0	大治町	2
西	1	瑞穂	0	南	1	天白	0	清須市	0
計						市内	14	市外	4

2. 月別登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計	19	18	18	18	18	17	18	18	18	18	18	18

3. 月別新規登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2

4. 月別登録辞退者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2

5. 辞退理由

(単位:人)

	他施設	死亡	その他	計
計	0	0	2	2

6. 年齢・等級別状況

(単位:人)

年齢 \ 等級	1		2		3		4		5		なし		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～24歳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2
25～29歳	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
30～34歳	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
35～39歳	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
40～44歳	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	5
45～49歳	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
50～54歳	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
55～59歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	6	2	1	0	0	0	0	0	2	0	13	5	18

平均年齢

男性	37.8 歳
女性	43.6 歳
男女平均	39.4 歳

障害程度区分

(単位:人)

区分	人数
6	0
5	2
4	3
3	4
2	3
1	0
未認定	6
計	18

7. 障害原因別区分

(単位:人)

	区 分						計
	脳性まひ	脳血管障害	頭部外傷後遺症	疾病	聴覚障害	その他	
男	4	2	0	4	1	2	13
女	1	0	1	2	1	0	5
計	5	2	1	6	2	2	18

8. 手帳所持状況

(単位:人)

愛護 身障	1度	2度	3度	4度	なし	計
1級	0	0	0	0	7	7
2級	0	0	1	0	7	8
3級	0	0	0	1	0	1
4・5・6級	0	0	0	0	0	0
なし	0	2	0	0	0	2
計	0	2	1	1	14	18

9. 学歴状況

(単位:人)

学歴	小・中 卒	高卒	養護・聾 卒	短・専門 大 卒	不明	計
計	1	2	10	5	0	18

10. 登録前歴状況

(単位:人)

前歴	在 宅	学 生	他施設	就労者	第2デイ	計
計	2	1	8	3	6	18

11. 年金受給状況

(単位:人)

種類 性別	国民年金 障害基礎年金	厚生年金 障害年金	なし	計
男	9	1	3	13
女	3	1	1	5
計	12	2	4	18

12. 配偶者の有無

(単位:人)

状況 性別	有	無	計
男	2	11	13
女	0	5	5
計	2	16	18

13. 補装具使用状況

(単位:人)

種類 性別	車いす	車いす + 装具	杖	杖 + 装具	装具	なし
計	6	0	1	4	2	5

14. 通所方法

(単位:人)

等級 交通機関	1	2	3	4	5	なし	計
地下鉄	2	4	1	0	0	0	7
市バス	2	0	0	0	0	0	2
地下鉄と市バス	1	1	0	0	0	0	2
地下鉄と その他交通機関	1	1	0	0	0	0	2
名鉄	0	0	0	0	0	0	0
JR	0	0	0	0	0	0	0
2つ以上 の交通機関	0	0	0	0	0	0	0
家族及びヘルパーに よる送迎	1	1	0	0	0	0	2
リフトタクシー	0	0	0	0	0	0	0
タクシー	0	0	0	0	0	0	0
車いす自走	0	0	0	0	0	0	0
徒歩	0	0	0	0	0	0	0
自転車・徒歩	0	0	0	0	0	2	2
自家用車	0	1	0	0	0	0	1
計	7	8	1	0	0	2	18

15. 通所時間 (単位:人)

所要時間	計
30分未満	4
30分～39分	3
40分～49分	4
50分～59分	2
1時間～1時間09分	3
1時間10分～1時間19分	2
1時間20分以上	0
計	18

16. 登録期間の状況 (単位:人)

性別 \ 期間	6ヶ月未満	6ヶ月～1年	1年～3年	3年～5年	5年～7年	7年～9年	10年以上	計
計	2	3	4	1	2	0	6	18

17. 年度別退所者数 (単位:人)

年度	24	25	26	27	28	計
計	1	1	3	3	2	10

18. 現在までの退所理由(過去5年間) (単位:人)

性別 \ 理由	他施設	死亡	その他	計
男	3	0	6	9
女	0	0	1	1
計	3	0	7	10

19. 1か月分工賃状況 (単位:人)

平均工賃	人数
0～ 2,000円	0
2,000～ 4,000円	2
4,000～ 6,000円	2
6,000～ 8,000円	6
8,000～10,000円	3
10,000～15,000円	5
15,000～20,000円	0
20,000～30,000円	0
30,000円以上	0
計	18

20. 賞与支払状況

区 分	支払月	支払額	1人当平均	最高額	最低額	支払人数
28年度決算	7月	2,267,232	125,957	193,967	2,156	18
夏 期	7月	300,000	16,667	21,132	7,684	18
冬 期	12月	353,012	19,612	25,918	7,500	18
計	年3回	2,920,244	162,236			

21. 工賃支払状況

(単位:円)

	4月	5月	6月	決算賞与	7月	8月	夏期手当	9月
人数(人)	19	18	18	18	17	18	18	18
支払人数(人)	19	18	18	18	18	18	18	17
当月支払額	96,215	198,965	166,771	2,267,232	154,030	152,745	300,000	143,705
一人当平均支払額	5,160	11,575	10,005	125,957	9,208	9,013	16,667	8,453
最高支払額	9,100	17,925	15,400	193,967	14,000	15,400	21,132	13,780
最低支払額	1,200	4,000	3,575	2,156	2,375	2,400	7,684	2,650
出席率(%)	73.9	76.2	72.4	---	73.2	75.9	---	72.2
稼働日数(日)	20	19	22	---	20	22	---	20

	10月	11月	12月	冬期手当	1月	2月	3月	計
人数(人)	18	18	18	18	18	18	18	270
支払人数(人)	18	18	18	18	18	18	18	270
当月支払額	147,980	144,940	78,270	353,012	170,285	143,780	163,325	4,681,255
一人当平均支払額	8,221	8,052	4,348	19,612	9,460	7,988	9,074	262,793
最高支払額	14,000	14,000	7,700	25,918	17,490	14,000	15,400	393,812
最低支払額	1,255	1,500	500	7,500	3,000	2,645	2,625	42,440
出席率(%)	70.6	69.3	67.3	---	64.1	69.9	71.5	71.4
稼働日数(日)	20	20	19	---	18	20	22	242

22. 業者別収入

業 者 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
印 刷	A社	0	63,720	0	127,440				63,720		63,720	54,268	372,868	
	B社	400,253	195,090	5,464	125,711	348,089	465,845			73,150	8,575	281,661	1,903,838	
	C社	11,340	2,916	2,376	20,304	11,664	2,376		7,128		12,636	4,363	99,079	
	D社	56,808	72,306	37,800	0	1,173,744			3,715				3,619,797	4,964,170
	E社	221,153	202,565	338,412	391,872	131,208	164,910	228,456	137,714	428,141		109,652	193,064	2,547,147
	F社	8,100	0	3,240	2,160	2,700	4,860	0					124,740	145,800
	G社	31,629	33,168	0	28,874	29,413	30,039	62,217		10,454	30,155	30,155	30,168	316,272
	その他	128,618	417,057	225,773	218,721	109,163	237,716	607,604	226,444	975,551	91,350	582,102	258,762	4,078,861
軽 作 業	H社	39,509	29,045	50,069	28,377	19,024	10,636	13,410	15,246	28,652	13,996	2,097	15,897	265,958
	I社	14,768	14,161	10,456	11,280	5,319	9,195	14,425	14,425	1,901	7,776	0	7,555	111,261
	J社	98,078	73,250	63,736	61,626	52,650	49,194	89,934	85,220	77,168	67,030	85,804	94,668	898,358
	K社	22,246	15,710	13,003	9,944	3,525	3,580	7,394	9,369	6,782	14,122	11,635	13,167	130,477
	L社	50,215	80,028	113,740	10,751	119,134	83,918	65,306	38,634	42,188	58,031	66,657	56,607	785,209
	合計	1,082,717	1,199,016	864,069	1,037,060	2,005,633	1,062,269	1,088,746	601,615	1,570,837	431,966	955,308	4,720,062	16,619,298

平成28年度名身連第二ワークス・第二デイサービス事業報告

(生活介護事業)

<利用者状況について>

生活介護事業の利用状況は、登録者数が生産活動ありグループ（以下「生産活動あり」）21名、生産活動なしグループ（以下「生産活動なし」）48名。年間の利用者総数は生産活動あり3,286名で一日の平均利用者数は13.6名。生産活動なし4,602名で一日の平均利用者数は19.0名でした。新規登録者は生産活動あり3名と低調な上、前年度は利用率100%を越えていた生産活動なしの利用者も減少し、利用者確保が急務となりました。

障害の重度化、高齢化が進んでおり、医療的ケアが必要な方も増え、看護職員の配置を含めた支援体制の整備が必要です。今後も職員体制を検討し、多機能型施設として、相互のプログラムを利用者個別のニーズに合わせて提供できるよう目指していきます。

<サービス内容について>

1. 生産活動

生産活動ありでは軽作業を中心に生産活動を行っていますが、現在の社会経済情勢のなか、当施設のように委託作業の多い施設は大きな影響を受けます。28年度は取引先の倒産などもあり、軽作業に大きな落ち込みがみられ厳しい状況でした。

2. 日常生活訓練

役割を持ち自分で考える力を身に付けるために、朝の会や帰りの会の司会、ジュース注文など責任をもち取り組んでいただきました。また、洗濯物たたみやコップ洗いなど日常生活に即した活動を実施したり、リハビリ体操を行う事で体を動かす時間を確保しました。他にもリハビリの先生の指示に沿ったメニューなど、それぞれの方の障害や生活状況に合わせた個別な対応も実施しました。

◇散歩・買い物

センターの周囲には、コンビニ、スーパー、豊国神社、図書館や参道では9の付く日に開かれる「九の市」といった魅力がたくさんあります。その魅力を活かし、散歩や買い物に出掛けました。豊国神社では毎年恒例の花見や初詣などで季節を肌で感じました。散歩や買い物は大きな楽しみでもあります。その楽しみを通して外出先を自己選択すること、買い物では金銭管理・商品を選択すること・店の方とのコミュニケーションなどを身に付けられるように取り組みました。

◇お菓子作り

お菓子作りは、今年度よりボランティアの方のご協力を得て、メニューの発案から実際のお菓子作りまで関わっていただきました。メニューもマンネリ化しがちだったものが、ボランティアさんに加わっていただく事でメニューの幅も広がりました。作る工程では、利用者の方の残存機能を活かし道具を工夫したり、役割分担をしながら一人一人が関わられるようにしました。自分達で協力して作った物は格別のように毎回好評でした。



日 時	内 容
7/13, 14, 15	とろけるたまごプリン
12/14, 15, 16	フルーツクレープ
2/15, 16, 17	チョコレートカップケーキ

3. 社会適応訓練

◇社会生活カプログラム

今年度の大きな取り組みとしては、社会生活カプログラムが挙げられます。利用者の方も職員としてもお世話型に慣れてしまっていたましたが、利用者の方の自立と社会参加を目指すべくお世話型からの脱却を図りました。利用者の方からも自主的に活動をしたという声もあり、社会生活カとは何かという学習から初め、25あるモジュールの中から皆さんの多数決で決定したモジュール「外出」に取り組みました。最初は、自分の意見を言う事も難しかった方が、最後には皆さんの前で発表されたりと参加者の方の良い変化が多くみられました。

◇レクリエーション

毎年恒例のバスレクリエーションを春と秋に行いました。春のバスレクリエーションでは、6月2日、8日に「リニア・鉄道館」に出かけました。広い館内には、昭和初期の木造車内や様々な車輛展示、大ジオラマがあり、500キロのリニアモーターカーの疑似体験も出来ました。昼食は15種類の駅弁の中から自分好みのものを選んでいただき、鉄道を眺めながらの昼食で旅気分を味わっていただきました。秋のバスレクリエーションでは、11月11日、17日に「名古屋港水族館」に出かけました。天気にも恵まれ、食事はフードコートやレストランなど思い思いの場所で楽しまれていました。圧巻のシャチの親子やシロイルカのベルーガ、可愛いペンギンなど、たくさんの種類の生き物達やアクロバティックなイルカのショーなどは、皆さんが見たいものを自分で考え楽しまれていました。

その他にも新春パーティーや夏祭り、ハロウィンパーティーも開催しました。新春パーティーは利用者の方が企画委員として携わり、受付や司会の役割分担を決めたり、食事内容やアトラクションを考え皆さんが楽しめるように考えていました。レクリエーションは生産活動ありの方も参加されるので、セクションを越えた交流の一つとなっています。



春のバスレク



新春パーティー



夏祭り



社会生活力プログラム

4. 創作活動

個人創作では、ジグソーパズルや刺繍、ビーズアート、編み物などに取り組みました。編み物については、オリジナルの木製の道具を活用し行われ、その取り組みを見て創作意欲に火がつき取り組み始める方もみえました。作品展に出品される方もいっらっしやり、実際に作品展で自分の作品が並んでいる姿を見て喜ばれていました。

外部講師による創作としては、陶芸を年に4回開催しました。皆さん真剣な面持ちで粘土を捏ね形作っていました。創作活動は、作品展への出品を目指す事でモチベーションを高めたり、他の方の作品作りを観ることで創作意欲が出てきたり利用者の方同士の相互作用がありました。



作品展受賞作品



陶芸風景

5. 入浴サービス

生産活動なしの特有のサービスとして、入浴があります。一般浴、機械浴、寝浴、シャワー浴の4種類の設備を兼ね揃え、身体状況に合わせて安全・安楽に入浴していただけるようにしています。

利用状況としては23名の方が利用されており、男性13名、女性10名となっております。また、入浴の際にはバイタルチェックや入浴中の状態などの観察をとおして各利用者やご家族と情報を共有し、健康状況の把握に努め入浴サービスの提供とあわせて健康管理などの支援を行いました。

生活介護事業 生産活動あり 定員20名（名身連第二ワークス・第二デイサービス）

1. 居住区の状況(H29. 3. 31現在)

(単位:人)

居住地名										
千種	1	中村	10	熱田	0	守山	1	あま市	1	
東	1	中	0	中川	2	緑	0			
北	2	昭和	0	港	1	名東	0			
西	2	瑞穂	0	南	0	天白	0			
計							市内	20	市外	1

2. 月別登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計	20	20	19	19	20	21	21	22	22	22	21	21

3. 月別新規登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4
女	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
計	2	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	6

4. 月別登録辞退者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
計	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3

5. 辞退理由

(単位:人)

	他施設	死亡	その他	計
男	0	0	1	1
女	0	0	2	2
計	0	0	3	3

6. 年齢・等級別状況

(単位:人)

年齢 \ 性別	1		2		3		4		5		6		なし		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～24歳	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2
25～29歳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
30～34歳	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
35～39歳	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
40～44歳	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
45～49歳	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
50～54歳	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
55～59歳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
60歳以上	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1
計	5	3	4	0	2	3	0	0	0	0	0	2	2	0	13	8

平均年齢

男 性	44.4 歳
女 性	42.6 歳
男女平均	43.7 歳

障害程度区分

(単位:人)

区 分	人数
6	3
5	4
4	5
3	7
2	2
1	0
計	21

7. 障害原因別区分

(単位:人)

	区 分						計
	脳性まひ	脳血管障害	頭部外傷後遺症	疾病	聴覚障害	その他	
男	5	3	3	0	0	2	13
女	1	0	1	1	3	2	8
計	6	3	4	1	3	4	21

8. 手帳所持状況

(単位:人)

愛護 身障	1度	2度	3度	4度	なし	計
1級	0	0	2	1	4	7
2級	0	2	0	1	3	6
3級	0	1	0	1	3	5
4・5・6級	0	0	1	0	0	1
なし	0	0	0	0	2	2
計	0	3	3	3	12	21

9. 学歴状況

(単位:人)

学歴	小・中 卒	高卒	養護・聾 卒	短・専門 大 卒	職業訓練校	計
計	2	4	12	3	0	21

10. 登録前歴状況

(単位:人)

前歴	在 宅	学 生	他施設	就労者	第二内	計
計	1	2	10	3	5	21

11. 年金受給状況

(単位:人)

種類 性別	国民年金 障害基礎年金	厚生年金 障害年金	なし	計
男	5	3	5	13
女	4	1	3	8
計	9	4	8	21

12. 配偶者の有無

(単位:人)

状況 性別	有	無	計
男	3	10	13
女	0	8	8
計	3	18	21

13. 補装具使用状況

(単位:人)

種類 性別	車いす	車いす + 装具	杖	杖 + 装具	装具	なし
計	7	0	2	0	3	9

14. 通所方法

(単位:人)

等級 交通機関	1	2	3	4	5	6	なし	計
地下鉄	0	0	1	0	0	0	0	1
市バス	0	0	0	0	0	0	0	0
地下鉄と市バス	1	0	0	0	0	1	0	2
地下鉄と その他交通機関	0	0	1	0	0	0	0	1
名鉄	0	0	0	0	0	0	0	0
JR	0	0	0	0	0	0	0	0
2つ以上 の交通機関	0	0	1	0	0	0	0	1
家族及びヘルパーに よる送迎	5	3	2	0	0	1	2	13
リフトタクシー	0	0	0	0	0	0	0	0
タクシー	0	0	0	0	0	0	0	0
車いす自走	0	0	0	0	0	0	0	0
徒歩・自転車	0	1	0	0	0	0	0	1
リフトバス(送迎)	2	0	0	0	0	0	0	2
乗用車(送迎)	0	0	0	0	0	0	0	0
計	8	4	5	0	0	2	2	21

15. 通所時間 (単位:人)

所要時間	計
30分未満	10
30分～39分	1
40分～49分	3
50分～59分	2
1時間～1時間09分	4
1時間10分～1時間19分	0
1時間20分以上	1
計	21

16. 登録期間の状況 (単位:人)

性別 \ 期間	6ヶ月未満	6ヶ月～1年	1年～3年	3年～5年	5年～7年	7年～9年	10年以上	計
計	1	4	7	0	0	3	6	21

17. 年度別退所者数 (単位:人)

年度	24	25	26	27	28	計
計	2	0	1	6	3	12

18. 現在までの退所理由(過去5年間) (単位:人)

性別 \ 理由	他施設	死亡	その他	計
男	2	0	6	8
女	0	0	4	4
計	0	0	10	12

19. 介護状況 (単位:人)

性別 \ 状況	起居	移動	食事	更衣	排泄
自立	19	21	21	19	19
部分介助	2	0	0	2	2
全介助	0	0	0	0	0
計	21	21	21	21	21

20. 1か月分工賃状況 (単位:人)

平均工賃	人数
0～ 2,000円	10
2,000～ 4,000円	8
4,000～ 6,000円	3
6,000～ 8,000円	0
8,000～10,000円	0
10,000～15,000円	0
15,000～20,000円	0
20,000～30,000円	0
30,000円以上	0
計	21

21. 賞与支払状況

区分	支払月	支払額	1人当平均	最高額	最低額	支払人数
28年度決算	7月	301,627	17,743	32,752	3,139	17
夏期	7月	300,000	15,789	26,334	4,745	19
冬期	12月	246,988	11,227	24,949	77	22
計	年3回	848,615	44,759			

22. 工賃支払状況

(単位:円)

	4月	5月	6月	決算賞与	7月	8月	夏期手当	9月
人数(人)	20	20	19	17	19	20	19	21
支払人数(人)	20	20	19	17	19	18	19	20
当月支払額	36,007	68,373	55,460	301,627	47,820	48,145	300,000	44,244
一人当平均支払額	1,800	3,419	2,773	17,743	2,517	2,407	15,789	2,107
最高支払額	3,900	7,800	6,475	32,752	6,000	6,114	26,334	5,400
最低支払額	527	558	0	3,139	45	0	4,745	0
出席率(%)	58.5	57.4	55.3	---	51.6	55.1	---	52.4
稼働日数(日)	20	19	22	---	20	22	---	20

	10月	11月	12月	冬期手当	1月	2月	3月	計
人数(人)	21	22	22	22	22	21	21	306
支払人数(人)	20	21	20	22	20	20	21	296
当月支払額	44,360	44,011	23,842	246,988	56,797	43,753	53,372	1,414,799
一人当平均支払額	2,112	2,001	1,084	11,227	2,582	1,989	2,542	72,092
最高支払額	4,793	4,778	2,650	24,949	7,075	5,400	5,104	144,420
最低支払額	0	0	0	77	0	0	390	9,091
出席率(%)	51.2	51.5	50.1	---	48.8	48.9	54.8	53
稼働日数(日)	20	20	19	---	18	20	22	242

生活介護事業 生産活動なし 定員20名 (名身連第二ワークス・第二デイサービス)

1. 居住区の状況(H29. 3. 31現在)

(単位:人)

居住地名										
千種	0	中村	29	熱田	0	守山	0	大治町	2	
東	0	中	0	中川	9	緑	0	清須市	1	
北	1	昭和	0	港	2	名東	0	刈谷市	1	
西	3	瑞穂	0	南	0	天白	0			
計							市内	44	市外	4

2. 月別登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計	55	53	53	52	51	51	49	49	49	49	48	48

3. 月別新規登録者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

4. 月別登録辞退者数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	2	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	6
女	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
計	3	2	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	10

5. 辞退理由

(単位:人)

	他施設	死亡	その他	計
男	2	1	3	6
女	3	1	0	4
計	5	2	3	10

6. 年齢・等級別状況

(単位:人)

等級 年齢	1		2		3		4		5		6		なし		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～24歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25～29歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30～34歳	3	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	7
35～39歳	3	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	9
40～44歳	2	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	8
45～49歳	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4
50～54歳	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4
55～59歳	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
60歳以上	3	2	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	3	1	9	5	14
計	13	16	4	4	2	3	2	0	0	0	0	0	3	1	24	24	48

平均年齢

男性	49 歳
女性	47 歳
男女平均	48 歳

障害程度区分

(単位:人)

区分	人数
6	19
5	7
4	10
3	10
2	2
1	0
計	48

7. 障害原因別区分

(単位:人)

	区 分						計
	脳性まひ	脳血管障害	外傷	疾病	視覚障害	その他	
男	4	4	4	9	1	2	24
女	12	3	1	6	1	1	24
計	16	7	5	15	2	3	48

8. 手帳所持状況

(単位:人)

愛護 身障	1度	2度	3度	4度	なし	計
1級	6	0	2	2	19	29
2級	3	0	0	0	5	8
3級	1	0	2	0	2	5
4・5・6級	0	0	0	0	2	2
なし	0	0	0	0	4	4
計	10	0	4	2	32	48

9. 学歴状況

(単位:人)

学歴	小・中 卒	高卒	養護 卒	短・専門 大 卒	不明	計
計	9	11	24	3	1	48

10. 登録前歴状況

(単位:人)

前歴	在 宅	学生	他施設	就労者	計
計	16	12	20	0	48

11. 年金受給状況

(単位:人)

種類 性別	国民年金 障害基礎年金	厚生年金 障害年金	なし	計
男	15	4	5	24
女	22	0	2	24
計	37	4	7	48

12. 配偶者の有無

(単位:人)

状況 性別	有	無	計
男	4	20	24
女	2	22	24
計	6	42	48

13. 補装具使用状況

(単位:人)

種類	車いす	車いす + 装具	杖	杖 + 装具	装具	補聴器	なし
計	25	7	4	3	1	0	8

14. 通所方法

(単位:人)

等級	1	2	3	4	5	6	なし	計
交通機関								
地下鉄	0	0	0	0	0	0	0	0
市バス	1	0	0	0	0	0	0	1
地下鉄と市バス	0	0	0	0	0	0	0	0
地下鉄と その他交通機関	0	0	0	0	0	0	0	0
名鉄	0	0	0	0	0	0	0	0
JR	0	0	0	0	0	0	0	0
2つ以上 の交通機関	0	0	0	0	0	0	0	0
家族及びヘルパーに よる送迎	10	3	2	0	0	0	1	16
リフトタクシー	2	0	0	0	0	0	0	2
タクシー	0	0	0	0	0	0	0	0
車いす自走	0	0	0	0	0	0	0	0
徒歩	0	0	0	2	0	0	1	3
リフトバス(送迎)	10	4	1	0	0	0	1	16
乗用車(送迎)	6	1	2	0	0	0	1	10
計	29	8	5	2	0	0	4	48

15. 通所時間

(単位:人)

所要時間	計
30分未満	33
30分~39分	8
40分~49分	5
50分~59分	2
計	48

16. 登録期間の状況

(単位:人)

性別 \ 期間	6ヶ月未満	6ヶ月～1年	1年～3年	3年～5年	5年～7年	7年～9年	10年以上	計
計	0	0	4	4	10	4	26	48

17. 年度別退所者数

(単位:人)

年度	24	25	26	27	28	計
計	3	6	4	5	10	28

18. 現在までの退所理由(過去5年間)

(単位:人)

性別 \ 理由	他施設	死亡	その他	計
男	9	2	3	14
女	8	4	2	14
計	17	6	5	28

19. 介護状況

(単位:人)

	起居	移動	食事	更衣	排泄	入浴
自立	22	9	24	19	13	10
部分介助	12	20	11	15	18	19
全介助	14	19	13	14	17	19
計	48	48	48	48	48	48

平成 28 年度 名身連第二ワークス・第二デイサービス行事一覧

NO	実施日	事 項	主 催	場 所	摘 要
1	4 月 12 日	ドラゴンゲートプロレス観戦	株式会社 ドラゴンゲート	露橋スポーツセンター	自由参加
2	4 月 20 日	名古屋グランパスエイト観戦	名古屋グランパスエイト後援会	パロマ瑞穂スタジアム	自由参加
3	5 月 5 日	ドラゴンゲートプロレス観戦	株式会社 ドラゴンゲート	愛知県体育館	自由参加
4	5 月 8 日	障害者スポーツ大会	名古屋市市役所福祉課	瑞穂競技場	自由参加
5	5 月 7 日	ドラゴンゲートプロレス観戦	株式会社 ドラゴンゲート	津島市文化会館	自由参加
6	5 月 21 日	名古屋グランパスエイト観戦	名古屋グランパスエイト後援会	豊田スタジアム	自由参加
7	5 月 23 日	名古屋ポストン美術館の招待	三菱商事株式会社中部支社	名古屋ポストン美術館	自由参加
8	6 月 2 日	春季レクリレーション	第二ワークス・第二デイサービス	リニア・鉄道館	自由参加
9	6 月 10 日	春季レクリレーション	第二ワークス・第二デイサービス	リニア・鉄道館	自由参加
10	7 月 19 日	ドラゴンゲートプロレス観戦	株式会社 ドラゴンゲート	中村スポーツセンター	自由参加
11	7 月 21 日	大相撲名古屋場所の招待	中日新聞社会事業団事務局	愛知県体育館	自由参加
12	7 月 30 日	第 69 回定期演奏会	名古屋シンフォニア管弦楽団	愛知県芸術劇場 コンサートホール	自由参加
13	8 月 24～26 日	夏祭り	名身連第二ワークス・第二デイサービス	名身連福祉センター	自由参加
14	9 月 23 日	非難訓練	名身連第二ワークス・第二デイサービス	名身連福祉センター	
15	10 月 24 日	俺たちの国芳わたしの国貞	三菱商事	名古屋ポストン美術館	自由参加
16	10 月 26 日 から 10 月 28 日	ハロウィンパーティー	第二ワークス・第二デイサービス	名身連福祉センター	自由参加
17	11 月 6 日	障害者福祉大会	名古屋市・他	中区役所ホール	自由参加
18	11 月 11 日	秋季レクリレーション	第二ワークス・第二デイサービス	名古屋港水族館	自由参加
19	11 月 17 日	秋季レクリレーション	第二ワークス・第二デイサービス	名古屋港水族館	自由参加
20	11 月 17 日 から 11 月 23 日	ドーム焼き物ワールド	公益社団法人愛知宅地建物取引業協会	ナゴヤドーム	自由参加
21	11 月 20 日	プロレスリング HEAT-UP 11 月名古屋大会	プロレスリング HEAT-UP	枇杷島スポーツセンター	自由参加

22	11月23日	新日本プロレス	新日本プロレスリング	愛知県体育館	自由参加
23	1月20日	新春パーティー	第二ワークス・第二デイサービス	メルパルク NAOYA	自由参加
24	1月26日	フランス料理を楽しむ社会福祉食事会	日本エスコフイエ協会	愛知県芸術劇場 コンサートホール	自由参加
25	2月5日	第70回名古屋シンフォニア管弦楽団	名古屋シンフォニア管弦楽団	名古屋市博物館	自由参加
26	2月8日、 10日	第51回名古屋市 障害者作品展示会見学	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市博物館	自由参加
27	2月23日	ドラゴンゲートプロレス	株式会社ドラゴンゲート	津島市文化会館	自由参加
28	3月19日	ドラゴンゲートプロレス	株式会社ドラゴンゲート	名古屋国際会議場	自由参加
29	3月26日	ポインタとたっくん/ポーちゃん&関島秀樹コンサート	NPO法人愛実の会	名古屋市港文化小劇場	自由参加

熱田区障害者基幹相談支援センター

平成28年度障害者基幹相談支援センター事業報告

<ポイント>

平成28年度は、熱田区障害者基幹相談支援センターを開始し3年目の年でした。

今年度の重点課題として、「地域とのつながりを深める」を目標とし取り組みを行いました。

取り組んだ内容として、8月に開催した「あつたつながるフェア」と9月から開始した「かよういちサロン」があります。

「あつたつながるフェア」は熱田区障害者基幹相談支援センターの周知と、障害福祉の啓発を目的として、日頃から関係が深い福祉サービス事業所＋熱田区自立支援連絡協議会の販売連絡会“あつた〇”の皆さんでの商品販売と、音楽をとおして活動している障害当事者の方々のステージを“熱田イオンモール”で行いました。お客様に足を止めていただけた事や、ステージよかったよ！などの声をいただけたことから、成果を実感しています。また、「かよういちサロン」は地域の方、家族の方、日中活動を現在休憩している方などが参加し、楽しんでいただいています。今後は、更に根を張り地域から風をもらうことで、ニーズ発見の場であり地域に発信が出来る場となるように継続・発展させていきたいと考えます。

<報告>

相談業務について

相談件数は昨年度に比べ、実人数も相談件数も増加しています。このことは、基幹支援センターが開始し3年を向かえ、認知度に広がりがあったのではないかと推測できます。また、今年度は、児童の相談が増加した一年でした。障害者福祉の制度についての知識だけでは、不十分であるため、今後は、児童福祉の知識から介護保険に至るまで更に学びの幅を広げ深めていくことの必要性を強く感じる年となりました。

自立支援連絡協議会について

区役所、保健所、社会福祉協議会、各部会の長からなる運営会議を核として、積極的運営を継続できた一年となりました。「区民祭り」「あつたかあつた福祉フェスタ」「防災体験」「エンジョイフェア」など協議会のメンバーと協力して当日を向かえ、成功させることで連携できる絆を深めることが出来ました。ただ、協議会の課題として「福祉人材の不足」「ヘルパー不足」「グループホーム不足」があることが、共通の課題であることが浮かび上がってきました。人材が不足している今、質の高い人材は更に困窮しています。今後は、福祉の魅力をどう発信し人材不足を改善していくか。質の高い福祉人材をどう育成していくかについても検討し活動していくことが求められます。

1. 相談支援件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
157	241	285	265	221	231	215	230	180	235	183	169	2,612

(内訳)

利用者内訳(人)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	合計
障害者	256	49	1	66	122	5	1	9	253
障害児	17	2	0	8	0	1	0	5	16
合計	273	51	1	74	122	6	1	14	269

※重複障害はそれぞれの障害での人数で表した。

①外来相談 2221件

②訪問相談 391件

訪問相談	同行	個別支援会議	他機関調整	その他	合計(件)
124	54	37	66	110	391

③自立支援協議会実施回数 57回

④認定調査件数 199件

⑤サービス利用計画作成(人数) 8人

⑥配食サービス 33件

受講した研修

日付	研修テーマ	主催	参加者
6月3日	実習指導者事前研修	日本福祉大学 美浜キャンパス	久野
6月21日	医療・介護保険の今後の動向 名古屋市リハビリテーションセンター 総合相談室 課長 萩原 康仁	名身連第二ワークス・第二デイサービス	久野
6月27日	相談支援従事者現任研修	愛知県	山田
6月28日	名身連職員研修	名古屋市身体障害者福祉連合会	全職員
6月30日	相談支援従事者現任研修	愛知県	山田
7月21日	相談支援従事者現任研修	愛知県	山田
7月28日	平成28年度第1回 四区合同相談支援事業所学習会 「成年後見制度について」	西ブロック会	山田
8月4日	第二回 相談支援従事者研修 全体研修 「精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携」 愛知淑徳大学 瀧誠先生	名古屋市、障害者基幹相談支援センター	山田
8月9日	若年性認知症の人たちの現状と願い 名古屋市認知症相談支援センター 副所長 染野 徳一氏 相談員 鬼頭 史樹氏	名古屋市身体障害者福祉連合会	全職員
8月30日	支援者のかかわり方と精神障害者の特性 社会福祉法人 親愛の里 統括エリアマネージャー 青木 邦子 氏	熱田区障害者自立支援連絡協議会	久野 山田
10月26日	名古屋市障害者相談支援従事者研修 中堅者クラス 研修会+現場OJTを組み合わせた取り組み概要	名古屋市、障害者基幹相談支援センター	山田

11月5日	熱田区 認知症講演会 鈴鹿大学短期大学部教授 音楽療法士 鵜飼 久美子 氏 名鉄病院 神経内科部長 名古屋市認知症疾患医療センター センター	熱田区地域包括ケア推進会議 認知症部会	久野
11月18日	第三回 相談支援従事者研修 全体研修 「精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携」 愛知淑徳大学 瀧誠先生	名古屋市、障害者基幹相談支援センター	山田
11月28日	事例を通して考える 守山区障害者基幹相談支援センター 副センター長 王子田 剛 氏	熱田区障害者自立支援連絡協議会	久野 山田
12月1日	相談支援従事者研修 全体研修 「名古屋市子ども応援委員会との連携」 名古屋市子ども応援委員会	名古屋市、障害者基幹相談支援センター	久野
12月20日	名古屋市障害者相談支援従事者研修 中堅者クラス 事例を基にした振り返り参加型のグループワーク	名古屋市、障害者基幹相談支援センター	山田
1月7日	実習報告会	淑徳大学	久野
1月27日	高次脳機能障害地域生活援助者養成研究事業 全国研修	名古屋市リハビリテーション事業団	久野
1月28日	高次脳機能障害地域生活援助者養成研究事業 全国研修	名古屋市リハビリテーション事業団	久野
2月2日	支援に必要な視点 岩間 伸之 氏	熱田・中村基幹相談連絡会	久野 山田 小藪
2月4日	熱田区認知症講演会 私の気持ちを聴いて 当事者 山田 真由美 氏	熱田区地域包括ケア推進会議 認知症部会	久野
2月23日	平成28年度第2回 四区合同相談支援事業所学習会 「ファシリテーター研修」	西ブロック会	山田
3月10日	第4回 相談支援従事者研修 全体研修 「精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携」事例検討<ケーススタディー>:対応方法を学ぶ その② 愛知淑徳大学 瀧誠先生	名古屋市、障害者基幹相談支援センター	山田
3月17日	熱田区自立支援連絡協議会全体研修会 イライラを解消して虐待防止に役立つ アンガーマネジメント 田原授産所 鎌田博幸施設長	熱田区自立支援連絡協議会	久野 山田 小藪

講師として、参加した研修

日付	研修テーマ	主催	参加者
6月17日	新規参入事業者向け研修 「障害特性の理解について」	名古屋市	久野
6月22日	実習内容説明会	日本福祉大学 半田キャンパス	久野
7月5日	名障連 ケアマネジメント研修	名古屋市 名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	久野
7月20日	障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本	愛知介護労働センター	久野
8月22日	名障連 ケアマネジメント研修	名古屋市 名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	久野
7月20日	障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本	愛知介護労働センター	久野
7月28日	医学的側面からみた障害の理解	愛知介護労働センター	小藪
7月5日	名障連 ケアマネジメント研修	名古屋市 名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	久野
8月22日	名障連 ケアマネジメント研修	名古屋市 名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	久野
9月2日	障害福祉制度について	名身連聴覚言語情報文化センター	久野

9月9日	障害福祉制度について	名身連聴覚言語情報文化センター	久野
9月16日	名障連 ケアマネジメント研修	名古屋市 名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	久野
9月26日	平成28年度愛知県相談支援従事者 初任者研修 演習講師	愛知県	久野
10月4日	同行援護に関する制度と背景	名身連ヘルパーセンター	久野
10月18日	名障連 ケアマネジメント研修	名古屋市 名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	久野
10月20日	平成28年度愛知県相談支援従事者 初任者研修 演習講師	愛知県	久野
10月21日	平成28年度愛知県相談支援従事者 初任者研修 演習講師	愛知県	久野
11月17日	名障連 ケアマネジメント研修	名古屋市 名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	久野
12月13日	名障連 ケアマネジメント研修	名古屋市 名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	久野
1月19日	新規参入事業者向け研修 「障害特性の理解について」	名古屋市	久野
2月17日	障害者が安心して蔵説社会を実現するために ～知的障がい者の加齢について考える～	全重協 中部ブロック	久野
2月17日	障害福祉サービスのせいどについて	熱田区認知症サロン	山田

2月20日	愛知淑徳大学集中講義 障害福祉サービスの流れについて	愛知淑徳大学	久野
2月21日	愛知淑徳大学集中講義 障害福祉サービスについて 自立訓練 GH 福祉ホームなど	愛知淑徳大学	久野
2月22日	愛知淑徳大学集中講義 相談支援事業所の役割と実際 基幹支援センター 相談支援事業所について	愛知淑徳大学	久野

中村区障害者基幹相談支援センター

平成28年度中村区障害者基幹相談支援センター事業報告

<ポイント>

中村区は、障害者基幹相談支援センターとしては3年目、「親愛の里」と同じ事務所で事業運営を始めてからは4年目となりました。今年度は、いきいき支援センターから、高齢の両親と障害の子ども世帯の困難事例のケース会議への参加依頼が増加したことや、社会資源を活用せずに障害者を抱え込んで生活してきた両親が高齢化して行き詰ったケースの相談も目立ち、当事者や家族の高齢化を感じる1年でした。これまで以上に、介護保険制度の理解や、いきいき支援センターとの連携が求められ、学ぶことの重要性を感じました。

計画相談においては、中村区内の特定相談支援事業所が今年度2ヶ所休止となり、4事業所に減少したものの、相談員の人数そのものは増えており、複数の相談員で対応できる事業所が増えていきます。基幹としても、各事業所・各相談員がケースを抱え込まないよう、相談支援部会や個別の相談などでバックアップを行ないました。

<報告>

相談業務について

昨年度に比べ、件数は増加傾向にあり、月平均件数では、昨年度の約360件/月から約400件/月となっていますが、実人数は昨年度総数396人から358人へと減少しています。内容としては、不安や気分の不安定さを訴える相談が過半数を占めており、基幹に求められる役割がサービスの調整から心のよりどころとしての場所に変化してきていると想定されます。

今年度相談事例の中では、触法障害者に関する相談が増加しています。中でも医療保護観察法の対象者のケースも3件ほどありましたが、そのうち1件は退院後の受け入れがスムーズにいかなかったこともあり、まだまだ法律の理解不足や誤解があることを実感しました。次年度に自立支援連絡協議会の中で医療保護観察法についての全体研修を行う予定をしています。

地域移行については、今年度は1ケースについて支援を続けており、次年度早々には退院につながりそうです。1事業所だけの支援では限界があるため、区内の医療機関や障害サービス事業所、相談機関などと連携を取りながら進めていきます。

自立支援連絡協議会について

協議会の形態を再編成し、「連絡会」となっていた部会も名称を「部会」に統一しました。児童デイ部会とグループホーム部会では、部会の開催場所を各事業所で持ち回りにすることで、お互いの施設を知る取り組みにもなりました。各部会が積極的に活動を進める中、居学部会では事業所の人材不足もあり、部会の定期的な開催も難しく、研修会を1度開催したのみの状況です。

地域啓発としては、継続して行なっている中村区区民まつりへの参加や、地域福祉講演会、中高生夏休みボランティアのほか、出張講座として区内の医療機関に出向き、医療従事者や区内の事業所職員、地域住民の方たちに障害の特性などについてお話をしました。

地域福祉講演会では、「子どもの発達を考える」をテーマにし、名古屋掖済会病院の長谷川先生を講師にお迎えしました。託児所も準備したところ、若いお母さん方にもたくさんご参加いただくことができました。終了後のアンケートでも、「祖父母世代に子どもの障害を理解してもらえることができてよかった」という声も多く、今後も地域の実情や課題に即したテーマを取り上げていきたいと思っております。

1. 相談支援件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
358	361	432	460	373	467	479	389	340	357	330	446	4,792

(内訳)

利用者内訳(人)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	合計
障害者	361	74	1	89	171	7	1	8	351
障害児	7	0	0	5	0	0	0	2	7
合計	368	74	1	94	171	7	1	10	358

※重複障害はそれぞれの障害での人数で表した。

①外来相談 4,417 件

②訪問相談 375 件

訪問相談	同行	個別支援会議	他機関調整	その他	合計(件)
173	93	58	32	19	375

③自立支援協議会実施回数 57 回

④認定調査件数 348 件

⑤サービス利用計画(延べ件数) 15 件

⑥配食サービス 19 件

受講した研修

日付	研修テーマ	主催	参加者
4月8日	障害支援区分認定調査員研修	愛知県	北原
6月28日	名身連職員研修	名古屋市身体障害者福祉連合会	全職員
7月14日	第1回 相談支援従事者研修 全体研修 「精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携」 愛知淑徳大学 瀧誠先生	名古屋市、障害者基幹相談支援センター	高山、浜島
7月28日	平成28年度第1回 四区合同相談支援事業所学習会 「成年後見制度について」	西ブロック会	高山
8月4日	第二回 相談支援従事者研修 全体研修 「精神障害の理解、いきいき支援センターとの連携」 愛知淑徳大学 瀧誠先生	名古屋市、障害者基幹相談支援センター	高山
8月9日	若年性認知症の人たちの現状と願い 名古屋市認知症相談支援センター 副所長 染野 徳一氏 相談員 鬼頭 史樹氏	名古屋市身体障害者福祉連合会	全職員
8月16日	平成28年度愛知県相談支援従業者 初任者研修	愛知県	北原
8月17日	平成28年度愛知県相談支援従業者 初任者研修	愛知県	北原
8月29日	平成28年度愛知県相談支援従業者 初任者研修	愛知県	北原
9月26日	平成28年度愛知県相談支援従業者 初任者研修	愛知県	北原
10月20日	平成28年度愛知県相談支援従業者 初任者研修	愛知県	北原

10月21日	平成28年度愛知県相談支援従業者 初任者研修	愛知県	北原
11月18日	第三回 相談支援従事者研修 全体研修 「精神障害の理解、いきいき支援センターと の連携」 愛知淑徳大学 瀧誠先生	名古屋市、障害者基幹相談支援セン ター	高山
11月25日	事例検討会 アセスメントを深めるファシリテーターについ て 昭和保健所 日高 橘子氏	相談課内研修	羽生 田尻
12月1日	相談支援従事者研修 全体研修 「名古屋市子ども応援委員会との連携」 名古屋市子ども応援委員会	名古屋市、障害者基幹相談支援セン ター	高山、北原
1月28日	地域福祉講演会 「子どもの発達を考える 発達障害の理解と 支援」名古屋掖済会病院 臨床研修センター センター長 長谷川正幸先生	中村区自立支援連絡協議会	高山、北原
2月2日	支援に必要な視点 岩間 伸之 氏	熱田・中村基幹相談連絡会	全職員
2月22日	合同研修会 「差別解消法研修会」 百草法律事務所 宮本英行弁護士	中村区自立支援連絡協議会	高山
2月23日	平成28年度第2回 四区合同相談支援事業所学習会 「ファシリテーター研修」	西ブロック会	浜島
3月10日	第4回 相談支援従事者研修 全体研修 「精神障害の理解、いきいき支援センターと の連携」事例検討<ケーススタディー>:対 応方法を学ぶ その② 愛知淑徳大学 瀧誠先生	名古屋市、障害者基幹相談支援セン ター	高山

講師として、参加した研修

日付	研修テーマ	主催	参加者
6月27日	介護労働講習 「障害による生活障害、心理・行動の特徴」	介護労働安定センター	高山
7月12日	新規参入事業者向け研修 「障害特性の理解について（身体・知的・難病）」	名古屋市	高山
7月26日	医療と福祉の連携会議「障害について」	中村区自立支援連絡協議会 出張講座	浜島
9月26日	平成28年度愛知県相談支援従事者 初任者研修 演習講師	愛知県	高山
10月20日	平成28年度愛知県相談支援従事者 初任者研修 演習講師	愛知県	高山
10月21日	平成28年度愛知県相談支援従事者 初任者研修 演習講師	愛知県	高山
2月16日	新規参入事業者向け研修 「障害特性の理解について（身体・知的・難病）」	名古屋市	高山

名身連第一ワークス・第一デイサービス
名身連第二ワークス・第二デイサービス
相談事業所

平成28年度

名身連第一ワークス・第一デイサービス相談事業所

名身連第二ワークス・第二デイサービス相談事業所事業報告

<ポイント>

両事業所ともに130名を超える利用者の計画相談を担当しています。

今年度は両事業所共に昨年度同様、利用者本人、利用者家族の高齢化により、ヘルパー事業所や短期入所先の調整等、サービスの調整で動くことが多い一年でした。サービス調整で動く機会が多くなってきたことは、特定相談の役割が浸透してきたことが推測できます。また、高齢化に伴う課題として、当法人の理念である「一人ひとりを大切に、誰もが地域で安心して暮らせる社会をめざす」を支援の基本とし、その人らしく生活ができるための支援を行なうと共に、「親亡き後の生活」について考えさせられる一年でした。

<報告>

平成28年度は

- ①相談員の資質向上
 - ②相談支援専門員がケースを抱え込まない仕組みの強化
 - ③地域の関係機関との連携強化
- を事業目標として掲げ、事業の運営をしていきました。

①資質の向上の取り組みとして、グループ研究を行いました。テーマとしてとりあげたのは相談のなかで、家族の高齢化に伴い、否が応でも在宅生活が困難になるケースと向き合ったことをきっかけに、『親亡き後の生活について』としました。他市の先行事例の中から、ニーズの把握やエンパワメントの視点を持つ事を学ぶと共に、今後の課題について深く考える機会となりました。

また、支援に必要な視点を学ぶために、大阪市立大学 岩間伸之教授の研修会を行いました。この研修は、熱田区、中村区の障害者基幹相談支援センターと共に企画・開催をした研修で、支援の根拠となる「知識・技術・価値」について学びを深めることができました。

②抱え込まない仕組みとして、法人内の相談部門の職員会議でケース検討を行うことで、情報の共有と協力体制ができる環境作りを意識しました。また、ケア会議の進め方についてのスキル向上を目的とした事例検討会を行い、会議の進め方について学びを深め、上記に記した岩間先生の研修会の企画を通して、連携を深めることが出来、抱え込まない仕組みにもつながったと実感しています。

③地域の関係機関との連携強化については、利用者の住む地域の基幹支援センターやいきいき支援センター等の関係機関に、意識的にこまめに連絡を取ることで、連携を強化し、担当者会議の開催・同行訪問・ケースの相談などを適切な専門機関と行き、支援を進めてきました。

その他に、より良い支援が可能な相談件数を常に意識し、利用者の利益を最優先としながらも事業運営が安心して継続できる事を目指し、毎月の経営会議にて総利用者数や計画作成、モニタリング件数を報告し、利用者の利益と事業の効率を視野に入れた事業運営を行いました。

平成28年度

1. 計画相談支援件数（名身連第一ワークス・第一デイサービス相談事業所）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
計画作成	9	12	12	10	4	16	11	9	12	12	13	19	139
モニタリング	15	13	14	12	13	29	8	10	8	14	7	18	161

(内訳)

	身体障害	知的障害	精神障害	合計
計画作成	107	5	27	139
モニタリング	116	12	33	161

2. 基本相談支援件数(延べ件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
166	167	140	84	114	83	122	119	106	173	160	124	1,558

(内訳:実利用人数)

※()内の数字は重複人数

	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	合計
就労	5	4	12		21
日中活動	117	17	140	4	278
在宅生活	365	11	221	7	604
その他	271	10	374		655
合計	758	42	747	11	1558

1. 計画相談支援件数（名身連第二ワークス・第二デイサービス相談事業所）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
計画作成	13	14	11	11	17	10	13	15	12	10	8	18	152
モニタリング	22	25	21	17	16	28	13	14	21	13	13	18	221

(内訳)

	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	合計
計画作成	92	10	30	2	134
モニタリング	133	11	57	2	203

2. 基本相談支援件数(延べ件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
185	137	160	141	166	153	184	151	177	172	220	175	2,021

(内訳)

	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	合計
就労	64	8	112		184
日中活動	124	8	66		198
在宅生活	815	41	607		1463
その他	91		84	1	176
合計	1094	57	869	1	2021

受講した研修

日付	研修テーマ	主催	参加者
6月21日	医療・介護保険の今後の動向 名古屋市リハビリテーションセンター 総合相談室 課長 萩原 康仁	名身連第二ワークス・第二デイサービス	羽生 田尻
6月27日	相談支援従事者現任研修	愛知県	羽生 田尻
6月30日	相談支援従事者現任研修	愛知県	羽生
7月1日	相談支援従事者現任研修	愛知県	田尻
7月21日	相談支援従事者現任研修	愛知県	羽生
7月22日	相談支援従事者現任研修	愛知県	田尻
7月28日	平成28年度第1回 四区合同相談支援事業所学習会 「成年後見制度について」	西ブロック会	羽生 田尻
8月30日	支援者のかかわり方と精神障害者の特性 社会福祉法人 親愛の里 統括エリアマネージャー 青木 邦子 氏	熱田区障害者自立支援連絡協議会	田尻
11月14日	発達障害について 「発達障害の基礎」「医療機関との連携及び 利用の仕方」 愛知県コロニー病院 吉川 徹 医師	名古屋市発達障害者支援センターリンク す名古屋 名古屋市健康福祉局障害福祉部障害者 支援課	田尻
11月25日	事例検討会 アセスメントを深めるファシリテーターについて 昭和保健所 日高 橘子氏	相談課内研修	羽生 田尻

11月28日	事例を通して考える 守山区障害者基幹相談支援センター 副センター長 王子田 剛 氏	熱田区障害者自立支援連絡協議会	田尻
12月16日	相談援助技術研修 精神障がいのある方への相談支援 ～自らの面接を振り返り、アセスメント力をつける～	名古屋市社会福祉協議会	羽生
1月20日	人材育成研修 チームリーダーを育てるキャリアデザインについて考える	名古屋市社会福祉協議会	羽生
2月2日	研修会「支援に必要な視点」 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授 岩間 伸之 氏	熱田区・中村区障害者基幹相談支援センター	羽生 田尻
2月23日	平成28年度第2回 四区合同相談支援事業所学習会 「ファシリテーター研修」	西ブロック会	田尻

講師として参加した研修

日付	研修テーマ	主催	参加者
2月21日	愛知淑徳大学集中講義 「障害児の福祉サービスと障害者虐待、障害者差別解消法について」	愛知淑徳大学	羽生

名身連聴覚言語障害者情報文化センター

平成28年度名身連聴覚言語障害者情報文化センター事業報告

聴言センターの事業は、主に「コミュニケーション支援」「情報提供事業」「社会教育事業」「相談事業」に分かれます。平成28年度においての特徴や主な取り組みの内容は下記のとおりです。

<コミュニケーション支援>

○派遣事業

手話通訳者派遣は、平成27年度の3,578件から151件増加し、平成28年度は3,729件（広域派遣除く）でした。平成27年度の増加数（395件増加）と比べると増加率は半分以下であるものの、過去最多の派遣件数となりました。平成28年度の特徴としては、医療・健康にかかる派遣が129件伸びており、派遣件数が増加した一番の要因となっています。利用者の高齢化によりこれまでの「病院での受診」から「ご自宅での往診・訪問看護」の件数が以前よりも増えており、今後も利用者1人あたりに派遣する医療通訳の件数が増えていくことが予想されます。そして広域派遣（名古屋市外および愛知県外への公費による派遣）についても平成27年度の100件から27件増加し、平成28年度は127件でした。平成27年度と比べて、平成28年度では「労働」と「行事（スポーツ）」と「生活」の件数が倍近く伸びています。「労働」と「行事（スポーツ）」については特定利用者からの申込みが多かったという理由がありますが、「生活」の部分では結婚式やご家族の介護に関する内容など幅広いニーズがあることが分かりました。広域派遣について周知されつつあるため、今後も申込みが増えていくことが予想されます。また、平成28年6月から始まった救急搬送時における手話通訳者派遣事業については2件の利用でした。とはいえ、この事業を知らずに一般の派遣として「今から病院に行くのですぐに通訳者を派遣して欲しい」という派遣申込みもあり、今回の2件が実際のニーズの数とイコールとは言えない状況です。今後も当事者団体などの協力もいただきながら事業普及を目指します。

要約筆記者派遣について件数は平成27年度に比べ手書き要約筆記、パソコン要約筆記ともに増加し、手書き要約筆記は平成27年度280件→平成28年度321件、パソコン要約筆記は76件→98件の増加となりました。全体で見ると平成27年度の368件から51件増加し419件でした。平成26年度から27年度の伸び率と比較すると10倍以上の増加となっています。項目別では「行事（その他）」の伸び率が目立って大きく平成27年度28件→平成28年度63件と2倍以上増加しました。名古屋市主催のイベントの依頼の増加が要因と思われます。広域派遣（名古屋市外および愛知県外への公費による派遣）については、大きな変化は見られませんでした（平成27年度3件→平成28年度4件）。引き続き周知を行っていきます。

盲ろう者向け通訳・介助員派遣については、平成28年度も利用件数が90件増加し（平成27年度1,379件→平成28年度1,469件）、利用時間も444時間増えました（平成27年度5,270時間→平成28年度5,714時間）。項目別で見ると最も多いのが「教養」で次に「生活（その他）」となっています。施設入所者や介護保険サービス利用の盲ろう者にとって円滑なコミュニケーションには通訳・介助員を必要とする場面が多いことも影響しています。平成29年度も引続き派遣件数の増加が想定されます。活動している通訳・介助員が限られているため、触手話など特に負担の大きい活動においては通訳・介助員の健康問題にも留意し、コーディネートをしていくことが必要となります。また、活動していない通訳・介助員への働きかけも今後の課題です。

○研修事業

手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を対象に、昨年度より引続き通訳者の職業病といわれている頸肩腕障害について第二弾を開催しました。継続したことにより、昨年度と比べより理解が深まりました。頸肩腕障害について学んだ後に、名古屋市職員を講師に迎え「人権」について学びました。

それ以外にも手話通訳者、要約筆記者合同の研修として、聴覚障害者との信頼関係を築くための講義を行いました。聴覚障害者の多様性と相手や場面に合わせることの大切さについて学ぶことで、支援者として初心に帰る良い機会になりました。

手話通訳者研修については、手話通訳者の中でも苦手傾向が強い「読み取り通訳」の実技学習を行い、日本語理解の重要性や日頃からできるトレーニング方法などを教わりました。

要約筆記者研修について、技術やチームワーク力の向上などを目的とした技術研修を4回行いました。社会福祉の基礎知識、障害者福祉制度についての研修も行いました。参加者からは「地域の施策や現状を知ることはとても大切だと改めて思った」「現場の方から福祉の現状について話を聞きとても役に立った」等の感想が寄せられました。

盲ろう者向け通訳・介助員研修については、新人(登録2年未満)を対象にした研修に重点を置き、事例検討を通して通訳介助員の役割や倫理について学びました。新規登録者研修については、派遣事業の位置づけや流れを理解できるよう学びました。

○養成事業

手話奉仕員養成については、平成27年度同様「手話奉仕員1(1年目)」「手話奉仕員2(2年目)」どちらも定員を超える応募がありました。特に奉仕員1の昼の部は申込み人数が定員を大幅に超えたため、やむを得ず抽選しました。奉仕員2については昼と夜合わせて63名が修了され、うち29名に手話奉仕員として登録していただきました。

手話通訳者養成についても平成27年度に引き続き「手話通訳者養成講習会Ⅰ(1年目)」「手話通訳者養成講習会Ⅱ(2年目)」の2コースを開講しました。Ⅰについては27名の申込みがありましたが、書類選考の結果18名が受講され、最終的には14名が修了されました。Ⅱについては平成27年度通訳養成Ⅰの受講者(16名)がそのまま持ち上がり、最終的に12名が修了されました。また、平成27年度のⅡを修了した方を対象に、補講として「短期集中コース1」「短期集中コース2」を行いました。

要約筆記者養成については、手書き要約筆記8名、パソコン要約筆記8名でスタートし、仕事や家庭の都合で途中断念した方もいましたが、修了条件が出席率80%と厳しい条件のなか手書き要約筆記4名、パソコン要約筆記6名が修了しました。要約筆記の周知も広がり、受講希望者も年々増加しています(平成27年度14名→平成28年度22名)。名古屋市の要約筆記者として活動するには認定試験をクリアする必要がありますが、平成28年度の試験状況については、平成27年度の手書き要約筆記修了者3名、パソコン要約筆記修了者5名が受験し、合格者は手書き要約筆記2名、パソコン要約筆記5名と高い合格率でした。今後も引き続き要約筆記の周知に力を入れ、要約筆記者を増やしていきます。

○その他

コミュニケーション機器の貸出については、要約筆記の派遣数と連動し要約機器の需要が伸びています。OHPからOHCへの切り替えにより、平成27年度に引き続きOHPの貸出件数は0件、

逆に OHC の貸出件数は大きく増加し（平成 27 年度 64 件→平成 28 年度 85 件）OHC が定着してきたことを表しています。パソコン要約機器の貸出については、派遣件数は増加したにもかかわらず貸出件数が減少（平成 27 年度 69 件→平成 28 年度 60 件）していますが、主催所有の機材を利用するケースが増加したことと、機材の貸出が不要な個人利用の増加が要因と思われます。

中継サービスは、平成 28 年度は 551 件の利用でした。昨年度より聴覚障害者が自ら直接やり取りができるよう、日本財団のリレーサービス利用について情報提供を進めていますが、まだ周知が不足している状況です。来館での依頼には、内容的に中継サービスの範囲を超えるようなものもあり、コミュニケーションや理解の面でのサポートの他、相談につなげるといった支援も行っています。また、企業やお店にはメールや FAX で直接やり取りしていただけるよう依頼していますが、少しずつ理解が広まっていると感じています。しかしながら、契約関係や個人情報の取り扱い等による制約を受けることも少なくないため、引き続き働きかけを行います。

<情報提供事業>

平成 28 年度も聴覚障害者の生活に役立つ特集を中心としました。第 1 号では「救急搬送時の手話通訳者派遣制度開始」について特集しました。救急車を呼ぶ時に手話通訳者を同時に依頼できる制度で、24 時間いつでも緊急時に情報保障を受けられるため周知に力を入れました。第 2 号では「福祉特別乗車券の IC カード化」について掲載しました。使い慣れた方法が変わるときには混乱が起こるため、スムーズな切り替えとなるよう平易な説明文を心掛けました。第 3 号では平成 28 年 10 月に愛知県で制定された「手話言語の普及及び障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」について取り上げました。条例の理解促進のためのシンポジウムについても周知しました。第 4 号では以前から危惧している聴覚障害者の運転免許取得方法とその後の問題について「気をつけて！正しい運転免許の取得について」と題し、平針運転免許試験場の担当者の方にも話を伺い記事にしました。

ビデオ制作については、昨年度に引き続き取り組むことができませんでした。この状態が続いていることは当センターとしても課題となっているため、今後はビデオ制作のあり方も含めて検討していく必要があると思います。

ビデオ貸出し事業については減少しました（平成 27 年 232 本→平成 28 年度 165 本）。市内の聾学校への出前貸出は、平成 28 年度は 1 度しか実施できませんでした（2 箇所）。手話や要約筆記を学ぶ聴覚障害者を支援する方々にも役立つ DVD や、無償上映可能な字幕付きの映画も取り揃えているため、イベントなどで利用いただけるよう積極的に PR を行っていきます。

<相談事業>

聴覚障害者相談は昨年度より増加しました（平成 27 年度 20 件→平成 28 年度 61 件）。内容としては生活支援、金銭や契約のトラブル、職場における聴覚障害の理解、聴力低下によるコミュニケーション手段の確保、親族とのコミュニケーション問題等、幅広く及んでいるのが特徴です。また、当事者の情報不足や理解（読解力含む）困難な面での支援や、手話通訳者派遣事業や中継サービスの中で支援要素も含むケースは日常的にあり、相談員以外の職員による対応も少なくありません。生活全般にわたる継続的な支援が必要なケースは、地域の障害者基幹相談支援センター、地域包括支援センター、いきいき支援センター、区役所等にもつなげ、地域で包括的に支援できる体制を作ることも意識して取り組みました。

聴覚障害者相談員研修会では、名古屋市障害者差別相談センターの神村センター長をお招きし、

「障害者差別解消法と名古屋市差別相談センターについて」をテーマとした研修を行いました。昨年から障害者差別解消法施行を受け、差別解消の推進に取り組むのは行政や事業者だけでなく、名古屋市身体障害者相談員も同様で、障害当事者の視点のみならず、他方の視点（過重な負担、正当な理由等）も理解することで、建設的対話による相互理解等につなげることも趣旨としました。講義では、まず障害者差別解消法のポイントを再確認し、平成 28 年 8 月に開設した名古屋市障害者差別相談センターに寄せられた障害者差別に関する相談の現状をご説明いただきました。グループワークでは、事例をもとに差別問題をどう捉え解消につなげるかといった視点で議論をしました。差別解消のポイントである合理的配慮の理解を深め、建設的対話による手法を学ぶことができました。

<社会教育事業>

○社会講座

平成 28 年度も当事者個人や当事者団体の要望を多く取り入れました。1 日講座で特に参加が多かったのは福祉バスを利用した日帰りツアーで、岐阜県白鳥へ行き食品サンプル作りを行いました。街中でよく目にする食品サンプルの技術を学び自分でも作るという貴重な経験に参加者から喜びの声をいただきました。また、季節に合わせた「お抹茶を楽しむ」、「サンドペインティング」、「クリスマスリース作り」などの講座も学びと楽しみ、交流を提供できる講座となりました。長期講座の「手話教室（初級）」「読話教室」、年間講座の「手話倶楽部」は学習以外にも、同障者との仲間作りや交流の場としても大きな役割を果たしています。

○IT 技術向上支援事業

引き続き、マンツーマンによる指導で初心者向けの「入門」を開催しました。平成 28 年度は新規または初級レベルの方を受講対象としました。パソコン教室のニーズは年々減少傾向にあり「パソコンよりスマホ」の風潮があります。平成 28 年度は初めてスマホ教室を開催しました。想像以上に反響が大きく、参加者からは継続して開催してほしいと要望があがりました。外部講師との調整の関係もありますが、今後は定期的を開催していきたいと考えています。



社会講座『クリスマスリースを作ろう!』

手話通訳者派遣状況報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

項目 月別	1	2	3	4	5	6	7	8	行事		11	12	13	14	15	16	月合計	累計	主催	救急
	医療・ 健康	教育・ 保育	労働・	行政・ 政治	司法・ 警察	住宅	財産・ 税務	生活	スポーツ	その他	会議	教養	社会 講座	ろうあ 相談	テレビ	その他				
4	152 (152)	34 (27)	72 (30)	2 (1)	4 (4)	2 (2)	7 (6)	27 (25)	6 (4)	7 (4)	38 (19)	27 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	378 (288)	378 (288)	86 (40)	
5	173 (173)	30 (25)	31 (16)	10 (5)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	24 (23)	20 (5)	8 (4)	47 (26)	52 (29)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	409 (319)	787 (607)	46 (24)	
6	170 (170)	43 (31)	21 (13)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	27 (26)	5 (3)	23 (10)	44 (23)	40 (21)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	391 (314)	1178 (921)	23 (13)	0
7	177 (177)	28 (26)	33 (15)	4 (2)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	18 (17)	3 (2)	10 (6)	39 (22)	52 (23)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	373 (298)	1551 (1219)	36 (21)	1
8	163 (163)	7 (7)	12 (6)	0 (0)	6 (6)	3 (3)	3 (3)	28 (27)	4 (2)	20 (11)	26 (16)	28 (14)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	301 (259)	1852 (1478)	18 (11)	0
9	160 (160)	15 (15)	27 (16)	0 (0)	2 (2)	6 (6)	1 (1)	39 (38)	5 (5)	19 (11)	43 (23)	62 (30)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	379 (307)	2231 (1785)	25 (12)	0
10	177 (177)	25 (23)	23 (10)	2 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	43 (42)	11 (7)	49 (25)	36 (21)	89 (46)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	461 (357)	2692 (2142)	72 (37)	0
11	169 (169)	23 (20)	16 (9)	2 (1)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	30 (30)	6 (5)	14 (7)	26 (16)	80 (39)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	377 (306)	3069 (2448)	42 (26)	0
12	179 (178)	20 (19)	41 (20)	3 (2)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	27 (26)	0 (0)	18 (9)	24 (14)	51 (25)	6 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	375 (302)	3444 (2750)	55 (26)	0
1	200 (200)	19 (16)	24 (11)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	29 (28)	1 (1)	24 (14)	20 (11)	59 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	385 (319)	3829 (3069)	34 (16)	1
2	179 (179)	27 (21)	28 (13)	0 (0)	5 (5)	5 (5)	3 (3)	23 (22)	1 (1)	22 (11)	41 (22)	78 (39)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (2)	416 (323)	4245 (3392)	60 (27)	0
3	197 (197)	30 (26)	38 (19)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	25 (24)	5 (5)	9 (5)	38 (22)	67 (35)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	414 (338)	4659 (3730)	44 (21)	0
合計	2096 (2095)	301 (256)	366 (178)	23 (12)	44 (44)	26 (26)	32 (31)	340 (328)	67 (40)	223 (117)	422 (235)	685 (344)	21 (13)	0 (0)	0 (0)	13 (11)	4659 (3730)		541 (274)	2

()内の数字は実派遣数

要約筆記者派遣状況報告書(手書き)

平成28年4月1日～平成29年3月31日

項目 月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	月合計	累計	広域	主催
	医療・ 健康	教育・ 保育	労働・	行政・ 政治	司法・ 警察	住宅	財産・ 税務	生活	行 事 スポーツ その他		会議	教養	社会 講座	ろうあ 相談	テレビ	その他				
4	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (8)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	30 (16)	30 (16)	2 (1)	0 (0)
5	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	5 (1)	3 (1)	18 (6)	15 (6)	19 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	67 (26)	97 (42)	2 (2)	0 (0)
6	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	9 (3)	23 (6)	13 (4)	21 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	70 (21)	167 (63)	0 (0)	0 (0)
7	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (2)	18 (7)	20 (6)	23 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	71 (26)	238 (89)	0 (0)	0 (0)
8	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	7 (2)	7 (3)	19 (6)	15 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	53 (19)	291 (108)	0 (0)	0 (0)
9	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (3)	20 (7)	25 (9)	10 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	65 (25)	356 (133)	0 (0)	4 (2)
10	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (2)	21 (7)	14 (4)	52 (15)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	98 (33)	454 (166)	0 (0)	2 (1)
11	2 (2)	0 (0)	2 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	8 (2)	12 (4)	47 (16)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	81 (29)	535 (195)	2 (1)	4 (2)
12	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (5)	11 (4)	26 (8)	9 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	68 (24)	597 (215)	0 (0)	2 (1)
1	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	13 (5)	19 (6)	42 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	78 (32)	603 (219)	0 (0)	0 (0)
2	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (5)	28 (10)	46 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	92 (34)	773 (285)	0 (0)	4 (1)
3	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	25 (8)	14 (7)	37 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	83 (36)	856 (321)	0 (0)	6 (2)
合計	38 (38)	4 (4)	3 (2)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	19 (6)	132 (43)	204 (72)	348 (120)	102 (31)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	856 (321)	856 (321)	6 (4)	22 (9)

()内の数字は実派遣数

要約筆記者派遣状況報告書(パソコン要約)

平成28年4月1日～平成29年3月31日

項目 月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	月合計	累計	広域	主催
	医療・ 健康	教育・ 保育	労働・	行政・ 政治	司法・ 警察	住宅	財産・ 税務	生活	行 事 スポーツ その他		会議	教養	社会 講座	ろうあ 相談	テレビ	その他				
4	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	4 (1)	5 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (4)	12 (4)	0 (0)	3 (1)
5	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	19 (5)	15 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (10)	50 (14)	0 (0)	7 (2)
6	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (2)	18 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (8)	78 (22)	0 (0)	8 (3)
7	0 (0)	6 (3)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	11 (5)	10 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	34 (15)	112 (37)	0 (0)	21 (10)
8	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	112 (37)	0 (0)	0 (0)
9	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	4 (2)	12 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (6)	131 (43)	0 (0)	3 (1)
10	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (2)	0 (0)	18 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26 (6)	157 (49)	0 (0)	10 (2)
11	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (3)	0 (0)	16 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	27 (7)	184 (56)	0 (0)	4 (1)
12	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (5)	4 (1)	18 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	41 (11)	225 (67)	0 (0)	11 (3)
1	0 (0)	0 (0)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (3)	0 (0)	16 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (8)	254 (75)	0 (0)	8 (2)
2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	7 (2)	21 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	31 (9)	285 (84)	0 (0)	0 (0)
3	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	35 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (14)	323 (98)	0 (0)	3 (1)
合計	0 (0)	6 (3)	6 (2)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	67 (19)	57 (18)	184 (55)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	323 (98)	323 (98)	0 (0)	78 (26)

()内の数字は実派遣数

盲ろう者向け通訳・介助員派遣状況報告書

平成28年4月～平成29年3月

項目 月別																	時間数	
	医療機関	教育・保育	官公庁	金融機関	司法・警察	住宅	財産・税務	生活		行 事		団体活動	教養	代読・代筆	手引き	その他		累計
								買物	その他	スポーツ	その他							
4	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	22 (18)	27 (27)	2 (2)	8 (8)	1 (1)	120 (116)	433
5	15 (15)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	24 (24)	2 (2)	2 (2)	19 (14)	41 (40)	3 (3)	8 (8)	2 (2)	146 (139)	503
6	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	31 (31)	0 (0)	1 (1)	13 (10)	39 (37)	1 (1)	6 (6)	1 (1)	128 (123)	462
7	11 (11)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	35 (35)	0 (0)	5 (4)	14 (11)	38 (37)	3 (3)	7 (7)	1 (1)	139 (134)	489
8	14 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	37 (37)	1 (1)	1 (1)	22 (16)	28 (27)	7 (7)	15 (15)	0 (0)	144 (137)	527
9	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	33 (33)	0 (0)	5 (5)	19 (14)	39 (37)	7 (7)	11 (11)	3 (3)	139 (132)	506
10	7 (7)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	26 (26)	0 (0)	3 (3)	13 (9)	35 (35)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	111 (107)	425
11	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	23 (23)	1 (1)	9 (9)	18 (14)	36 (36)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	124 (120)	519
12	8 (8)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	27 (27)	0 (0)	4 (3)	23 (17)	31 (31)	6 (6)	16 (16)	0 (0)	140 (133)	516
1	7 (7)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	24 (24)	0 (0)	3 (3)	22 (16)	25 (24)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	106 (99)	388
2	7 (7)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	22 (22)	0 (0)	9 (7)	21 (17)	25 (25)	7 (7)	9 (9)	0 (0)	120 (114)	437
3	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	28 (28)	0 (0)	4 (4)	22 (15)	33 (32)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	123 (115)	509
合計	119 (119)	8 (7)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	240 (240)	330 (330)	4 (4)	48 (44)	228 (171)	397 (388)	45 (45)	105 (105)	8 (8)	1,540 (1,469)	5,714

()内の数字は実派遣数

手話奉仕員養成講習会

■奉仕員 1 コース

- (1) 期間 平成 28 年 5 月 9 日 ~ 平成 29 年 2 月 13 日
毎週木曜日 全 35 回 計 70 時間
- (2) 時間 午後の部 13 : 30 ~ 15 : 30
夜間の部 18 : 30 ~ 20 : 30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 午後の部 佐藤 愛子 荒川 智子
夜間の部 加藤 直樹 山田 映子
- (5) 受講者数・修了者数

クラス	受講者数	修了者数
午後の部	55	43
夜間の部	50	31
計	105	74

■奉仕員 2 コース

- (1) 期間 平成 28 年 5 月 12 日 ~ 平成 29 年 2 月 16 日
毎週金曜日 全 35 回 計 70 時間
- (2) 時間 午後の部 13 : 30 ~ 15 : 30
夜間の部 18 : 30 ~ 20 : 30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 午後の部 吉田 陽子 山口 光子
夜間の部 松浦 佳代 北村 奈緒子
- (5) 受講者数・修了者数・手話奉仕員登録者数

クラス	受講者数	修了者数	登録者数
午後の部	53	37	15
夜間の部	43	26	14
計	96	63	29

手話通訳者養成講習会

■手話通訳者Ⅰコース

(1) 期間 平成28年4月15日～平成29年3月17日
毎週金曜日 全45回 計90時間

(2) 時間 金曜日 13:30～15:30

(3) 会場 名身連福祉センター

(4) 講師 河口 一恵
青山 純子

(5) 受講者数・修了者数

クラス	受講者数	修了者数
昼の部	18	14

■手話通訳者Ⅱコース

(1) 期間 平成28年4月11日～平成29年3月13日
毎週月曜日 41回 土曜日 4回 全45回 計90時間

(2) 時間 月曜 18:30～20:30
土曜 13:30～15:30

(3) 会場 名身連福祉センター

(4) 講師 平野 千博
徳山 公子

(5) 受講者数・修了者数

クラス	受講者数	修了者数
午後の部	16	12

■短期集中講座 1

(1) 期間 平成 28 年 5 月 19 日 ~ 平成 28 年 6 月 9 日
毎週木曜日 全 4 回 計 8 時間

(2) 時間 木曜日 13 : 30 ~ 15 : 30

(3) 会場 名身連福祉センター

(4) 講師 青山 純子
徳山 公子 (アシスタント)

(5) 受講者数

日にち	5/19	5/26	6/2	6/9
受講者数	8	8	9	8

■短期集中講座 2

(1) 期間 平成 28 年 7 月 18 日 (月祝)・19 日 (火)・21 日 (木)
全 3 回 計 6 時間

(2) 時間 各日 13 : 30 ~ 15 : 30

(3) 会場 名身連福祉センター

(4) 講師 青山 純子
徳山 公子 (アシスタント)

(5) 受講者数

日にち	7/18	7/19	7/21
受講者数	6	6	6

名身連手話講習会

■ろうネイティブコース〔月曜コース〕

- (1) 期間 平成 28 年 5 月 16 日 ~ 平成 29 年 2 月 27 日
毎週月曜日 全 35 回 計 70 時間
- (2) 時間 13 : 30 ~ 15 : 30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 藤井 裕

■ろうネイティブコース〔木曜コース〕

- (1) 期間 平成 28 年 5 月 19 日 ~ 平成 29 年 2 月 23 日
毎週木曜日 全 35 回 計 70 時間
- (2) 時間 18:30 ~ 20:30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 加藤 直樹

受講者数・修了者数

クラス	受講者数	修了者数
月曜コース	24	21
木曜コース	20	14
計	44	35

■ろうネイティブコースお試しコース〔月曜・昼の部〕

- (1) 期間 平成 28 年 3 月 6 日、13 日、27 日
全 3 回 計 6 時間
- (2) 時間 13 : 30 ~ 15 : 30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 藤井 裕

■ろうネイティブコースお試しコース〔木曜・昼の部〕

- (1) 期間 平成 28 年 3 月 9 日、16 日、23 日
全 3 回 計 6 時間
- (2) 時間 13:30 ~ 15:30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 加藤 直樹

■ろうネイティブコースお試しコース〔木曜・夜の部〕

- (1) 期間 平成 28 年 3 月 9 日、16 日、23 日
全 3 回 計 6 時間
- (2) 時間 18:30 ~ 20:30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 加藤 直樹

受講者数

	月曜・昼	木曜・昼	木曜・夜	計
受講者数	7	27	19	53

要約筆記者養成講習会

■手書きコース

- (1) 期間 平成 28 年 4 月 15 日(金) ~平成 29 年 2 月 10 日(金)
毎週金曜日 (39 回)、土曜日 (2 回)、日曜日 (2 回) 全 43 回 計 87 時間
- (2) 時間 金曜日 18 : 30~20 : 30
土曜日 13 : 00~16 : 00 18 : 30~20 : 30
日曜日 10 : 00~12 : 00 13 : 30~15 : 30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 荒川 清美 荒川 万記子 山岡 千恵子 松井 美智子
大嶋 千波 若山 孝枝 池内 久美子
名身連職員 (久野 寿枝 山尾 崇寿)
- (5) 特別講義 「日本語の語彙」 関西外国語大学
「日本語の表記」 准教授 光信 仁美
「日本語の語彙と用法」

「社会福祉の基礎知識Ⅰ」 東洋英和女学院大学
教授 石渡 和実

「聴覚障害者運動と手話」 金城学院大学現代文化学部
教授 林 智樹

「社会福祉の基礎知識Ⅱ
~当該自治体の障害者福祉制度」 名古屋市健康福祉局障害福祉部
障害企画課 厚生係長 原 優介

「対人援助」 萬歳 芙美子

「社会福祉の基礎知識Ⅰ」 名城法律事務所豊田事務所
弁護士 田中 申明

「中途失聴・難聴者の臨床心理」 (特非) 東京都中途失聴・難聴者会
「カウンセリングの基礎理論」 事務局長 宇田川 芳江
- (6) 受講者数 8 名
- (7) 修了者数 4 名

要約筆記者養成講習会

■パソコンコース

- (1) 期間 平成 28 年 4 月 15 日(金) ~平成 29 年 2 月 10 日(金)
毎週金曜日 (39 回)、土曜日 (2 回)、日曜日 (2 回) 全 43 回 計 87 時間
- (2) 時間 金曜日 18 : 30~20 : 30
土曜日 13 : 00~16 : 00 18 : 30~20 : 30
日曜日 10 : 00~12 : 00 13 : 30~15 : 30
- (3) 会場 名身連福祉センター
- (4) 講師 荒川 清美 荒川 万記子 山岡 千恵子 松井 美智子
大嶋 千波 若山 孝枝 池内 久美子
名身連職員 (久野 寿枝 山尾 崇寿)
- (5) 特別講義 「日本語の語彙」 関西外国語大学
「日本語の表記」 准教授 光信 仁美
「日本語の語彙と用法」

「社会福祉の基礎知識Ⅰ」 東洋英和女学院大学
教授 石渡 和実

「聴覚障害者運動と手話」 金城学院大学現代文化学部
教授 林 智樹

「社会福祉の基礎知識Ⅱ
~当該自治体の障害者福祉制度」 名古屋市健康福祉局障害福祉部
障害企画課 厚生係長 原 優介

「対人援助」 萬歳 芙美子

「社会福祉の基礎知識Ⅰ」 名城法律事務所豊田事務所
弁護士 田中 申明

「中途失聴・難聴者の臨床心理」 (特非) 東京都中途失聴・難聴者会
「カウンセリングの基礎理論」 事務局長 宇田川 芳江
- (6) 受講者数 8 名
- (7) 修了者数 6 名

名古屋市要約筆記者認定試験対策講座

月日	時間	講師	参加者数	
			手書き	PC
12月26日（月）	18：30～20：30	山岡千恵子 金剛弘美		3
1月16日（月）	18：30～20：30	山岡千恵子 松井美智子	4	6
1月30日（月）	18：30～20：30		5	4
2月 6日（月）	18：30～20：30		7	5
2月13日（月）	18：30～20：30		4	4

手話通訳者研修会

月日	内容・テーマ	講師	参加者数
8月27日(土)	講演 医療通訳について考える	市立四日市病院 手話通訳士 近藤 栄子	25
10月1日(土)	実技 読み取り通訳実践① ※午前の部	国立障害者リハビリテーション センター学院手話通訳学科教官 宮澤 典子	21
10月1日(土)	実技 読み取り通訳実践② ※午後の部	国立障害者リハビリテーション センター学院手話通訳学科教官 宮澤 典子	15
11月20日(日)	「利用者（聴覚障害者）との信頼関係 を築くために」 (要約と合同)	聴力障害者情報文化センター 施設長 森 せい子	22
3月18日(土)	講演 頸肩腕障害を学ぼう (3派遣合同研修)	滋賀医科大学社会医学講座 衛生学部門准教授 埜田 和史	22
3月18日(土)	講演 名古屋市の人権施策と 障害者差別解消法 (3派遣合同研修)	名古屋市健康福祉局障害福祉部 障害企画課職員	22

要約筆記者研修会

月日	内容・テーマ	講師	参加者数
9月2日(金)	社会福祉の基礎知識 (要約養成と合同)	名古屋市健康福祉局障害福祉部 障害企画課職員	21
10月15日(土)	技術研修 全体投影 (PC)	山岡 千恵子 金剛 弘美	9
10月25日(火)	技術研修 全体投影 (手書き)	山岡 千恵子 大島 千波	17
11月20日(日)	「利用者(聴覚障害者)との信 頼関係を築くために」 (手話と合同)	聴力障害者情報文化センター 施設長 森 せい子	13
1月10日(火)	技術研修 ノートテイク (手書き)	山岡 千恵子 松井 美智子	14
1月15日(土)	技術研修 ノートテイク (PC)	山岡 千恵子 金剛 弘美	7
2月4日(土)	「中途失聴・難聴者の臨床心理 カウンセリングの基礎理論」	東京都中途失聴・難聴者協会事 務局長 宇田川 芳江	8
3月18日(土)	講演 頸肩腕障害を学ぼう (3派遣合同研修)	滋賀医科大学社会医学講座 衛生学部門准教授 埜田 和史	11
3月18日(土)	講演 名古屋市の人権施策と 障害者差別解消法 (3派遣合同研修)	名古屋市健康福祉局障害福祉部 障害企画課職員	11

盲ろう者向け通訳・介助員研修会

月日	内容・テーマ	講師	参加者数
5月28日(日)	新人研修	アドバイザー 愛知盲ろう友の会 近藤 ゆかり	4
3月4日(金)	新規登録者研修会	名身連聴言センター職員	7
3月18日(土)	講演 頸肩腕障害を学ぼう (3派遣合同研修)	滋賀医科大学社会医学講座 衛生学部門准教授 埜田 和史	2
3月18日(土)	講演 名古屋市の人権施策と 障害者差別解消法 (3派遣合同研修)	名古屋市健康福祉局障害福祉部 障害企画課職員	2

手話奉仕員派遣

(1) 登録者 39名 (更新11名 + 新規28名)

(2) 派遣内容と人数

月日	内容	派遣人数
4月2日(土)3日(日)	フリーマーケット (個人依頼)	各1
5月8日(日)	第13回名古屋市障害者スポーツ大会	5
8月20日(水)	全国ダウン症デフファミリー大交流会	3
11月5日(土)	名古屋聾学校文化祭	2
11月13日(日)	フリーマーケット (個人依頼)	1
12月2日(金)	社会講座「工場見学&サンプル作りとツアー 物産センターお買物ツアー」	2
12月8日(木)	社会講座「クリスマスリースづくり」	2
2月5日(日)	第24回聴覚障害者文化活動フェスティバル	2
2月25日(土)	障害者コミュニケーション推進シンポジウム	3
3月7日(火)	IT事業「スマホ教室」	2

専任手話通訳

種別 月別	医療・健康	教育・保育	労働	行政・政治	司法・警察	住宅	財産税務	生活	行事	その他	計
4月	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2月	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3
3月	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5
合計	4	1	2	2	1	0	0	0	4	2	16

平成27年度	2	0	2	2	0	0	0	0	1	0	7
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(件数)

中継サービス

月別	件数
4月	46
5月	33
6月	37
7月	50
8月	58
9月	61
10月	48
11月	42
12月	39
1月	42
2月	43
3月	51
合計	550

平成 27 年度	595
----------	-----

ビデオテープ貸出

ビデオの分類 月別	教養／趣味	記録／報道	教育／教材	映画／ドラマ	健康	子供向けアニメ	スポーツ	芸能／娯楽	自主制作	報道	その他	計
	4月	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	4	10
6月	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5
7月	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	6	10
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
9月	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	33	39
10月	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0	24	32
11月	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	15	18
12月	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	12	15
1月	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	9	14
2月	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	4	11
3月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
合計	8	24	6	12	0	0	0	0	0	0	115	165

平成27年度	12	77	61	56	4	9	0	0	0	0	13	232
--------	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---	----	-----

(本数)

コミュニケーション機器貸出
ビデオ・DVD 館内利用本数

種別 月別	集団補聴器 貸出件数	O H P		O H C		パソコン		ビデオ・DVD 館内利用本数
		貸出 件数	貸出 台数	貸出 件数	貸出 台数	貸出 件数	貸出 台数	
4月	0	0	0	1	1	2	2	3
5月	1	0	0	4	4	5	5	1
6月	0	0	0	3	3	7	7	3
7月	2	0	0	5	5	7	7	7
8月	0	0	0	6	6	0	0	1
9月	2	0	0	6	6	4	4	0
10月	2	0	0	14	14	5	5	1
11月	3	0	0	7	7	7	7	0
12月	2	0	0	8	8	10	10	3
1月	1	0	0	9	9	7	7	0
2月	4	0	0	11	11	6	6	2
3月	1	0	0	11	11	7	7	3
合計	18	0	0	85	85	67	67	24

平成 27 年度	21	0	0	64	64	69	69	45
-------------	----	---	---	----	----	----	----	----

聴覚障害者相談

種別 月別	生活	職業	その他	計
4月	0	0	0	0
5月	0	1	0	1
6月	0	2	3	5
7月	0	1	4	5
8月	1	0	1	2
9月	1	1	2	4
10月	2	0	3	5
11月	5	0	3	8
12月	2	1	7	10
1月	2	0	0	2
2月	2	0	5	7
3月	0	2	10	12
合計	15	8	38	61
平成27年度	6	1	13	20

(件数)

聴覚障害者相談員研修会

- (1) 実施日 平成 29 年 3 月 5 日(日)
- (2) 時 間 13 : 30~16 : 00
- (3) 場 所 名身連福祉センター
- (4) 内 容 障害者差別解消法と名古屋市障害者差別相談センターについて
- (5) 講 師 社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会
権利擁護推進部 名古屋市障害者差別相談センター
センター長 神村 昌克
- (6) 参加人数 8 名 (名古屋市身体障害者相談員)

社会教育講座

■ 1日講座〔前期〕

	開催日	講座名	講師	会場	受講者数
1 日 講 座	5月14日(土)	お抹茶を楽しむ	茶道裏千家 準教授 高木 宗代 氏	名身連福祉センター	14
	6月4日(土)	遊印アート ～気持を伝える 消しゴムはんこ～	日本遊印アート協会 公認講師 笹木 紅凜 氏	名身連福祉センター	7
	7月26日(火)	親子で参加できる 東山動植物園ツアー	—————	東山動植物園	12

■ 1日講座〔後期〕

1 日 講 座	10月30日(日)	UDトークと とっておきの話	森 直之 氏 青木 秀仁 氏	名身連福祉センター	29
	11月19日(土)	やってみよう! サンドペイント	日本サンドペインティング協会 愛知支部 代表講師 大岡 加奈 氏	名身連福祉センター	10
	12月2日(金)	食品サンプル工場見学&サ ンプル作りと物産センター お買い物ツアー	—————	道の駅 清流の里 しろとり	22
	12月8日(木)	クリスマスリースを 作ろう!	(有)シナトモ園芸 増田 有香 氏	ウィルあいち	14

■長期講座

	開催日	講座名	講師	会場	受講者数
長期講座	6/7～8/2 第1・第3火曜日 (全5回)	美文字になろう	美文字塾 谷口 栄豊 氏	名身連福祉センター	7
	5/14～9/10 毎週土曜日 (全15回)	中途失聴者・難聴者対象 手話教室～初級～ (前期)	名古屋市認定手話通訳者 吉松 壽子 氏		25
	5/15～9/11 日曜日開催 (全10回)	中途失聴者・難聴者対象 読話教室	NPO 名古屋難聴者・ 中途失聴者支援協会 荒川清美・佐藤知子 他アシスタント4名		5
	10/15～H29. 2/25 毎週土曜日 (全15回)	中途失聴者・難聴者対象 手話教室～初級～ (後期)	名古屋市認定手話通訳者 吉松 壽子 氏		24

■年間講座

年間講座	H28. 5/21～H29. 3/11 毎月第2・4土曜日 (全18回)	手話倶楽部	名古屋市認定手話通訳者 佐治 由紀 氏	名身連福祉センター	5
------	--	-------	------------------------	-----------	---

■特別講座

特別講座	12月11日(日)	第7回 難聴学習セミナー	あいち補聴器センター 代表取締役 CEO 天野 慎介 氏	名身連福祉センター	—
------	-----------	-----------------	------------------------------------	-----------	---

情 報 提 供

■情報誌発行

- (1) 発行回数 4回（年間）
- (2) 発行部数 2000部
- (3) 配布先 聴覚障害者、聴覚障害者団体、手話サークル、公共機関など
約170箇所
- (4) 主な内容

発刊号	主な内容
第1号	<p>〔特集〕 救急搬送時における通訳者派遣制度開始</p> <p>〔その他〕 熊本地震の被災地へ～福祉避難所で支援活動～／名身連のホームページがリニューアルされました！／「楽天カード手話通訳サービス」が始まっています／全国聴覚障害者情報提供施設協議会総会及び大会／平成28年度前期社会講座参加者募集中！！／前期社会講座のご報告</p>
第2号	<p>〔特集〕 福祉特別乗車券がICカードにかわる！</p> <p>〔その他〕 後期社会講座&スマホ・PC講座／平成28年度名古屋市認定手話通訳者伝達式／字幕付きプラネタリウムが開催されました／あいちパチンコセーフティマイタウン支援金贈呈式／前期社会講座のご報告／マイナンバー制度手話・字幕付き動画のお知らせ</p>
第3号	<p>〔特集〕 ご存知ですか？手話言語・コミュニケーション条例</p> <p>〔その他〕 特別講座「LGBTって何？」モンキー高野氏&高島由美子氏が名古屋にやってくる！／名古屋聾学校同窓会熊本聾学校へ震災のお見舞い／第24回聴覚障害者文化活動フェスティバル申込み受付中！</p>
第4号	<p>〔特集〕 気をつけて！正しい運転免許の取得について</p> <p>〔その他〕 第24回聴覚障害者文化活動フェスティバル／盲ろう者向け通訳・介助員の伝達式が行われました／障害者コミュニケーション推進シンポジウム～地域でつながり共に伝え合おう～／名身連福祉センターのWi-Fi環境について／平成29年度名身連手話講習会ろうネイティブコース／名身連マスコットキャラクターふくにゃんクリアファイル発売！</p>

※第3号の『特別講座「LGBTって何？」モンキー高野氏&高島由美子氏が名古屋にやってくる！』は事情により中止（29年度に延期）となりました。

文 化 活 動

- (1) 行事名 第24回聴覚障害者文化活動フェスティバル
- (2) 期 日 平成29年2月5日(日)
- (3) 場 所 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター)
- (4) 時 間 14:00~15:30(開場13:00)
- (5) 実施内容 サインアートプロジェクト. アジアン代表の大橋ひろえ氏・ワハハ本舗の大窪みえこ氏・斎藤ゆか氏の3名による芝居と手話パフォーマンス
- (6) 参加人数 350名
- (7) 協 力 名古屋市聴言障害者協会
NPO 名古屋難聴者・中途失聴者支援協会

字幕映画

〔まごのて（協力）〕

- (1) 活動日 第二火曜日・隔月第四火曜日
- (2) 時間 19:30~20:30
(定例 18:30~20:30 のうち約 1 時間を字幕活動として充てる)
- (3) 活動場所 名古屋市総合社会福祉会館
- (4) 内容
- 1、福祉映画祭 2016 『百円の恋』
会場 昭和文化小劇場
開催日 平成 29 年 1 月 28 日（土）～29 日（日）
※ 福祉映画祭で日本映画に字幕を付けた。監督の了解を得て、映画映像に直接日本語字幕を焼きこみ、DVD により上映した。
 - 2、字幕付きプラネタリウム上映会
『ファミリーアワー—遙かなる星の世界へ—』
会場 名古屋市科学館
開催日 平成 28 年 8 月 6 日（土）
※ 音声認識ソフトを導入し、事前字幕なしの完全音声認識字幕投影を行なった。その場でのリスピークによる字幕付与により臨場感を生かすと共に、リスピークの際に要約を行ない、字幕の読み取り易さも配慮した。
 - 3、字幕付きプラネタリウム上映会
『星の誕生』
会場 名古屋市科学館
開催日 平成 29 年 1 月 28 日（土）
※ 音声認識ソフトを用いての上映。内容はかなり高度な内容を含んでおり専門用語が多く、どのように伝えるかと言う点で苦勞した。

聴覚障害者向けIT技術向上支援事業

講座	コース	月日	時間	内容
個人指導 1人目	1日目	10月27日(木)	13:30~15:30	入門
	2日目	11月17日(木)	13:30~15:30	
	3日目	12月8日(木)	13:30~15:30	
個人指導 2人目	1日目	10月31日(月)	14:00~16:00	入門
	2日目	11月28日(月)	13:30~15:30	
	3日目	12月12日(月)	13:30~15:30	
個人指導 3人目	1日目	10月29日(土)	13:00~15:00	入門
	2日目	12月17日(土)	13:30~15:30	
個人指導 4人目	1日目	12月17日(土)	10:00~12:00	入門
	2日目	1月20日(金)	10:00~12:00	
	3日目	1月26日(木)	10:00~12:00	

【講師】 岡 麻弥 海上 実幸

テーマ	回数	月日	時間	参加人数
スマホの便利な 機能、知ってます か？	1	1月26日(木)	10:00~12:00 (Android)	12人
			13:30~15:30 (iOS)	13人
災害時や生活に 役立つ便利な アプリ	2	2月3日(金)	10:00~12:00 (Android)	11人
			13:30~15:30 (iOS)	14人
カメラやビデオの コツ、加工方法	3	3月7日(火)	10:00~12:00 (Android)	9人
			13:30~15:30 (iOS)	9人

【講師】 KDDIプリシード(株) au NAGOYA運営室
NTTドコモ『ドコモ・ハーティ講座事務局』

喉頭摘出者発声訓練講習会

(1) 期 日 毎週火曜日・土曜日

(2) 会 場 (イ) 名古屋大学病院 (毎週土曜日)
(ロ) 名古屋市立大学病院 (毎週火曜日)

(3) 受講期間 (イ) 名古屋大学病院 4 7 日 9 9 時間
(ロ) 名古屋市立大学病院 4 1 日 8 8 時間

(4) 講 師 名声会指導員

区 分	会 場	講 師
食道発声法	(イ)	野間 和男 宇佐美 昭夫 百合草 英次 平尾 敏美 高木 英 安村 清子 水谷 幸雄 喜多 章之 中村 定彦 網中 好弘
	(ロ)	野間 和男 村瀬 行男 高橋 蓋山 能田 計 小島 進 安田 晋
電気喉頭法	(イ)(ロ)	安村 清子

(5) 受講者数 (イ) 1, 1 6 1 名
(ロ) 8 9 5 名